

### 和仏法律学校講義録

鶴見, 守義

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

3-4

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

134

(発行年 / Year)

1901-07-13

明治三十四年七月十三日發行

(第參部)

三十四年度乙種講習科用

# 和佛法律學校講義錄

第 四 號

刑事訴訟法

法律學士 鶴見 守 義



A  
2  
0

0438

A5e  
25  
C4

法律學士 鶴見 守義 講述

# 刑事訴訟法

和佛法律學校發行

法律學士 鶴見 守義 講述

0439

刑事訴訟法目次

緒言.....一

第一編 總則.....四

第二編 裁判所.....五八

第一章 裁判所ノ管轄.....五九

第一節 事物ノ管轄.....六〇

第二節 土地ノ管轄.....六三

第三節 管轄裁判所ノ指定及ヒ裁判管轄ノ移送.....六八

第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避回避.....七一

第三編 犯罪ノ搜查起訴及ヒ豫審.....七六

第一章 搜查.....七六

第一節 告訴及ヒ告發.....七八

第二節 現行犯罪.....八〇

刑事訴訟法目次



174407

第二章 起訴……………八三

第三章 豫審……………八四

  第一節 令狀……………八七

  第二節 保釋及ヒ責付……………九六

  第三節 證據……………九九

  第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質……………一〇一

  第五節 檢證搜索物件差押……………一〇三

  第六節 證人訊問……………一〇六

  第七節 鑑定……………一二

  第八節 現行犯ノ豫審……………一四

  第九節 豫審終結……………一八

第四編 公判……………二六

第一章 通則……………二六

  第一節 受訴……………二七

  第二節 對審裁判……………二七

  第三節 口頭審理……………二九

  第四節 公開……………二九

  第五節 辯護權……………三〇

  第六節 審理前ノ手續……………三二

  第七節 審理手續……………三四

  第八節 裁判……………四八

  第九節 審理後ノ手續……………八九

第二章 區裁判所公判ニ特別ナル規則……………九一

第三章 地方裁判所公判ニ特別ナル規則……………九二

第五編 上訴……………九三

第一章 通則……………九四

第二章 控訴……………九七

第三章 上告……………二一九

第四章 抗告……………二三四

第六編 再審……………二三八

第七編 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續……………二四六

第八編 裁判執行、復權及ヒ特赦……………二四八

第一章 裁判執行……………二四八

第二章 復權……………二五三

第三章 特赦……………二五五

刑事訴訟法目次終

刑事訴訟法

法律學士 鶴見 守義 講述

緒言

刑事訴訟法ハ訴權裁判管轄證據並ニ訴訟手續等ノ事ヲ規定セリ故ニ該法ノ講義モ亦隨テ訴權裁判管轄證據並ニ訴訟手續等ノ規定法理ヲ研究スルニ在リ

刑事訴訟法ノ目的トスル所ハ犯罪人ヲ處罰スルノ必要ト犯罪人ヲ保護スルノ擔保トヲ調和スルニ在リ故ニ犯罪人ヲ處罰スルコトノミヲ見テ犯罪人ノ利益ヲ顧ミサルハ良法ニ非ス又犯罪人ノ利益ノミヲ見テ犯罪人ヲ處罰スルノ必要ヲ顧ミサルモ亦良法ト云フヲ得ス

本法ノ講義ハ現行刑事訴訟法ノ順序ニ從ヒ之ヲ爲スヘシ依テ講義ヲ八編十五

章ニ分チテ之ヲ爲スヘキモ第三編第三章ニハ少ク變更ヲ加ヘ其第二節ニ保釋責付ノ事ヲ講シ其第九節ニ於テ豫審終結ノ事ヲ講述セシ故ニ本法講義目錄ハ左ノ如シ

第一編 總則

第二章 裁判所

第一章 裁判所ノ管轄

第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避回避

第三編 犯罪ノ搜查起訴及ヒ豫審

第一章 搜查

第一節 告訴及ヒ告發

第二節 現行犯罪

第二章 起訴

第三章 豫審

第一節 令狀

第二節 保釋責付

第三節 證據

第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質

第五節 檢證搜索及ヒ物件差押

第六節 證人訊問

第七節 鑑定

第八節 現行犯ノ豫審

第九節 豫審終結

第四編 公判

第一章 通則

第二章 區裁判所公判

第三章 地方裁判所公判

第五編 上訴

第一章 通則

第二章 控訴

第三章 上告

第四章 抗告

第六編 再審

第七編 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

第八編 裁判執行復權及ヒ特赦

第一章 裁判執行

第二章 復權

第三章 特赦

右ノ如ク順序ハ現行法ノ規定ニ從フト雖モ敢テ逐條講義ヲ爲サント欲スルニ非サレハ予ハ右ノ順序ニ從ヒ法理的ノ講義ヲ爲サント欲ス

### 第一編 總 則

本編ニ於テ講述スヘキコトハ種種アリト雖モ其中ニ就キ先ツ公訴私訴ノ事ニ

關シ講述セシ

公訴私訴ノ事ハ裁判管轄訴訟手續等ノ前ニ規定スルコト必要ナリ何トナレハ訴訟ノ提起ナケレハ裁判所ハ受理審判スルノ要ナケレハナリ

訴權ハ必ス權利ニ伴フ權利ナクシテ訴權ノミアルノ理ナク又權利ニシテ訴權ナキモノナシ故ニ法律上權利ト稱スルモノニハ必ス訴權ノ附隨スルモノナリ例ヘハ他人ニ金錢ヲ貸與シタル者ハ債權ト稱スル一ノ權利ヲ有セリ而シテ此債權ナル權利ニハ必ス訴權ノ附隨スルモノナリ故ニ債務者ニシテ若シ其債務ノ辨濟ヲ爲ササルトキハ債權者ハ裁判所ニ請求シテ其辨濟ヲ求ムルノ權利ヲ有ス若シ債權者ニシテ裁判上請求スルノ權利即チ訴權ナシトセンカ其債權ナル權利ハ遂ニ其效用ヲ喪失スルニ至ラン社會即チ國家カ刑罰權ヲ有スルヤ否ヤハ一大問題タリ然レトモ今日開明各國ノ法律ニ於テハ何レモ社會即チ國家カ刑罰權ヲ有スルコトヲ認メ居レリ即チ我刑事訴訟法ニ於テモ公訴權ノ存在ヲ認メタレハ其本タル刑罰權ヲ社會即チ國家カ有スルコトヲ是認シタルコト明カニシテ刑法其他諸罰則ニ於テ既ニ犯罪人ヲ罰スルノ規定ヲ設ケラレタリ



犯罪即チ刑法其他諸罰則ニ於テ處罰セラルヘキ行爲ニ因リテ左ノ二個ノ權利ヲ發生ス

第一 犯罪人ヲ罰スル社會ノ權利

第二 損害賠償ヲ目的トシタル被害者ノ權利

犯罪アレハ右第一ノ權利ハ必ス發生スルモノナリ何トナレハ刑法其他諸罰則ニ違背シタル行爲ハ必ス公益ヲ害スルモノナレハ其行爲アルヤ社會ハ必ス其行爲ヲ爲シタル者ヲ訴追シ即チ公訴權ヲ行使シテ之ヲ懲罰セラルヘカラス故ニ犯罪アレハ右第一ノ權利ハ必ス發生スヘシト雖モ右第二ノ權利ハ犯罪アレハ必ス發生スヘキモノニ非スシテ時トシテ發生スルモノナリ何トナレハ刑法其他諸罰則ニ違背シタル行爲ハ常ニ公益ヲ害スヘキモ個人ノ利益ニ至テハ常ニ之ヲ害セス時トシテ之ヲ害スルコトアルヲ以テ其之ヲ害シタルトキハ個人ノ爲メ犯罪人ヲ訴追スル權利發生ス私訴權即チ是ナリ此私訴權ハ民法上ノ權利ニ外ナラサルモノナリ然レトモ私益ヲ害セサルトキハ個人カ犯罪人ヲ訴追スル權利ハ發生セス例ヘハ甲者乙者ノ宅ニ忍ヒ入り金百圓ヲ竊取シタルトキ

ハ右第一ノ權利ノ發生スルハ勿論第二ノ權利モ共ニ發生スヘシ即チ社會ハ甲者ヲ罰スルノ權利ヲ有シ乙者モ亦甲者ニ對シ金百圓ノ辨償ヲ求ムルノ權利ヲ有セン然レトモ甲者カ乙者ニ見咎メラレ竊取ノ行爲ヲ達セスシテ逃走シタルトキハ社會ハ甲者ヲ罰スルノ權利ヲ有スヘキモ乙者ハ甲者ニ對シ損害賠償ヲ求ムルノ權利ヲ有セサルヘシ

今茲ニ公訴私訴ノ定義ヲ下セハ

公訴トハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スル爲メ社會ノ利益ノ爲メニ社會ノ名ヲ以テ行フ所ノ裁判上ノ請求權ナリ

私訴トハ損害ノ賠償ヲ求ムル爲メ被害者カ行フ所ノ裁判上ノ請求權ナリ右定義ハ刑事訴訟法第一條第二條ノ規定スル所ト畧ホ同一ナリトス

公訴私訴ハ互ニ獨立シタル訴權ニシテ左ニ講述スル如キ差異アリ

一 公訴私訴ハ共ニ犯罪ヨリ生スルモ其原因異ナレリ即チ公訴ハ公益ヲ害スル所ヨリ生シ私訴ハ私益ヲ害スル所ヨリ生セリ

二 公訴ト私訴トハ其目的ニ於テ異ナル所アリ即チ公訴ハ刑ノ適用ヲ目的ト

シ私訴ハ損害ノ賠償ヲ目的トス

三 公訴ト私訴トハ之ヲ有スル所ノ人異ナレリ即チ公訴ハ社會ニ屬シ私訴ハ被害者ニ屬ス

公訴ハ社會ニ屬スルモ社會ハ法人即チ無形人ナルヲ以テ自ラ之ヲ實行スル能ハス故ニ之ヲ實行スル爲メ特ニ一種ノ官ヲ設ク檢事ノ制度即チ是ナリ時トシテ司法官試補警察官領事館ノ役員カ公訴ヲ行フコトアレトモ是レ皆法律カ檢事ノ職務ヲ此等ノ官吏ニ行ハシムルニ外ナラス羅馬時代ニ於テハ竊盜ノ如キ犯罪ノ種類ニ依リテハ被害者ニ非サレハ訴追スルコトヲ許サザリシコトアリ今尙ホ英國ニ於テハ或種ノ犯罪ニ付テハ被害者ニ非サレハ訴追スルコトヲ許ササルモノアリト聞ク然レトモ大陸列國ノ法律ニ於テハ公訴ハ檢事獨リ之ヲ行フモノト爲シタリ

公訴ト私訴トハ其目的異ナリ又之ヲ有スル所ノ人モ異ナル所ヨリ刑事訴訟法第三條ノ如キ規定生スルモノナリ即チ被害者ノ告訴ナキモ公訴ハ起リ告訴私訴ノ拋棄アルモ公訴ハ消滅スルモノニ非ス故ニ竊盜ノ被害者ニ於テ告訴ヲ爲

ササルモ檢事ハ其犯罪人ニ對シ公訴ヲ提起スルヲ得ヘク又公訴提起後被害者ニ於テ告訴又ハ私訴ヲ取下ケタリト雖モ檢事ノ起シタル公訴ハ依然裁判所ニ繫屬スルカ故ニ裁判所ハ之ニ對シ相當ノ裁判ヲ與ヘサルヘカラス

右ハ一般ノ原則タリ然ルニ此原則ニ一ノ例外ナキニ非ス其例外ハ刑法ニ定メラレタル親告罪(脅迫罪、畧取誘拐罪、猥褻姦淫罪、誹毀罪、牛馬以外ノ家畜ヲ殺ス罪、罵詈訾弄ノ罪)並ニ稅關法間稅國稅處分法ニ違背シタル罪ニ付テハ被害者ノ告訴又ハ稅務官ノ告發ナケレハ公訴ハ起ラサルモノトス故ニ此等ノ犯罪アルコトヲ認知スルモ告訴告發ナケレハ檢事ハ起訴スルノ權ナキモノナリ又親告罪ニ付キ告訴ニ基キ檢事カ公訴ヲ提起シタル後被害者カ告訴ヲ取下ケタルトキハ公訴ハ消滅スルヲ以テ裁判所ハ之ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲ササルヘカラ

四 公訴ハ犯罪人其者ニ對シテノミ之ヲ爲スヘキモノナルモ私訴ハ犯罪人ニ對シテハ勿論其相續人又ハ民事擔當人ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

五 公訴ト私訴トハ之ヲ受理審判スル裁判所ニ付テ差異アリ即チ公訴ヲ受理

審判スルハ刑事裁判所ノミニ限ルモ私訴ヲ受理審判スルハ刑事裁判所ノミニ限ラス民事裁判所モ亦之ヲ受理審判スルコトヲ得ヘシ  
 私訴ヲ刑事裁判所ニ爲スト民事裁判所ニ爲ストハ被害者ノ隨意ナリ今茲ニ私訴ヲ刑事裁判所ニ爲スト民事裁判所ニ爲ストニ因リ大ナル差異アルコトヲ説カン即チ

(イ) 私訴ヲ民事裁判所ニ爲ストキハ金額ノ多寡ニ依リ裁判所ノ管轄ヲ異ニス即チ百圓ヲ超過セサル私訴ナルトキハ區裁判所ノ管轄ニ屬シ百圓ヲ超過シタル私訴ナルトキハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スト雖モ私訴ヲ刑事裁判所ニ爲ストキハ其百圓ヲ超過シタルト否トヲ問ハス公訴ヲ審判スル裁判所ノ管轄ニ屬スルモノナリ故ニ公訴カ區裁判所ノ管轄タル場合ニ於テハ私訴ノ金高ハ百圓以上ナルモ區裁判所ニ於テ之ヲ審判スヘク公訴カ地方裁判所ノ管轄ナルトキハ私訴ノ金高ハ假令百圓未滿ナルモ地方裁判所之ヲ審判セサルヘカラス

(ロ) 私訴ヲ民事裁判所ニ爲ストキハ必ス第一審裁判所ニ之ヲ爲ササルヘカラサルモ刑事裁判所ニ爲ストキハ第一審ヲ經スシテ第二審ニ至リ其判決アルニ至

ルマテ何時ニテモ之ヲ提起スルコトヲ得ヘシ是レ刑事訴訟法第四條第一項ニ規定スル所ニシテ第一審裁判ヲ受クルノ利益ヲ奪フノ讒ハ免レサルヘキモ實際ニ於テハ當事者ノ爲メ最モ便利ナル規定ナリトス

(ハ) 私訴ヲ民事裁判所ニ爲ストキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ訴狀ヲ作成シ又民事訴訟印紙法ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサルヘカラサルモ之ヲ刑事裁判所ニ爲ストキハ訴狀ヲ作成スルニ付テモ別段ノ方式ナク又印紙ノ貼用ヲ爲スニモ及ハサルモノトス

(ニ) 民事裁判所カ私訴ノ裁判ヲ爲スニハ總テノ攻撃防禦ノ方法ニ對シ逐一理由ヲ付セサルヘカラサルモ刑事裁判所カ私訴ノ裁判ヲ爲スニハ右ノ方法ニ對シ一理由ヲ付スルニ及ハサルモノトス  
 右ノ如ク公訴ト私訴トハ互ニ獨立シタルモノナルモ又互ニ相密着シタル關係ヲ有セリ故ニ

一 私訴ハ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ之ヲ提起シ同裁判所ノ裁判ヲ受クルコトヲ得ヘシ

二 私訴ニ付テモ公訴ニ付テモ時効ノ期間及ヒ其中斷ノ方法ハ同一ナリ

三 公訴ノ裁判ハ私訴ノ裁判ニ對シ其影響ヲ及ホスモノナリ

右ニ付キ詳細ノ事ハ後ニ至テ講述スヘシ

尙ホ進シテ公訴私訴ノ講義ヲ左ノ三段ニ分テ詳説セン

一 公訴權及ヒ私訴權ノ權利自體ニ付テ

二 公訴權及ヒ私訴權ノ行使

三 公訴權及ヒ私訴權ノ消滅

第一 公訴權及ヒ私訴權ノ權利自體

先ツ公訴權ニ付テ講述センニ

一 犯罪人ヲ處罰スル爲メ犯罪ヲ訴追スル所ノ刑事上ノ訴權即チ公訴ハ左ノ二個ノ性質ヲ具有セリ

一 公ノ訴權ナルコト即チ社會ノ訴權ナルコト

二 總テノ犯罪ヨリ生スル必要ニシテ且ツ避クヘカラサル結果ナルコト

二 國家ハ社會ノ安寧秩序ヲ保護スル義務ヲ有セリ故ニ犯罪アルトキハ其犯

罪人ヲ逮捕シテ之ヲ處罰スルノ責任アリ此責任ヲ全ウスル爲メ即チ犯罪ヲ捜索シ且ツ犯罪人ヲ訴追スル爲メ檢事ノ制度ヲ設ケ公訴權ヲ執行ヲ總テ檢事ニ委嘱シタリ刑事裁判所ハ公訴ヲ審判スル裁判所ナレバ其公訴ヲ行フ所ノ檢事ナカルヘカラス故ニ刑事裁判所ハ檢事ナケレハ完全ナラサルモノトス檢事ハ一體不分ノ官タリ即チ下區裁判所ノ檢事ヨリ上司法大臣ニ至ルマテ互ニ其聯絡ヲ通シ上官ハ配下ノ檢事ヲ監督シ配下ノ檢事ハ上官ノ命令ニ從ヒ凡百ノ處分舉ケテ一途ニ出ツ又檢事ノ數ハ多シト雖モ孰レモ社會ノ代表者ト爲ルヲ以テ一檢事ノ行フ所ハ其誰タルヲ問ハス委任者タル社會ノ行フ所タリトス故ニ事件ノ審理中檢事ニ更替アルモ辯論ヲ更新スル必要ナク又一檢事ノ爲シタル公訴ニ付キ裁判アリタル以上ハ檢事其人ヲ異ニスルモ同一事件ニ付テハ再ヒ公訴ヲ提起スルコト能ハサルモノトス

三 公訴權ハ社會即チ國家ニ屬スルモノニシテ檢事ニ屬スルモノニ非ス檢事ハ社會即チ國家ヨリ公訴權ノ執行ヲ委嘱セララルモノナリ故ニ公訴提起前ハ在テハ公訴ヲ提起スルト否トハ一ニ檢事ノ職權ニ屬スト雖モ一旦公訴ヲ提起

シタル上ハ檢事ハ公訴ヲ處分スルノ權ナシ公訴ヲ處分スルノ權ヲ有スルモノ  
 ハ獨リ社會ナリトス故ニ社會ハ法律ヲ以テ大赦又ハ時効ノ規定ヲ設ケ公訴ノ  
 消滅スルコトヲ許シタリ又檢事ハ訟廷ニ立會ヒ公訴ヲ維持セサルコトヲ申立  
 ツルコトハ得ヘキモ公訴ヲ取下ケ或ハ公訴ニ付キ私訴ヲ爲シ又ハ豫メ上訴權  
 ヲ拋棄スルノ權ナキモノトス

四 公訴權ノ執行ニハ犯罪人ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲サシムル爲メ必要ナル總  
 ノ行爲ヲ包含セリ故ニ檢事ハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ヘシ

一 管轄裁判所又ハ豫審判事ニ起訴スルコト

二 證據調ノ申請ヲ爲スコト

三 事實及ヒ法律適用ニ付キ意見ヲ陳述スルコト

四 上訴ヲ爲スコト

五 公訴ヲ惹起スルコトト公訴ヲ執行スルコトトハ同一ノモノニ非ス故ニ檢  
 事ハ常ニ公訴執行ノ責ニ任スヘケレトモ公訴ヲ惹起スルコトハ檢事ニ限リ之  
 ヲ爲スヘキモノナリト云フヲ得ス普通一般ノ場合ニ於テハ檢事カ公訴ヲ惹起

スルハ當然ナリト雖モ現行犯附帯犯訟廷内ノ犯罪ニ付テハ檢事ノ起訴ナキモ  
 公訴ハ惹起セラルルモノナリ此等ノ場合ニ於テモ公訴ノ執行ヲ爲スハ檢事ノ  
 責任ナリトス右犯罪ニ付キ檢事ノ起訴ナクシテ公訴ノ惹起セラルルモノナル  
 コトハ尙ホ後ニ至リテ詳説スヘシ

六 公訴權ハ何人ニ對シテ之ヲ行フヘキモノナルヤ公訴權ハ獨リ犯罪人ニ對  
 シテノミ之ヲ行ヒ其他ノ者ニ對シテハ之ヲ行フノ道理ナシ何トナレハ犯罪ハ  
 犯罪人ニ固有ノモノニシテ之ニ付キ他ニ擔保ノ責ニ任スヘキモノナケレハナ  
 リ故ニ野蠻ノ法律ニ於テハ之レアルヘキモ開明國ノ法律ニ於テハ公訴ハ犯罪  
 人ノ親屬相續人、民事擔當人等ニ對シ之ヲ行フコトナシ但シ公訴ノ判決ニ於テ  
 民事擔當人ニ對シ言渡ヲ爲スコトアレハ是レ公訴裁判費用負擔ノ點ノミニ限  
 ルヘシ

是レヨリ私訴權ニ付キ講述スヘシ

一 損害ヲ生スル所ノ犯罪ニ非サレハ私訴權ヲ生スルモノニ非ス故ニ謀殺  
 毆打創傷竊盜詐欺取財ノ罪ノ如キハ其性質上損害ヲ生シ得ヘキ犯罪ナルヲ以

テ私訴權ヲ生スヘシト雖モ囚徒逃走監視規則違反貨幣偽造賭博罪ノ如キハ其性質上損害ヲ生シ得ヘキ犯罪ニ非サルヲ以テ私訴權ヲ生スルコトナシ  
 民法上ノ犯罪準犯罪ヨリ損害賠償ノ訴權ヲ生スルコトアルモ此訴權ハ私訴權トハ異ナレリ何トナレハ私訴權ハ刑法上ノ犯罪ヨリ生スルモノニシテ被告即チ債務者ハ刑法上ノ犯罪人タリト雖モ民法上ノ犯罪準犯罪ヨリ生スル訴權ニ付テハ被告即チ債務者ハ刑事上ノ犯罪人ニ非サレハナリ  
 二 前項ニ講述シタル所ヲ以テ私訴權ノ本ハ損害ニ在ルコトヲ推知スルニ足ラン實ニ損害ハ私訴權ノ唯一ノ原因タリ  
 故ニ私訴權ノ發生ニハ左ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス  
 (イ) 損害ノ生シタルコト 前項ニ講述シタル 竊盜詐欺取財ノ罪ノ如ク其性質上損害ヲ生シ得ヘキ犯罪タリト雖モ未タ損害ヲ生セサル場合ニ於テハ私訴權ヲ生スルコトナシ右犯罪ノ既遂ノトキハ損害ヲ生スルヲ以テ常ニ私訴權ヲ生スルモ未遂ノ場合ニ在テハ未タ損害ヲ生セサルヲ以テ私訴權ヲ生スルコトナ

損害ニハ資産ノ損害ヲモ包含スルモノナリ故ニ金銭ニ見積リ得ヘキ損害ハ勿論金銭ニ見積リ得サル生命健康自由名譽ノ損傷ノ如キ無形上ノ損害ト雖モ私訴權ノ原因タルコトヲ得ヘシ此終リノ損害ハ金銭ニ見積ルコト困難ナルヘシ  
 下雖モ其困難ナルノ故ヲ以テ私訴權ヲ生セスト主張スルヲ得サルヘシ  
 (ロ) 損害ノ現實ナルコト 即チ成就シタルコト例ヘハ毆打ニ因リテ被リタル創傷ノ爲メ疾病休業百日ヲ要スヘシトノ醫師ノ鑑定アリト雖モ百日ヲ經過セサル以前ニ在テハ其百日間ノ藥價ヲ請求シ得サルカ如シ  
 (ハ) 損害カ原告ニ固有ナルコト 例ヘハ隣人ノ被リタル損害ノ爲メ予カ私訴權ヲ有セサルカ如シ  
 (ニ) 犯罪カ損害ノ唯一タル真正ノ原因ナルコト 故ニ他ニ損害ノ原因タルヘキモノアルニ於テハ其責ヲ犯罪人ニ負ハシムルコト能ハス例ヘハ人ヲ毆打シ疾病休業二十日ニ至ラシメタル者アルニ當リ醫師カ治療ノ方法ヲ誤リタル爲メ被害者ハ終ニ死亡シタリトセンカ此場合ニ於テハ疾病休業二十日ニ至リタル爲メ生シタル損害ニ付テハ犯罪人ハ之ヲ賠償スルノ義務アリト雖モ死亡ノ爲

生シタル損害ニ付テハ犯罪人ハ之ヲ賠償スルノ義務ナカルヘシ何トナレハ死亡ノ爲メ生シタル損害ニ付テハ犯罪カ唯一且ツ真正ノ原因ニ非サルヲ以テナリ

(ホ) 損害カ犯罪ヨリ直接ニ生シタルコトニ私訴ノ目的ハ犯罪ヨリ直接ニ生シタル損害ヲ賠償セシムルニ在リ故ニ假令罪ノ爲メ生シタル離婚相續廢除ノ訴タリト雖モ右ハ犯罪ヨリ直接ニ生シタル損害ノ賠償ニ非サルヲ以テ私訴ト云フヲ得ス

三 損害ノ賠償ハ先ツ一般ニ金錢ヲ以テ之ヲ賠償スルニ在リ而シテ其賠償ハ加ヘタル損失ト失ヒタル利益トヲ包含スルモノナリ

然レトモ物ヲ舊狀ニ回復スルコトモ亦損害賠償ノ一方法ナリトス物ヲ舊狀ニ回復スルトハ物ヲ犯罪前ノ形狀ニ回復スルニ在リテ贓物ノ返還或行爲ノ取消ノ如キコトヲ云フ

裁判費用負擔ノ如キモ亦損害賠償ノ一種ナリトス

四 犯罪ニ因リテ損害ヲ受ケタル者ハ一人ト法人トヲ問ハス私訴權ヲ有スル

モノナリ

此損害ヲ受ケタル者ハ私訴ノ執行權ヲ有スルハ勿論處分權ヲモ併有スルモノナリ故ニ私訴權ヲ讓與拋棄シ又ハ私和スル權利アリトス

五 私訴ヲ爲シ得ヘキ者ハ左ノ如シ

(イ) 被害者 己ノ身體ニ直接害ヲ受ケタル者カ民事原告人ト爲リ私訴ヲ提起シ得ルハ勿論ナリト雖モ直接身體ニ害ヲ受ケタル者ニ非サルモ私訴ヲ提起シ得ルコトアリ例ヘハ名譽若クハ資産ニ害ヲ受ケ或ハ我子カ害ヲ受ケタルトキハ民事原告人ト爲リ私訴ヲ提起スルコトヲ得ルカ如シ

(ロ) 犯罪ニ因リテ損害ヲ受ケタル者ノ相續人ハ私訴權ヲ有スルヤ否ヤ此問題ニ付テハ場合ヲ分チテ之ヲ講述セン

甲 犯罪カ被害者ノ死亡前ニ在ルトキ 犯罪カ死者ノ資産ニ害ヲ加ヘタルトキハ相續人ハ直接ニ害ヲ受ケタル者ナルカ故ニ相續人ハ自己ノ名義ヲ以テ又ハ相續人ノ資格ニ於テ民事原告人ト爲リ私訴ヲ提起スルコトヲ得ヘ

犯罪カ死者ノ健康自由ニ害ヲ加ヘタル場合ニ於テモ相續人ハ民事原告人ト爲

ヲ私訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ何トナレハ此場合ニ於テモ犯罪カ其先代ニ金  
 錢ニ見積ルヘキ損害又ハ無形上ノ損害ヲ加ヘ其損害ヲ受クル者ハ結局相續人  
 ナレハナリ

犯罪カ死者ノ名譽ヲ害シタルトキハ如何例ヘハ誹毀ノ如ク人ノ名譽ヲ害スヘ  
 キ犯罪アリタル場合ニ於テハ相續人ハ其犯罪人ニ對シ相續人ノ資格ヲ以テ私  
 訴ヲ提起スルノ權ナカルヘシ何トナレハ此ノ如キ犯罪アリタルカ爲メ相續人  
 ハ害ヲ受クルコトナカルヘク又死者カ其生前ニ私訴ヲ爲サザリシハ其權利ヲ  
 拋棄シタルモノト看做スコトヲ得ヘケレハナリ然レトモ死者カ生前ニ私訴ヲ  
 提起シ置キタルトキ相續人ハ之ヲ續行スルコトヲ得ルハ論ヲ竣タス

乙犯罪カ死ノ原因タリシトキ 例ヘハ謀故殺毆打致死罪ノ如ク人ヲ死ニ致  
 スヘキ犯罪アリタル場合ニ於テ其犯罪ノ爲メ被害者ノ死亡シタルトキハ相續  
 人ハ其犯罪人ニ對シ私訴權ヲ有スルモノナリ何トナレハ此場合ニ在テハ犯罪  
 ノ爲メ相續人ハ其資産ニ害ヲ受クルヲ以テナリ尙ホ此場合ニ於テハ相續人ナ  
 ラサルモ民事原告人タルコトヲ得ヘキ者アリ例ヘハ未亡人扶養ヲ受クル權利

ヲ有スル尊屬親ノ如キ是ナリ何トナレハ此等ノ者ハ相續人ナラサルモ右犯罪  
 ノ爲メ資産ニ害ヲ受クルヲ以テナリ

(ハ)犯罪カ被害者ノ死亡後ニ在ルトキ 死者ニ對シ誹毀ヲ爲シタルトキハ相續  
 人ハ犯罪人ニ對シ私訴ヲ爲スコトヲ得ヘキカ若シ其犯罪カ經罔ニ出テ其目的  
 相續人即チ死者ノ遺族ヲ害スルニ在レハ相續人ハ私訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ何  
 トナレハ此場合ニ於テハ相續人自身カ誹毀セラレタル者ニシテ其被害者タル  
 ヘキヲ以テナリ

六 私訴ヲ行フ人ノ能力ノ事ハ民法ノ規定ニ從ハサルヘカラス何トナレハ私  
 訴權ハ民法上ノ一ノ權利ニシテ刑事訴訟法上民事原告人ノ能力ノ事ニ付キ別  
 ニ民法ニ異ナル規定ノ設ナキヲ以テナリ

七 私訴ハ何人ニ對シ之ヲ行フコトヲ得ヘキヤ

犯罪ヨリ生シタル損害ヲ賠償スル義務アル者ハ即チ左ノ如シ

(イ)加害者 他人ニ有形又ハ無形ノ損害ヲ加ヘタル者ハ其故意ヲ以テ損害ヲ加  
 ヘタルト其注意ヲ怠リタルニ因リ損害ヲ加ヘタルト問ハス損害ヲ賠償スル



義務アリ

人ニ損害ヲ加フルモ識別心ナク又自由ナキ者ハ之ヲ賠償スルノ義務ナシ例ハ白痴癡癩未成年者ノ如キハ自ラ賠償スルノ責任ヲ有セス此場合ニ賠償ノ責任ヲ有スル者ハ其後見人保佐人ノ如キ法律上監督ノ義務アル者ニアルモノニシテ此等ノ者ハ己ノ財産ヲ以テ其賠償ヲ爲ササルヘカラス

又假令人ニ損害ヲ加フルモ自己ノ權利ノ執行ナルトキハ犯罪ヲ構成セス又損害ヲ賠償スルノ義務ナカルヘシ故ニ例ハハ人ヲ殺傷スルモ正當防衛ナルトキハ刑事ノ制裁ヲ受クルノ責ナク又損害ヲ賠償スルノ義務ナキモノナリ

(ロ) 民事擔當人 民事上ト刑事上トヲ問ハス己ニ固有ノ所爲ニ對スルニ非サレハ何人ト雖モ其責任ナキモノナリ然ルニ民事擔當人ハ他人ノ爲シタル行爲ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責任アルカ故ニ民事擔當人カ賠償ノ義務アルハ右原則ノ例外ナルカ如シト雖モ右ハ其例外ニハ非スシテ却テ原則ノ適用ナリトス何トナレハ民事擔當人ハ其不注意ノ爲メ人ニ損害ヲ加ヘタル過失アリテ此過失ハ民事擔當人ニ固有ノモノナレハ賠償ノ義務ヲ生スルニ於テ十分價值

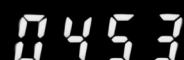
アル原因タルヘキヲ以テナリ

(ハ) 加害者又ハ民事擔當人ノ相續人 私訴ニ對シ損害ヲ賠償スルノ義務ハ民事上ノ義務ナルヲ以テ相續人カ先代ノ義務ヲ繼承シテ之ヲ盡スハ當然ノコトナリトス

第二 公訴權及ヒ私訴權ノ行位

先ツ公訴權ノ行使ニ付テ講述セシ

公訴權ノ行使ハ檢事ニ一任セラレタリ故ニ公訴ヲ行ヒ犯罪ヲ訴追スルト之ヲ訴追セサルトハ其職權内ニ在リ又公廷ニ立テ公訴ヲ維持スルト之ヲ維持セサルトモ其職權内ニ在リトス此點ヨリ觀察スルトキハ檢事ノ職モ亦獨立ノ職ナリト云フヲ得然レトモ訴追ノ權利ヲ全ク無制限ノモノタラシムルハ甚タ危険ナルカ故ニ檢事ノ獨立ニ對シテハ或制限ヲ加ヘラル即チ檢事ハ上官ノ命令ニ依レハ其意ニ反スルモ公訴ヲ提起セサルヘカラス又檢事カ或犯罪ニ對シ不起訴ノ處分ヲ爲シタルトキハ告訴人ハ上級審ノ檢事ニ抗告ヲ爲スノ途ヲ開キ



又茲ニ檢事ト雖モ法律上訴追ヲ爲スヘカラサル場合アリ此場合ハ即チ被告事件カ罪ト爲ラサルカ又ハ公訴受理スヘカラサルモノナル場合ナリト被告事件カ罪ト爲ラサルトハ正當防衛親族相盜ノ場合ノ如キ即チ是ナリ又公訴受理スヘカラサル場合トハ親告罪ニ付キ告訴ナク告發ヲ埃テ起訴スヘキ事件ニ付キ告發ナキ場合ノ如キ即チ是ナリ

是ヨリ私訴權ノ行使ニ付テ講述スヘシ  
 犯罪アルトキハ茲ニ二個ノ訴訟アリ即チ一ハ刑事訴訟ニシテ一ハ民事訴訟ナリトス而シテ刑事裁判所ハ刑事訴訟ヲ審判シ民事裁判所ハ民事訴訟ヲ審判スルヲ以テ原則トスレトモ犯罪ノ證據カ民事訴訟ノ目的タル損害賠償ノ原因及ヒ數額ヲ定ムル爲メ必要ナルコト甚タ多キカ故ニ右原則ニ例外ヲ措キ刑事裁判所ニ民事訴訟即チ私訴ノ審判ヲ爲スコトヲ許セリ然レトモ私訴ノ審判ヲ刑事裁判所カ爲スコトヲ許シタルカ爲メ民事原告人ニ對シテ民事裁判所ニ訴訟ヲ爲スノ權ヲ奪フノ理ナシ故ニ民事原告人ハ刑事裁判所ニ訴フルト民事裁判所ニ訴フルトニ付テ擇一ノ權利アルモノトス

刑事裁判所モ民事裁判所ト同シク訴ナケレハ之ヲ審判セサルヲ以テ其原則トセリ然レトモ贓物カ犯罪人ノ手ニ現存シタルトキハ被害者ノ請求ナキモ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ還付スルノ言渡ヲ爲ササルヘカラス刑法第四八條第二〇二條是レ蓋シ被害者ノ明カナル場合ニ在テハ贓物ハ之ヲ沒收スル能ハス又犯罪人ニ之ヲ還付スルハ妥當ナラサルヲ以テ被害者ノ請求ヲ埃タス之ヲ還付スルノ規定ヲ設ケタルモノナラン

以下私訴ヲ刑事裁判所ニ提起スルノ方式要件期間並ニ其效果ニ付テ講述スヘシ  
 一 方式 私訴ヲ刑事裁判所ニ提起スルニ付テハ別段ノ方式アルコトナク通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ其訴ハ當事者及ヒ其請求ノ趣意ヲ知ルニ足レハ可ナリトス刑法附則第六一條

二 要件 刑事裁判所ニ私訴ヲ提起スルニハ公訴ニ附帶スルヲ唯一ノ條件ナリトス何トナレハ刑事裁判所カ私訴ヲ審判スルハ例外ニ屬スルヲ以テナリ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ提起シタル上ハ公訴ニ對シ免訴無罪ノ言渡アルモ刑事裁判所ハ私訴ニ對シ裁判ヲ與ヘサルヘカラス(第二二五條)

又公訴ノ判決ニ對シテハ上訴スル者ナクシテ第一審限リ確定シ私訴ノ判決ニ對シテハ上訴アリタルトキハ上訴裁判所ハ私訴ノミニ付キ審判ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ私訴ハ獨立シテ進行スルモノナリ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ提起シタル後被告人即チ犯罪人カ死去シタルトキハ刑事裁判所ハ私訴ニ付キ審判ヲ爲スヘキヤ此問題ニ對シテハ審判ヲ爲ササルヘカラスト主張スル論者ト審判ヲ爲ス能ハスト主張スル論者ト兩立スルノ外第三説トシテ第一審判決ノアリシ後被告人カ死去シタルト其以前ニ被告人カ死去シタルトハ區別シ第一審判決アリタル後死去シタルトキハ第二審刑事裁判所ハ私訴ノ控訴ヲ審判スヘク第一審判決以前ニ死去シタルトキハ第一審刑事裁判所ハ私訴ノ審判ヲ爲スヲ得スト主張スル論者アリ我現行法ニ於テハ右第三説ノ如ク被告人カ第一審判決ノアリタル後死去シタルトキハ第二審刑事裁判所ハ私訴ノ審判ヲ爲ササルヘカラサルモ被告人カ第一審判決前ニ死去シタルトキハ刑事裁判所ハ私訴ニ付キ審判ヲ爲スノ權利ナカルヘシ何トナレハ刑事訴訟法第二百二十五條ニ依レハ刑事裁判所ハ被告人ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲ス場合ト免訴無罪ノ言渡ヲ爲ス場

合トテ間ハ私訴ニ付キ判決ヲ爲ササルヘカラスト雖モ被告人カ死去シタル場合ノ如キハ同條ニ包含セラレサルヲ以テナリ

三期間 私訴ヲ刑事裁判所ニ爲スニハ公訴ノ繫屬中ナルコトヲ要ス公訴ノ提起アリタル上ハ第一審ノ判決アルニ至ルマテ何時ニテモ私訴ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論第二審ノ判決アルニ至ルマテハ何時ニテモ第二審裁判所ニ私訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ第一審ヲ經スシテ第二審ニ至リ直チニ私訴ヲ爲スコトヲ許スノ利害得失ニ付テハ已ニ前ニ講説シタル所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス

四 效果 私訴ヲ刑事裁判所ニ提起シタル效果ハ民事原告人ヲシテ被告人ノ對手人タラシムルニ在リ故ニ其效果トシテ

(イ) 訴訟ノ重要ナルコトハ民事原告人ニ通知スルコトヲ要スヘク  
(ロ) 民事原告人ハ公訴事件ニ付キ證人ト爲ルコト能ハス

民事原告人ハ一旦提起シタル私訴ヲ取下クルコトヲ得ヘシ是レ民事原告人ハ私訴ニ付キ處分權ヲ有スルヲ以テノ故ナリ然レトモ民事原告人ハ一旦取下ケタル私訴ヲ再ヒ提起スルコトヲ得ヘキヤ余ハ再ヒ之ヲ提起シ得ヘシト信スル者

ナリ何トナレハ刑事訴訟法上別ニ之ヲ禁スル明文ナキヲ以テナリ  
 民事原告人ハ刑事裁判所ニ爲シタル私訴ヲ取下ケ更ニ民事裁判所ニ之ヲ提起  
 シ又ハ民事裁判所ニ爲シタル私訴ヲ取下ケ更ニ刑事裁判所ニ之ヲ提起スルコ  
 トヲ得ヘキヤ余ハ之ヲ爲シ得ヘシト信ス何トナレハ民事訴訟法第二百二條ニ  
 前訴訟費用抗辯ノ規定アルヲ以テ見ルモ民事ニ於テハ一旦取下ケタル訴ト雖  
 モ再ヒ之ヲ爲シ得ルコト明カニシテ刑事ニ於テハ前訴訟費用ノ抗辯スラ規定  
 シナキニ付キ一旦取下ケタル私訴ヲ再ヒ提起スルモ敢テ法律ノ禁スル所ニ非  
 サルヲ以テナリ

私訴ヲ民事裁判所ニ提起スルトキハ總テ民事訴訟法ノ規定ニ從ハサルヘカラス  
 刑事裁判所又ハ刑事裁判所ト民事裁判所トニ公訴私訴並ヒ起ルトキハ公訴ノ  
 裁判ニ先テ私訴ノ裁判ヲ爲スヘカラストノ規定ハ現行法ニハ之アルコトナシ  
 然レトモ實際ニ於テハ公訴ノ判決ハ私訴ノ判決ニ大ナル影響ヲ及ホスノ效力  
 アルニ付キ公訴ノ判決アルニ至ルマテ私訴ノ審判ヲ中止スルヲ可ナリトス

### 第三 公訴權及ヒ私訴權ノ消滅原因

公訴及ヒ私訴ニ共通ノ消滅原因アリ又特別ノ消滅原因アリ茲ニ消滅原因ノ重  
 モナルモノヲ列舉シ併セテ公訴私訴ノ異同ヲ講述セント欲ス

一 被告人ノ死去 公訴ハ被告人ノ死去ニ因リテ消滅ス是レ刑ハ一身ニ止マ  
 ルトノ原則ヨリ生スル結果ニ外ナラス被告人カ死去ニ因リ社會ヲ脱退スルト  
 キハ社會ハ最早之ヲ懲罰スルノ必要ヲ見ザルヘシ死刑カ刑法上ノ極刑ナルヲ  
 以テ見ルモ被告人カ死スルトキハ之ヲ罰スルノ必要ナキコトヲ知ルニ足ラン  
 死去ハ死者一人ニ對スル公訴消滅ノ原因ナリト雖モ有夫姦罪ノ場合ニ於テ有  
 夫ノ婦カ死シタルトキハ之ト私通セル者ニ對シテモ公訴權消滅スト論スル者  
 ナキニ非ス

刑ノ言渡確定シタルトキハ體刑ハ被告人ノ死去ニ因リ執行スルコト能ハサル  
 ヘキモ金錢上ノ刑即チ罰金科料ノ刑並ニ裁判費用ノ言渡ハ其相續人ニ對シ之  
 ヲ執行シ得ヘキモノナリト然レトモ我現行法ニ於テハ裁判費用ハ之ヲ相續  
 人ヨリ徴收スルモ罰金科料ハ之ヲ徴收セサルコトトセリ刑法附則第二〇條第  
 五三條

右ノ如ク公訴ハ被告人ノ死去ニ因リ消滅スヘシト雖モ私訴ハ被告人ノ死去ニ因リ消滅スルモノニアラスシテ其相續人ニ對シテモ之ヲ提起シ得ヘキモノナリトス(刑法附則第六二條)

二 告訴ノ拋棄 誹毀及ヒ有夫姦ノ罪ノ如キ親告罪ニ付テハ公訴ハ告訴ノ拋棄ニ因リ消滅スルモノナリ其理由ハ法律上親告罪ヲ設ケタルハ被害者及ヒ其一家ノ名譽ヲ汚 サシメサル爲メ告訴セサルトキハ犯罪人ト雖モ之ヲ罰セストノ趣旨ニ出テシモノナレハ被害者及ヒ其一家ノ者ニシテ告訴ヲ拋棄シタルトキハ公訴ヲ消滅ニ歸セシムヘキハ當然ナルヲ以テナリ

右ノ如ク被害者及ヒ其一家ノ名譽ヲ汚サシメサル爲メ此消滅原因ヲ設ケタルモノナルヲ以テ親告罪ニ對シ一旦告訴ヲ爲シ裁判所ニ於テ事件ヲ受理審理中ナリト雖モ未タ其判決アラサルトキ若クハ其判決ノ確定セサル間告訴人カ告訴ヲ拋棄セハ公訴ハ消滅ニ歸スルヲ以テ裁判所ハ其事件ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス

此場合ニ於テ告訴人カ告訴ニ依リ一旦其私事ヲ世ニ公ニシタル以上ハ假令

告訴ヲ拋棄シ之ヲ取下クルモ其名譽ハ回復シ得サルヲ以テ裁判所ハ其事件ヲ判決シテ差支ナシト論スル者ナキニ非サレトモ判決確定セサレハ其事實ノ有無ハ疑問ニ存シ不明ニ屬スルヲ以テ事實ノ有無ヲ正サス事ヲ未決ニ付シ置クハ告訴人ノ名譽ヲ保護スルニ於テ大ナル利益アルニ依リ余ハ此説ヲ採ラサル者ナリ

公訴ハ場合ニ從ヒ告訴ノ拋棄ニ因リ消滅スト雖モ私訴ハ告訴ノ拋棄ノミニテハ消滅セス必ス私訴ノ拋棄又ハ和解アルコトヲ要ス

三 公訴ハ確定判決ニ因リテ消滅ス

確定判決トハ上訴ヲ爲シ盡シ又ハ上訴期間ヲ經過シタル判決ヲ云フ而シテ其判決ハ適法ナル管轄裁判所ノ判決ナルコトヲ要シ且ツ其判決ハ本案ノ裁判ナルコトヲ要ス故ニ行政官カ言渡シタル判決及ヒ本案前ノ裁判ハ公訴ヲ消滅セシムルノ效力ナキモノナリ

確定判決ハ一ノ法定ノ推測ニ外ナラス此法定推測ヲ設ケテ以テ事件ノ落着ク告ケサルトキハ裁判ノ終局スル所ヲ知ル能ハサルニ至ルヘシ是レ法律上此推

罰ヲ設ケタル所以ナリ然レトモ若シ此法定推測ニシテ不當ナルコト明白ナルトキハ之ヲ破毀スルノ途ナカルヘカラス是レ法律上再審ヲ訴テ設ケタル所以ナリ尤モ再審ノ訴ハ被告人ニ不利益ナルトキニノミ限リ之ヲ許シ被告人ニ利益ナル場合ニ於テハ如何ニ誤斷ノ裁判ト雖モ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ許サス公訴力確定判決ニ因リテ消滅スルニハ二個ノ要件アルコトヲ要ス

(イ)前後同一ノ事件ナルコト 前後同一ノ事件ナルトハ要スルニ前後要求ノ原因ヲ同シウシ前後要求スル所ヲ同シウスルコトニシテ或犯罪ニ對スル刑ノ適用即チ是ナリ

假令前後ノ事件互ニ相密着スルモ別種ノモノナルトキハ確定判決ノ效力ヲ及ホスコトナシ然レトモ事件カ既ニ判決ヲ經タル事件ニ附屬シテ或ハ其犯罪ヲ構成シ或ハ其犯罪ヲ加重スルノ模様ナルトキ又ハ其所爲一ナラサルモ其目的ヲ同シウスルニ依リ合シテ一罪ト爲ルトキハ確定判決ノ效力ヲ及ホスモノトス事件同一ニシテ罪名ノミヲ異ニスルトキハ無論確定判決ノ效力ヲ及ホスモノナリ已ニ判決ヲ經タル事件ニ附屬シテ其犯罪ヲ構成スルトハ例ヘハ人ノ居

宅ニ忍入り即チ侵入シテ物品ヲ竊取シタル場合ニ於テハ家宅侵入ハ竊盜事件ニ附屬シテ其犯罪ヲ構成スルカ如ク已ニ判決ヲ經タル事件ニ附屬シテ其犯罪ヲ加重スルノ模様ナルトキトハ例ヘハ家屋ノ一部ヲ毀壞シテ忍入り竊盜ヲ爲シタル場合ニ於テハ其家屋毀壞ハ竊盜罪加重ノ模様ナルカ如ク又所爲一ナラサルモ合シテ一罪ト爲ルトハ例ヘハ私書ヲ偽造行使シテ詐欺取財ヲ爲シタル場合ニ於テ私書偽造行使ハ詐欺取財ト合シテ實質上ノ一罪ト爲ルカ如ク同一ノ事件ナルコトハ裁判言渡ノ目的ト爲シタルモノノミヲ云フ乎將タ夫レノミナラス其目的ト爲シ得ヘキモノヲ併セテ云フ乎同一事件トハ確定判決ノ目的タリシモノハ勿論其目的ト爲シ得ヘキモノヲ包含スヘシ即チ確定判決ノ效力ハ事件ノ目的ト爲シ得ヘキモノニモ及フモノナリ何トナレハ裁判所ハ其要求ヲ受ケタル點ニ止マラスシテ事件一切ノ變象ヲ審理シ事實ニ對シ裁判ヲ爲ササルヘカラサレハナリ故ニ強盜謀殺若クハ正犯トシテ無罪ノ判決ヲ受ケタル者ハ同一ノ事件ニ於テハ竊盜毆打致死若クハ從犯トスルモ再ヒ訴追セララルコトナカルヘシ

(ロ)前後同一ノ訴訟關係人ナルコト 公訴ニ於テ原告官ハ常ニ檢事ニシテ前後必ス同一ナリト雖モ被告人ハ前後必ス同一ナルモノニ非ス然レトモ確定判決ノ效力ヲ及ホシ公訴ヲ消滅セシムルニハ被告人タル者モ前後同一ナルコトヲ要スルモノナリ何トナレハ裁判ハ訴訟ニ關係シタル者ニ對シ其效力アルハ當然ナルモ訴外人ニ對シテ其效力ナキコトハ訴訟法上ノ一大原則ナレハナリ然レトモ茲ニ其例外ナキニアラス即チ事件全體ニ關スル理由ニ基キ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其事件ニ付テハ何人ニ對スルモ公訴ヲ提起スル能ハス又有夫姦事件ニ付キ有夫ノ婦ニ對シ免訴又ハ無罪ノ言渡アリタリトキハ其如何ナル理由ニ基キタルヲ問ハス共犯人ニ對シテハ公訴ヲ提起スルコト能ハサルヘシ此點ニ付テハ反對ノ說ヲ唱フル學者ナキニアラスト雖モ余ハ此說ニ服スル能ハス何トナレハ事件全體ニ對スル判決ノ效力ハ社會一般ニ對抗シ得ヘキハ當然ナルヲ以テナリ

私訴モ公訴ト同シク確定判決ニ因リ消滅ス私訴確定判決ノ效力ハ民法ノ原理ニ從フヘキモノナルヲ以テ之ニ關スルコトハ民法ノ講義ニ讓ラン

#### 四 公訴ハ刑ノ廢止ニ因リテ消滅ス

犯罪ヲ犯ス當時ニ在テ已ニ刑ノ廢止セラレタル場合ニ於テハ刑法第二條ノ原則ニ依リ無罪タリ茲ニ刑ノ廢止ニ因リ公訴ノ消滅スルト云フハ犯罪ヲ犯シタル以後之ヲ罰スヘキ刑ノ廢止ト爲リタル場合ヲ云フモノニシテ其理由ハ新法ニ於テ刑ヲ廢止シタルハ要スルニ其所爲カ公益ヲ害セサルコトヲ認メタルニ因ルモノナレハ舊法ノ時代ニ犯シタル罪ト雖モ之ヲ罰スルノ必要ナキヲ以テナリ

此場合ニ於テハ大赦ノ場合ト同シク私訴ノ名稱ハ消滅シ單ニ民事上ノ訴權ノミ生存スルモノナリ

我刑事訴訟法ニ於テハ刑ノ廢止ハ公訴權消滅ノ原因タルニ止マリ執行權消滅ノ原因又ハ非常上告ノ原因ト爲ラサルモノナリ

#### 五 公訴ハ大赦ニ因リテ消滅ス

大赦ハ天皇ノ大權ニ屬シ特別ノ事情アル場合ニ於テ法律ヲ勵行セハ却テ社會ノ秩序安寧ヲ害スル恐レアルトキ其罪惡ヲ消滅セシムル爲メ行ハルモノニ

シテ判決確定ノ前後ヲ問ハス之ヲ行フコトヲ得ヘシ故ニ大赦ハ公訴消滅ノ原因トモ爲リ又執行權消滅ノ原因トモ爲ルモノナリ  
 私訴ハ大赦ニ因リ根本的消滅スルモノニアラサルモ私訴ノ名稱ハ消滅スルヲ以テ一ノ民法上ノ訴權トシテ之ヲ訴フルノ外ナシ何トナレハ大赦ハ罪質ヲ消滅セシムルヲ以テ其目的トスルモノナルヲ以テナリ

六 公訴ハ時効ニ因リテ消滅ス

時効ニ二種アリ公訴ノ時効及ヒ刑ノ時効是ナリ公訴ノ時効ハ大赦ニ均シキ效力ヲ有シ刑ノ時効ハ時數ニ均シキ效力ヲ有スルモノナリ故ニ公訴時効ハ根本的罪質ヲ消滅セシムルモ刑ノ時効ハ根本的刑ヲ消滅セシムルモノニ非ス是ヲ以テ公訴カ時効ニ罹ルトキハ犯人モ犯人視セラレスシテ前科ナキモノナレトモ刑カ時効ニ罹ルトキハ其犯人ハ刑ノ執行ハ受ケサルモ前科付ノ者タルコトハ免レサルヲ以テ再ヒ罪ヲ犯ストキハ再犯ノ例ニ照シ刑ヲ加重セラルルモノナリトス

現行法ニ於テハ公訴並ニ刑ハ總テ時効ニ因リ消滅スルヲ以テ原則トス故ニ昔

日佛國ニ於テ王室ニ對スル罪並ニ親殺ノ罪ノ如キヲ時効ニ罹ラサルモノト爲シタル如キ例外アルコトナシ然レトモ強テ例外ヲ求メハ彼ノ監視ノ罪及ヒ禁制物ノ沒收ノ罪ノ如キハ時効ニ罹ラサルモノナリ(刑法第六〇條)

茲ニ時効ヲ設ケタル理由ニ付キ一言センニ刑罰權ノ本ハ正義ト必要トニ在リ而シテ正義ノミニ着眼シテ之ヲ觀察スルトキハ時効ノ制ハ妥當ナラサル所アリト雖モ必要ノ點ヨリ之ヲ見レハ犯時若クハ判決ノ時ヨリ長年月ヲ經過シタル後ハ犯人ヲ處罰スルノ必要ナキモノナリ何トナレハ社會キ己ニ遺忘シ又判決アリシコトヲ遺忘シタルヲ喚起シテ更ニ訴追ヲ爲シ又ハ刑ヲ執行スルノ要ナケレハナリ之ヲ要スルニ時効ヲ設ケタルノ理由ハ公益ノ爲メニ外ナラス

右ノ理由ヨリシテ茲ニ左ノ三個ノ結果ヲ生スヘシ

- (1) 重罪ヲ記憶スルハ輕罪ヨリ永ク且ツ之ヲ處罰スルノ必要モ輕罪ヨリ大ナリ
- (2) 輕罪ヲ記憶スルハ違警罪ヨリ永ク且ツ之ヲ處罰スルノ必要モ違警罪ヨリ大ナリ
- (3) 以テ重罪ノ時効期間ハ輕罪ノ時効期間ヨリ長ク輕罪ノ時効期間ハ違警罪ノ時効期間ヨリ長シトス



(ロ) 刑ノ宣告ハ社會ニ犯罪ノ證據ヲ殘シ犯罪ノ記憶ヲ鞏固ナラシムヘキニ依リ刑ノ時効ハ公訴ノ時効ヨリ其期間ヲ長ウセリ

(ハ) 犯罪人ノ爲メ當然又ハ其不知ニ拘ラス時効ノ利益ハ生スルモノナリ是レ刑事上ノ時効ハ公益ノ爲メニ設ケタルモノナルヲ以テナリ此結果ヨリシテ尙ホ左ノ結果ヲ生スヘシ

(甲) 犯罪人ハ已ニ得タル時効ノ利益ヲ拋棄シテ或ハ判決ヲ受ケンコトヲ求メ或ハ刑ノ執行ヲ受ケンコトヲ求ムルヲ得ス

(乙) 第一二審ノ裁判官ハ職權ヲ以テ時効ノ利益ヲ與ヘサルヘカラス

(丙) 時効ノ抗辯ハ第一二審ハ勿論上告審ニ至リテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ茲ニハ訴ノ時効ノミヲ講スヘキ處ナルモ便宜ノ爲メ刑ノ時効ヲモ講述スヘシ先ツ訴ノ時効ヨリ講述センニ

訴ノ時効ニ二種アリ公訴ノ時効ト私訴ノ時効ト即チ是ナリ私訴ノ時効ニ先チ茲ニ公訴ノ時効ノコトヲ説カン

茲ニ公訴ノ時効ニ付キ講述スヘキ點ハ第一時効ノ範圍第二其期間第三其效果即チ是

ナリ

一 範圍 時効ハ總テノ犯罪ニ適用セラレヘシ何トナレハ時ノ經過ニ因リ記憶ノ消滅スルハ同一ナルヲ以テナリ故ニ現行法ニ於テハ時効ニ罹ラサル犯罪ハナカルヘタ又除外例ナキ限リハ刑法ノ犯罪ト特別法ノ犯罪トヲ問ハス又普通裁判所ノ審判スヘキ犯罪ト特別裁判所ノ審判スヘキ犯罪トヲ問ハス總テ時効ニ罹ラサルモノナシ

二 期間 期間ニ付テハ期間其起算點及ヒ期間延長ノ原因ノ三ニ分テテ講述スヘシ

時効ノ期間ハ刑事訴訟法第八條ノ定ムル所ナリ同條ニ曰ク「公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ成就ス第一違警罪ハ六月第二輕罪ハ三年第三重罪ハ十年ト故ニ罪ノ輕重ニ從ヒ其期間ニ差異アリト雖モ其期間ヲ經過スルニ於テハ公訴權ハ消滅ニ歸スルモノナリ

時効期間ノ起算點ニ付テハ同法第十條ニ規定アリ曰ク「公訴私訴ノ時効ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起算ス但繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス」如何ナ

ル理由ニ依リ犯罪ノ日ヨリ期間ヲ起算スルヤ是レ蓋シ即時犯ニ付テハ犯時ヨリ人ノ記憶ハ次第ニ減少シ遂ニ之ヲ遺忘スルニ至ルヘキヲ以テナリ然ラハ繼續犯ニ付テハ何故最終ノ日ヨリ期間ヲ起算スルヤ是レ蓋シ犯罪ノ繼續スル間ハ人ノ記憶モ減少スルニ由ナク從テ時効ノ利益ヲ與フルノ理由ナキヲ以テナリ」  
 期間延長ノ原因ハ時効ノ中斷即チ是ナリ何ニ依テ時効ヲ中斷スルヤ時効ヲ中斷スル原因ハ起訴豫審又ハ公判ノ手續ナルモ右ハ要スルニ公訴權ノ行使ニ外ナラス刑事訴訟法第十一條ニ曰ク「時効ハ起訴豫審又ハ公判ノ手續アリタルニ因リ其期間ノ經過ヲ中斷ス」ト何故公訴權ヲ行使セハ時効期間ヲ中斷スルヤ是レ蓋シ公訴權ヲ行使スルハ社會カ犯罪ヲ遺忘セサルニ由ルモノナレハ其遺忘ヲ推測スルニハ尙ホ其時ヨリ期間ヲ起算セシメサルヘカラストノ理由ニ依リシモノナラン  
 時効ヲ中斷スルニハ起訴豫審又ハ公判ノ手續ノ有效ナラントテ要ス故ニ權限ナキ官吏カ右ノ手續ヲ爲シタリト雖モ時効ヲ中斷スルノ效力生セス又權限アル官吏ノ爲シタル手續ト雖モ法律ノ規定ニ背キタルトキハ時効ヲ中斷スルノ效力生セス又權限アル官吏ノ爲シタル手續ト雖モ法律ノ規定ニ背キタルト

キハ時効ヲ中斷スルノ効ナキモノナリ刑事訴訟法第十二條ニ云ク「起訴豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スルトキハ時効ノ經過ヲ中斷スル効ナカル可シ」ト然レトモ裁判所ノ管轄違ノ爲メ右手續カ無効ニ屬スルトキハ時効ノ經過ヲ中斷スル効アルモノトス同條末段ニ云ク「但裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スルトキハ此限ニ在ラス」ト管轄違ノ場合ニ限リ何故手續カ無効ニ屬スルトモ時効中斷ノ效力アリトシタルヤ是レ蓋シ管轄違以外ノ場合ニ在テ手續カ無効ニ屬スルトキハ裁判所ハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲シ其訴ハ全クナキモノトナルヘシト雖モ管轄違ノ場合ニ於テハ裁判所ハ單ニ管轄違ヲ言渡スノミニシテ其訴ハ依然トシテ生存スルヲ以テナリ管轄違ヲ言渡ス場合ニ於テ其訴カ依然トシテ存スルコトハ刑事訴訟法第二百二十二條第二項ニ依リ裁判所カ前拘留狀ヲ存シ又ハ新拘留狀ヲ發スル職權ヲ有スルコトアルヲ以テ見ルモ之ヲ推知スルコトヲ得ヘシ  
 時効中斷ハ左ノ效力ヲ生スルモノナリ

0462

(イ) 已ニ經過シタル期間ハ總テ無効ニ屬シ公訴權行使ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ其期間ヲ起算ス(第一一條第二項)

(ロ) 中斷ノ效力ハ無限ニシテ犯人各自ニ對シテハ勿論未タ發覺セサル正犯從犯及ヒ民事擔當人ニ對シテモ中斷ノ效アルモノトス第一一條第一項其理由ハ蓋シ公訴權行使ノ手續ニ依リ社會ハ法律上犯罪ノ記憶ヲ喚起シタルニ依リ其何人ニ對スルヤヲ問ハス中斷ノ效ヲ有セシムヘキハ當然ナルノミナラス證據ノ湮滅社會ノ遺忘ハ犯罪事件ニ關スルモノニシテ犯人ニ關係ナキモノナルヲ以テナリ

三 效果 公訴ノ時効ノ效果ハ大故ト等シク或所爲ノ犯罪タル性質ヲ消滅セシムルニ在リ

是ヨリ私訴ノ時効ニ付キ講述セシ

私訴ノ時効ハ其期間起算點延長ノ原因トモ公訴ノ時効ト全ク同一ナリ而シテ其之ヲ同一視スルヤ尠モ斟酌スル所ナシ故ニ私訴ヲ獨立シテ民事裁判所ニ提起スルトキト雖モ時効期間ハ公訴ノ時効ト運命ヲ共ニシ又民法ノ規定ニ從ヘ

ハ債權者カ無能力ナルトキハ其能力者ト爲リ又ハ法定代理人ノ就職シタルトキヨリ六个月内ハ時効ハ停止スルモノナリト雖モ私訴ニ付テハ假令被害者即チ債權者カ無能力ナルトキト雖モ時効ハ停止スルコトナク公訴ト其運命ヲ共ニスルモノナリ是レ刑事訴訟法第九條ノ規定スル所ナリ

何故右ノ如ク私訴ノ時効ヲ公訴ノ時効ト同一ニセシヤ公訴ノ時効ヲ設ケタル理由ハ前已ニ講述シタルカ如ク社會カ犯罪ヲ遺忘シタルニ基クモノナリト雖モ其期間ヲ違警罪ハ六月輕罪ハ三年重罪ハ十年ト之ヲ短縮シタルハ恐ラクハ立法者ニ於テ人ノ身體生命及ヒ名譽ニ關スル大事ヲ長ク人證等ニ委ヌルハ危險ナルカ故ニ謀殺罪ノ如キ重罪ト雖モ十年ヲ經過スレハ時効ニ罹ルモノト爲シタルナリ之ヲ要スルニ數年ノ後人證等ニ基キ獄ヲ斷スルハ甚タ危險ナルカ故ナリ已ニ公訴ニ付テ人證等ニ信用ヲ措クヘカラサルモノトセハ私訴ニ付テモ同様信用ヲ措キ難カラシ又私訴ノ時効期間ヲ公訴ノ時効期間ヨリ長クセハ公訴ノ時効ニ罹リタル後民事原告人ハ誣延ニ於テ犯罪ノ事實ヲ證明スルコトナシトモス果シテ然ラハ社會ハ一面ニハ被告カ犯罪ヲ爲シタリトシテ私訴ニ

對シ賠償ヲ命シ他ノ一面ニハ公訴ハ時効ニ罹リタリトテ刑ヲ科スル能ハサル奇觀ヲ呈スルニ至ラン是レ私訴ノ時効ヲ公訴ノ時効ト同一ニ規定シタル所以ナリ

私訴ノ時効ヲ公訴ノ時効ト同一ニシタル理由右ノ如クナルヨリ其結果トシテ公訴ニ付キ已ニ刑ノ言渡アリタルトキハ私訴ノ時効ハ民法ノ時効ノ例ニ從フトノ規則生スヘシ(第九條第二項)何トナレハ公訴ニ付キ刑ノ言渡アルトキハ犯罪ヲ爲シタル證據ハ確實ト爲ルヲ以テ此場合ニ在テハ最早私訴ノ時効ヲ公訴ノ時効ト同一ニスルノ必要ナキヲ以テ民法ノ時効ノ例ニ從ハシムヘキハ當然ナルヲ以テナリ民法ニ從ヘハ不法行為ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ不法行為ノ時ヨリ二十年ヲ以テ時効ニ罹ルヘシト雖モ若シ被害者又ハ其法定代理人カ損害及ヒ加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間請求ヲ爲ササルトキハ時効ニ罹ルモノナリ(民法第七二四條)

私訴ノ時効モ公訴ノ時効ト同シタ裁判所ノ職權調査ニ屬スルモノナリ何トナレハ私訴ノ時効ハ被告人ノ申立ナキモ裁判所ハ之ヲ援用セサルヘカラザルヲ

以テ公訴カ時効ニ因リ消滅シタルニ拘ラス私訴ハ被告人ノ申立ナキニ依リ裁判所カ之ヲ援用スル能ハサルモノトセハ公訴消滅後私訴ニ關シ公訴ノ事實ヲ證明シテ暗ニ犯人タルコトヲ認メシムルニ至リ結局法律カ私訴ノ時効ヲ公訴ノ時効ト同一ニシタル目的ヲ達スル能ハサル結果ヲ生スルニ至ルヘキヲ以テナリ

茲ニ一ノ疑問アリ开ハ重罪ニ付キ公訴ノ時効成就シタル後犯罪ヲ證明セス單ニ過失等ヲ原因トシテ加害者ニ對シ民事上ノ損害賠償ヲ求ムルコトヲ許スヘキヤ否ヤト云フニ在リ余ハ此疑問ニ付テハ其訴ハ許スヘカラサルモノト信スルモノナリ何トナレハ若シ之ヲ許スモノトセンカ此訴ニ於テ證人トシテ事實ノ證言ヲ爲ス者ハ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セザルコトヲ誓フヘキカ故ニ結局此訴ニ於テ公訴ノ事實ヲ證明シ暗ニ犯人タルコトヲ認メシムルニ至リ是レ亦法律カ私訴ノ時効ヲ公訴ノ時効ト同一ニシタル目的ヲ達スル能ハサル結果ヲ呈スルニ至ルヘキヲ以テナリ

公訴カ時効以外ノ原因ニ因リ消滅シタルトキハ私訴ノ時効ハ公訴ノ時効ト連

命ヲ共ニスルヤ此疑問ニ付テハ場合ヲ分チテ之ヲ論セサルヘカラス若シ其原因カ被告人ノ死去ノ如ク犯罪タルノ性質ヲ失ハシメサル場合ニ於テハ私訴ハ公訴ノ時効ト運命ヲ共ニスヘシト雖モ若シ又其原因カ大赦刑ノ廢止、告訴ノ拋棄又ハ無罪免訴ノ言渡ノ如ク犯罪ノ性質ヲ失ハシムヘキモノナルトキハ私訴ハ民法ノ時効例ニ從ハシメサルヘカラス

私訴權消滅ノ原因ハ公訴權消滅ノ原因ト相同シカラス故ニ公訴ニ特別ナル消滅原因アリ私訴ニ特別ナル消滅原因アリ又公訴私訴ニ共通ナル消滅原因アリ故ニ被告人ノ死去及ヒ大赦ハ公訴ヲ消滅セシムヘキモ私訴ヲ消滅セシムル能ハス又私和ハ私訴ヲ消滅セシムルニ足ルモ公訴ヲ消滅セシムヘキモノニアラス又公訴私訴ニ共通ノ原因ハ確定判決及ヒ時効ノ如キ即チ是ナリ以下刑ノ時効ニ付キ講述セシ

刑ノ時効ニ付キ講述スヘキ點ハ(一)時効ノ範圍(二)其期間(三)其效力即チ是ナリ一 範圍 刑ノ時効ハ執行ヲ爲スヘキ刑ノミニ適用スヘキモノニシテ何等ノ行為ヲ加ヘス判決確定スレハ直チニ效力ヲ生スヘキ刑ハ時効ニ罹ラサルモノナリ

故ニ體刑及ヒ財産ニ關スル刑ハ時効ニ罹ルト雖モ權利ヲ喪失セシムヘキ刑ハ時効ニ係ラス體刑トハ生命ヲ奪ヒ或ハ自由ヲ束縛スル死刑徒刑懲役禁錮、拘留ノ刑ノ如キヲ云ヒ財産ニ關スル刑トハ罰金科料沒收ノ刑ノ如キヲ云フ權利ヲ喪失セシムヘキ刑トハ剝奪公權停止公權ノ如キヲ云フ

體刑及ヒ財産ニ關スル刑ハ時効ニ係ルヲ以テ原則トスレトモ監視竝ニ禁制物沒收ノ刑ハ時効ニ係ラサルモノトス(刑法第六〇條)

二 期間 期間ニ付テハ期間其起算點及ヒ期間延長ノ原因ノ三ニ分テ講述スヘシ

刑ノ時効ハ公訴ノ時効ヨリ其期間長ク且ツ刑ノ重キニ從ヒ其期間長キモノナリ刑法第五十九條ニ曰ク「主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得(一)死刑ハ三十年(二)無期徒流刑ハ二十五年(三)有期徒流刑ハ二十年(四)重懲役重禁獄ハ十五年(五)輕懲役輕禁獄ハ十年(六)禁錮罰金ハ七年(七)拘留科料ハ一年」ト

刑ノ時効ハ對席判決ニ付テハ被告カ刑ヲ執行ヲ遁レタル口ヨリ起算ス故ニ例(一)ハ拘留ニ處セラレ今日ヨリ將ニ其執行ヲ受ケントシタル者カ今日即チ明治

三十二年十月三十日逃亡シタルトキハ其時効期間ノ一年ハ今日ヨリ起算シ明年十月二十九日ヲ以テ成就スルモノナリ若シ又捕ニ就キ再ヒ逃走シタルトキハ其逃走ノ日ヨリ起算スルモノナリ又缺席判決ニ付テハ時効ノ期間ハ其宣告ノ日ヨリ起算スヘシ何トナレハ缺席判決ノ場合ニ於テハ被告カ何時ヨリ刑ノ執行ヲ通レ居ルヤ知ル能ハサルヲ以テ其宣告ノ日ヨリ執行ヲ通レ居ルモノト看做シ其口ヨリ期間ヲ起算スルモノナリ(刑法第六一條)

刑ノ時効期間ヲ延長スル原因ハ時効ノ中斷ニシテ時効ヲ中斷スルハ逮捕狀ヲ發スル事即チ是ナリ故ニ逮捕狀ヲ發スルトキハ已ニ經過シタル所ノ期間ハ全ク無効ニ歸シ其令狀ヲ發シタル日ヨリ更ニ時効ヲ起算スルモノナリ而シテ現行法ニ依レハ其令狀ヲ發スルハ一回ニ止マラス幾回ニテモ之ヲ發スルヲ得ヘク幾回モ令狀ヲ發シタルトキハ最終ノ令狀ヲ發シタル日ヨリ時効ヲ起算スルモノナリ故ニ現行法ニ從ヘハ檢事ニ於テ限リナク令狀ヲ發スルトキハ時効ニ因リ刑ノ消滅スルコトハ之ナキニ至リ法律上ノ時効ヲ設ケタル精神ヲ貫徹スルコト能ハサラシムルニ至ラン

三 效力 刑ノ時効ノ效力ハ特數ノ效力ト同シク刑ノ執行ハ爲ササルモ其刑ヲ根本的消滅セシムルモノニアラス又時効ニ因リ刑ヲ免レタルモノハ特數ヲ受ケタル者ト同様復權ヲ受ケルコトヲ得ヘシ(刑法第六三條第六四條)

時効ニ因ル刑ノ執行權消滅ノ原因ノ外刑ノ執行權ハ再審及ヒ非常ニ上告ノ結果消滅ニ歸スルコトアリ私訴ノ執行權モ亦再審ノ結果消滅スルコトナキニアラス

茲ニ一ノ疑問アリ開ハ公訴並ニ刑ノ時効ニ付キ新舊兩法期間ヲ異ニスルトキハ兩法中其何レヲ適用スヘキヤト云フニ在リテ右ハ刑法ノ問題ニ屬スルヲ以テ同法ノ講義ニ讓ラン

茲ニ公訴ニ關シ一言スルコトアリ開ハ刑法ノ目的ハ刑ヲ實行シテ人ヲシテ再ヒ罪ヲ犯サシメサルニ在リ而シテ刑法及ヒ刑事訴訟法ハ屬地法ナルカ故ニ内國人ナルト外國人ナルトヲ問ハス日本國內ニ於テ罪ヲ犯シタルモノアルトキハ總テ該法ヲ適用處斷スルモノトス何トナレハ屬地法ニ於テハ犯人其人ニ重キヲ置カスシテ犯罪地ニ重キヲ置クノミナラス一國ノ安寧秩序ニ關スル場合

於テ外國法ヲ適用スルハ其國ノ自治權ヲ害シ其生存ヲ傷クルノ恐レアリ且  
 國際公安ニ反スルノ恐レアルヲ以テナリ  
 內國人ハ內國ニ在ルト外國ニ在ルトヲ問ハズ本國ノ刑法及ヒ刑事訴訟法ヲ遵  
 守スルコトヲ要ス何トナレハ刑法ハ我人民ニ對シ或行爲ヲ禁シ又ハ或行爲ヲ  
 命シ人民ノ義務ヲ定メタルモノナレハ我人民ハ假令本國ヲ去テ外國ニ住スル  
 モ刑法ヲ遵奉スルノ義務アルハ當然ナレハナリ故ニ本邦人カ外國ニ於テ罪ヲ  
 犯シタルトキハ本國法ニ從ヒ處罰セラルルモノナリ然レトモ若シ其行爲カ外  
 國法ニ於テモ罪ト爲ルトキハ外國法ニ照シ處罰セラルルコトナシトセス  
 右ハ刑法草案第三條以下ニ規定スル所ナルノミナラス一般ニ學者ノ公認スル  
 所タリ

尙ホ茲ニ一言スルコトアリ开ハ私訴ニ反シテ被告人ヨリ告訴人被告人又ハ民  
 事原告人ニ對シテ損害ノ賠償ヲ求ムル權利アルコト即チ是ナリ  
 被告人カ右賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘキ場合ハ左ノ如シ

(一) 被告人カ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由カ告訴

人告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出ラタルトキ

(二) 被告人カ刑ノ言渡ヲ受ケタルモ告訴人告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意又  
 ハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタルトキ

(三) 民事原告人カ上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキ

右要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ其裁判所即チ刑事裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ  
 得ヘシ刑事裁判所カ之ヲ審判スルハ惡意重過失等ヲ見ルニ最モ適當ナルヘシ  
 然レトモ被告人カ訴ヲ受ケ被告人トマテ取調ヲ受ケ居ル間ニ告訴人告發人等  
 ニ對シ損害賠償ノ訴ヲ爲スハ實際上甚タ困難ナルカ故ニ實際ニ於テ此等ノ訴  
 アルコトハ稀ナル所ナリ  
 次ニ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ刑事檢察裁判所書記執達吏司法警察官又ハ  
 巡查憲兵等ニ對シテハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ許ササルモノトス何トナレハ此  
 等ノ官吏ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ許ストキハ此等ノ官吏ハ結局被告人カ  
 無罪ノ判決ヲ受ケンコトヲ恐レ容易ニ犯罪ヲ檢舉セサルニ至ルヘケレハナリ  
 然レトモ若シ是等ノ官吏カ被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ或ハ刑法上ノ

罪ヲ犯シタルトキハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ許ササルヘカラス  
以下期間ノコトニ付テ講述スヘシ  
期間ニ關スルコトハ刑事訴訟法第十五條乃至第十七條ヲ觀レハ一目瞭然タラ  
シ期間ハ最モ正確ニ之ヲ計算スルコトヲ要スヘシ而シテ日ヲ以テ定メタル期  
間ニ付テハ初日ヲ算入セス是レ蓋シ初日ナルモノハ完全ナル一日ナラサルヲ  
以テ當事者ノ爲メ不利益ナルヲ以テナリ然レトモ終リノ日ニ至テハ實際夜ノ  
十二時ニ至ルマテヲ計算セサルヘカラス又最終ノ日カ休暇ニ當ルトキハ期間  
ニ算入セサルモノトス何トナレハ休暇ニ當ルトキハ裁判所及ヒ其他ノ官廳ハ  
公務ヲ執ラサルカ爲メ訴訟關係人ハ其手續ヲ盡ス能ハサルヲ以テナリ但シ時  
效ニ付テハ初日モ算入シ又終リノ日カ休暇ナルモノ之ヲ算入スルモノトス是レ  
當事者ノ利益ニ歸スルヲ以テナリ

又期間計算ニ就テハ海陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フルコトトセリ而シテ八  
里ニ滿タサルモ三里以上ナルトキハ一日ノ猶豫ヲ與フルコトトセリ猶豫期間  
ノ外又茲ニ附加期間ナルモノアリ是ハ島嶼又ハ外國ニ在ル者ノ爲メ裁判所

カ定ムル所ノ期間ニシテ其算定ニ付テハ裁判所ニ一任セラレタルモノナルヲ  
以テ裁判所ハ隨意ニ之ヲ定ムルコトヲ得ヘシ

不拘束者カ控訴又ハ上告ヲ爲サントスルトキハ對席判決ニ對シテハ住所ヨリ  
ノ猶豫期間ヲ與フルノ理由ナシ何トナレハ對席判決ノ場合ニ在リテハ其者カ  
公廷ニ出頭シ居リシコト明カナレハ猶豫期間ヲ與フルノ必要ナキヲ以テナリ  
期間經過後ニ於テハ當事者ハ訴訟ヲ爲スノ權利ヲ喪失スヘシ例ヘハ上訴期間  
ヲ經過シタルトキハ上訴權ヲ失フカ如シ然レトモ天災其他避クヘカラサル事  
變ノ爲メ上訴期間ヲ失ヒタルトキハ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ許セリ該申  
立ハ障礙ノ止ミタル日ヨリ通常ノ期間内ニ其疏明ヲ爲シ申立書ヲ上訴狀ニ添  
ヘ差出スヘシ此場合ニ於テハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ第二  
四七條第二四八條)

訴訟關係人ハ裁判所所在ノ地ニ假住所ナルモノヲ選定スルコトヲ要ス是レ急  
速ヲ要スル刑事事件ヲ延滞セシメサルカ爲メナリ而シテ假住所ヲ定メサル者  
ハ假令書類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス



茲ニ一ノ疑問アリ、开ハ假住所ヲ選定シタルトキ、又ハ之ヲ選定スルコトヲ忘リタル者ニ對シテハ、前述ノ猶豫期間ハ之ヲ與ヘサルヤ否ヤト云フニ在リ。刑事ニ關スル書類ノ送達ハ、民事訴訟法ノ規定ニ從ハサルヘカラス、是レ刑事訴訟法第十九條ノ規定スル所ナリ。

以下刑事ニ關スル書類作製ノコトニ付テ講述スヘシ。刑事訴訟法第二十條ニ云ク「官吏公吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署公署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載セテ署名捺印シ、毎葉ニ契印ス可シ。若シ官署公署ノ印ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ、其事由ヲ記載ス可シ。此規定ニ背キタルトキハ、其書類ノ效ナカル可シ。」ト右官署公署ノ印ヲ捺捺セシムルハ、偽造變造ヲ豫防シ、書類ノ信憑力ヲ確實ナラシムル爲メニシテ、年月日ヲ記載セシムルハ、官吏公吏カ當時其資格ヲ有スルコトヲ證明シ、免官退職等ノ後ニ至リ、書類ヲ作製スル等ノ弊ナカラシメ、又場所ヲ記載セシムルハ、官吏公吏ノ管轄内ニ於テ作製シタルコトヲ證明スル爲メナリ、又毎葉ニ契印ヲ爲サシムルハ、書類ノ紙ヲ摺替フルコトヲ豫防スルカ爲メナリ、而シテ此規定ニ違背シタルトキハ、其制裁トシ

テ書類ハ全部無効ニ屬スルモノナリ、右ノ規定ハ實際ニ於テハ最モ必要ノ規定ニシテ之カ爲メ判決ノ取消又ハ破毀ト爲ルコト尠カラズ、判決原本ニ右違背ノ廉アレハ其判決ハ無効ト爲リ、公判始末書ニ右違背ノ廉アルトキハ裁判所カ果シテ法式ヲ履行シテ判決ヲ爲シタルヤ否ヤ識別シ難キヲ以テ其判決ハ從テ無効ニ屬スヘク、又起訴狀ニ右違背ノ廉アレハ起訴ハ無効ニ屬シ、其公訴ハ不受理タルヘク豫審調書ニ右違背ノ廉アリテ其調書ヲ證據ニ採リタルトキハ、違法ノ調書ヲ證據ニ供シタル判決ナルヲ以テ其判決ハ取消ヲ免レサルヘシ、然レトモ豫審決定書ニ右違法ノ廉アリト雖モ判決ハ取消スニハ及ハサルモノナリ、何トナレハ豫審決定ハ已ニ確定シタルヲ以テ其違法ハ公判ノ判決ニ對シ何等ノ影響ナキヲ以テナリ。

右規定ハ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ作製スヘキ書類ニノミ適用スル所ノ規定ニシテ、其他ノ書類ニハ之ヲ適用スルニ及ハス故ニ、巡查ノ報告書、官吏ノ告發書等ヲ作製スルニハ右規定ニ從フニ及ハサルモノトス。

刑事訴訟法第二十條第二項ニ云ク「官吏公吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人

自ラ署名捺印ス可シ同第二十一條ノニ云ク官吏公吏ニ非サル者ノ署名捺印ス可キ場合ニ於テ捺印スルコト能ハサルトキハ署名ノミヲ爲シ署名スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシメ捺印ノミヲ爲シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシム可シ立會人ハ其代署ノ事由ヲ記載シテ署名シ又ハ署名捺印スヘシ官吏公吏ノ面前ニ於テハ本人署名スルコト能ハサル場合ト雖モ立會人ヲ要セス官吏公吏代署シテ其事由ヲ附記ス可シトアリテ右ハ官吏公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニ關スル規定ニシテ別ニ講述スヘキ點アルコトナシ又實際ニ於テモ問題ト爲ルヘキ廉アルコトナシ唯捺印トアルハ元ト實印ヲ押捺スルノ意ナルヘキモ我邦從來ノ慣例ニ從ヒ捺印ヲ實印ニ代用スルコトヲ許セリ明治十四年司法省達第十六號ニ云ク「從來ノ慣例ニヨリ捺印爲致候儀ト心得ヘシ云云」ト又大審院ノ判決例ニ於テモ捺印ヲ以テ實印ニ代用スルコトハ認ムル所タリ

刑事訴訟法第二十一條ニ曰ク「官吏公吏訴訟ニ關スル書類ノ原本正本又ハ謄本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラズ若シ挿入削除及ヒ欄外ノ記入アルトキハ之

ニ認印スヘシ文字ヲ削除スルトキノ之ヲ讀ミ得ヘキ爲メ字體ヲ存シ其數ヲ記載スヘシ此規定ニ背キタルトキハ其變更増減ノ效ナカルヘシト本條ノ規定ニ背キタルトキハ書類ノ全部カ無効ト爲ルモノニ非スシテ單ニ増減變更ノ點ノミカ無効ト爲ルモノナリ

刑事訴訟法ハ遡及ノ效力アルモノトス(第二二條)是レ此法律カ他ノ法律ト異ナル所ニシテ法律ハ既往ニ遡ラストノ原則ニ對スル例外ヲ爲スモノナリ(刑法第三條)何故一般ノ原則ニ例外ヲ措キ刑事訴訟法ハ遡及ノ效力アリトシタルカ是レ蓋シ刑事訴訟手續ノ如キ方式ニ關スル法律ハ犯罪人ノ爲メ既得權ヲ與フルモノニ非ス又舊法ヲ非ナリトシテ之ヲ改正シタル上ハ其改正シタル法律即チ善良ナリト信スル所ノ法律ニ從ヒ獄ヲ斷スルハ當然ノコトナルノミナラス實際ニ於テ犯罪ノ時ニ從ヒ訴訟手續ヲ異ニスルハ事務取扱上煩雜ヲ來タスノ恐れアルヲ以テナリ

刑事訴訟法第二十三條ニ云ク「此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分スヘキ者ニ適用スルコトヲ得ス」ト是レ別ニ講述ヲ要スヘキコトナシ(國會議員選舉法第二十三條)

同第二十四條ニ曰ク「此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ノ規定ニ從フ」トアリ而シテ刑事訴訟法上親屬ナリヤ否ヤヲ定ムルノ必要ハ證人訊問等ノ場合ニ在リ然ルニ今ヤ新民法實施ノ時代ト爲リテ同法第七百二十五條以下ニ於テ親族例ノ定メアリ然ラハ刑法第百十四條第百十五條ハ新民法ノ實施ニ由リテ廢止セラレタルモノナリヤ民法施行法中ニ於テモ之ヲ廢止スルノ明文ナシ同法中他ノ廢止又ハ削除ト爲リタル法條及ヒ法律ハ掲ケアルニ拘ラス是レ蓋シ立法者ニ於テ遺脱シタルモノナラン何トナレハ民法ニ於ケル親屬ト刑法ニ於ケル親屬ト二種ノ親屬アルヘキ道理ナキヲ以テナリ

## 第二編 裁判所

公訴ヲ審判スルハ裁判所ナリ故ニ其手續即チ訴訟手續ヲ定ムルニ先チ裁判所ノ何タルヤヲ規定セサルヘカラス  
裁判所トハ天皇ノ御名ニ於テ司法權ヲ行フ所ノ獨立ノ官署ナリ(憲法第五七條)而シテ之ヲ組織スル裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ヲ受クルニ非サレハ

職ヲ免セラルルコトナキ神聖侵スヘカサル所ノ官吏タリ同法第五八條第二項而シテ又日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルルコトナシトハ憲法第二十四條ノ規定スル所タリ

普通裁判所ハ分テ四個ト爲ス(第一區裁判所第二地方裁判所第三控訴院(第四區)審院即チ是ナリ(裁判所構成法第一條)

普通裁判所ニ於テハ民事及ヒ刑事事件ヲ裁判ス故ニ區裁判所以外ノ裁判所ニハ皆民事部及ヒ刑事部ノ設置アリ而シテ裁判官ニハ毎年多少ノ交替アリトス判事ノ配置ハ區裁判所ニ於テハ地方裁判所長之ヲ定メ(裁判所構成法第一一條)第二項其他ニ於テハ部長會議ニ於テ之ヲ定ム(同法第二二條第三六條、第四五條)此ノ如ク裁判官ヲシテ或ハ民事ヲ取扱ハシメ或ハ刑事ヲ取扱ハシムルハ久シク判事ニ從事スルトキハ心裡有罪ノ豫斷ヲ抱クノ恐レナシトセス又一方ニ偏セハ他ノ一方ニ疎ク爲ルヘキハ自然ノ理ナルヲ以テ之ヲ避ケシメンカ爲メナリ

## 第一章 裁判所ノ管轄

裁判管轄ニ二種アリ事物ノ管轄及ヒ土地ノ管轄即チ是ナリ本章之ヲ第一節事物ノ管轄第二節土地ノ管轄第三節管轄裁判所ノ指定及ヒ裁判管轄ノ移送ノ三節ニ分チテ講述スヘシ

### 第一節 事物ノ管轄

事物ノ管轄トハ犯罪ノ種類ニ依リ設ケラレタル裁判所ノ管轄ヲ云フ而シテ管轄ノコトニ付キ刑事訴訟法第二十五條第一項ノ規定ニ從ヒ裁判所構成法ヲ閱スルニ區裁判所ハ裁判所構成法第十六條ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有スルモノナリ

#### 第一 違警罪

違警罪ノコトハ刑法第四百二十五條以下ニ規定セラレタリ

第二 本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ一月以下ノ禁錮ニシテ罰金ニ該ル輕罪

二月以下ノ禁錮ニシテ五十圓以下ノ罰金ヲ附加スル刑トハ例ヘハ十日以下

ノ不法監禁罪刑法第三二二條及ヒ官名詐稱罪刑法第三三二條ノ如ク二月以下ノ禁錮ニシテ罰金ヲ附加セサル刑トハ例ヘハ贖額五圓未満ノ屋外竊盜明治二十三年法律第九九號ノ如ク又百圓以下ノ罰金ニ該ル刑トハ例ヘハ失火罪刑法第四〇九條ノ如シ

第三 刑法第二編第一章ヲ除キ其ノ他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其情第二ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メ地方裁判所若クハ其支部ノ檢事局ヨリ區裁判所ニ移付シタルモノ

右二年以下ノ禁錮ニシテ二百圓以下ノ罰金ヲ附加スル刑トハ例ヘハ水利妨害ノ罪刑法第四一三條ノ如ク二年以下ノ禁錮ニシテ罰金ヲ附加セサル刑トハ例ヘハ贖額五圓以上ノ物ノ田野ニ於ケル竊盜刑法第三七二條家資分産ノトキ帳簿類ヲ藏匿又ハ毀棄シタル罪刑法第三八九條ノ如ク又單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該ル刑トハ例ヘハ過失殺人罪刑法第三一七條ノ如シ

地方裁判所ハ裁判所構成法第二十七條ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ

有スルモノトス

第一 第一審トシテ

區裁判所ノ權限並ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

控訴院ハ裁判所構成法第三十七條ノ規定ニ依レハ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有

スルモノナリ

第一 地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二 地方裁判所ノ判決ニ對スル上告

第三 地方裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル抗告

大審院ハ裁判所構成法第五十條ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有スル

モノナリ

第一 終審トシテ控訴院ノ判決ニ對スル上告及ヒ控訴院ノ決定並ニ命令ニ對

スル抗告

第二 第一審ニシテ終審トシテ刑法第二編第一章及ヒ第二章ニ掲ケタル重罪

竝ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノノ豫審及

ヒ裁判

右事物ノ管轄ヲ異ニスル數罪ヲ犯シタル者アルトキハ上級ノ裁判所併セテ之

ヲ裁判スルモノナリ故ニ例ヘハ違警罪ト竊盜罪ト強盜罪トヲ犯シタル者ニ對

シテハ地方裁判所併セテ之ヲ審判スルカ如シ右ハ各裁判所ニ被告人ヲ移送ス

ルノ勞ヲ省キ且ツ數罪俱發例ヲ適用スルニハ右ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ

行フコト能ハサルヘキヲ以テナリ

### 第二節 土地ノ管轄

大審院ハ全國ヲ通シテ一ナルモ控訴院地方裁判所區裁判所ノ數ハ尠カラズ又

裁判所以外ニ於テ裁判ヲ爲スコトナキニ非ス即チ領事館ニ於テ裁判ヲ爲ス場

合是ナリ

裁判所ノ位置及ヒ管轄ノコトハ明治二十三年法律第六十二號ヲ以テ定メラレタリ尤モ同法律ノ中區裁判所ニ付テハ多少改正セラレタル點ナキニ非ス又領事館ノ裁判ニ付テハ領事裁判規則アルモノアリテ清國並ニ朝鮮國駐在ノ日本領事ノ管轄内ニ於ケル日本人民ニ對スル公私訴ノ裁判ヲ爲スコトヲ規定シタリ右規則ハ明治二十一年勅令第七十一號ヲ以テ公布セラレタルモノナルモ明治三十二年三月法律第七十號ヲ以テ改正セラレタリ

茲ニ一人罪ヲ犯シタル者アルトキハ何レノ裁判所ニ於テ之カ審判ヲ爲スヘキヤ是レ即チ刑事訴訟法第二十六條ノ規定スル所ニシテ其犯罪ノアリタル地又ハ被告人所在ノ地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之カ審判ヲ爲スヘキモノトシタリ犯罪ノ地ノ裁判所カ其事件ノ審判ヲ爲スハ證據蒐集ノ爲メ最モ便利ナルヘク又被告人所在ノ地ノ裁判所カ其事件ノ審判ヲ爲スハ被告人ノ爲メ便益尠カラサルヘシ犯罪ノ地並ニ被告人所在地トモ同一裁判所ノ管轄地内ニ在ルトキハ論ナキモ若シ犯罪ノ地カ數個ノ裁判所ノ管轄ニ跨リ或ハ犯罪ノ地ト被告人所在ノ地ト同一ナラサル場合ニ於テハ數個ノ裁判所中何レノ裁判所ヲ正當ノ管轄ト爲スヘキヤ是レ刑事訴訟法第二十七條ノ規定スル所ニシテ數個ノ裁判所中最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトシタリ其理由ハ蓋シ數個ノ裁判所中最モ先ニ被告ニ對シ關係ヲ生シタル裁判所ニ管轄ヲ與フルハ正當ノ順序ナルヲ以テナリ

犯罪ノ地カ本邦内ニ在ルトキハ疑ナキモ若シ犯罪ノ地カ外國ニ在ルトキハ何レノ裁判所ヲ以テ其事件ノ管轄トスヘキヤ是レ刑事訴訟法第二十九條ノ規定スル所ニシテ三個ノ場合ヲ區別シタリ(第一)被告人カ本邦ニ逃來リ之ヲ逮捕シタルトキハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄トシ(第二)被告人カ外國ニ於テ逮捕セラレ送致シ來リタルトキハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄トシ(第三)被告人ヲ逮捕スルコト能ハスニテ關席裁判ヲ爲スヘキ時ハ被告人ノ最終ノ住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄トセリ右規定ヲ設ケタル理由ハ他ニ管轄權ヲ有スル適當ノ裁判所ナキヲ以テ被告ト最モ近キ關係ヲ生シ又ハ最モ近ク關係ヲ有シタル裁判所ニ管轄ヲ與ヘタルモノナリ

海船内ニ於テ生シタル犯罪ニ付テハ何レノ裁判所ヲ以テ其管轄トスヘキヤ是

レ刑事訴訟法第三十條ノ規定スル所ニシテ定繫港又ハ犯罪後最初ニ着艦シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄トモリ其理由ハ外國ニ於テ犯シタル罪ノ場合ト同様他ニ適當ノ裁判所ナキヲ以テ被告ニ對シ最モ近キ關係ヲ生シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ト爲シタルモノナリ

海船内ノ犯罪ニ付キ船長ニ於テ司法警察官ノ職務ヲ行ヒ犯罪人ヲ逮捕シタルトキハ碇泊又ハ着港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ引渡スヘク若シ外國港ニ着艦シタルトキハ領事ニ之ヲ引渡スヘシ(第四八條明治十四年太政官布告第六五號商船内犯罪取締規則)

被告一人ナルトキハ前記規定ニ從ヒ疑ヲ生スヘキコトナキモ數人共犯ノ場合ニ於テハ疑ヲ生スルコトナシトセス故ニ法律上茲ニ左ノ如キ規定ヲ設ケラレタリ

(一) 正犯數人アルトキハ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄トス是レ前記規定ニ依リ管轄權ヲ有スル各裁判所中最モ前ニ審理ニ着手シタル裁判所ニ管轄權ヲ與フルカ正當ノ順序ナルヲ以テナリ

(二) 從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄トス是レ從ハ主ニ從フノ原則ノ適用ナルニ過キス

右ハ刑事訴訟法第二十八條第一項及ヒ第二項ニ規定スル所タリ而シテ右規定ニ對シ茲ニ二個ノ例外アリ

(イ) 同條第三項ニ規定スル所ニシテ裁判所構成法第五十條第二項ニ記載シタル皇族ノ犯罪ニ付テハ其正犯從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス大審院ニ於テ之ヲ管轄スルコト是ナリ故ニ禁錮以上ノ犯罪ニ付キ皇族カ正犯ナルトキハ假令他ノ裁判所カ最初豫審又ハ公判ニ着手スルコトアルモ又皇族カ從犯ニ過キサル場合ト雖モ大審院ニ於テ其豫審及ヒ公判ヲ爲スヘキモノトス是レ犯罪人中ニ皇族アルトキハ如何ナル場合ト雖モ皇族ヲシテ大審院ノ裁判ヲ受クル利益ヲ失ハシメサルカ爲メ他ノ共犯人ニ對シテモ其利益ヲ及ホスモノナリ

(ロ) 共犯人中軍人アルトキハ常人ハ普通裁判所ノ管轄ニ屬スルモ軍人ハ軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノトス

刑事訴訟法第二十三條ニ曰ク此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス可

キ者ニ適用スルコトヲ得ストアリ陸軍治罪法第一條海軍治罪法第一條ニ軍人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スル旨ヲ規定シ尙ホ軍人ノ關係シタル犯罪ニ付テハ明治十八年第十二號布告ニ依リ規定セラレタリ外國ニ於テ犯シタル罪ノ正犯數人アリテ其内幾人ハ長崎ニ送致セラレ他ノ幾人ハ廣島ニ送致セラレタルトキ又ハ其中幾人ハ神戸ニ送致セラレ他ノ幾人ハ東京ニテ逮捕セラレ他ノ幾人ハ所在不明ナルトキハ何レノ裁判所ヲ以テ其管轄トスヘキヤ此場合ニ付テハ法律上別段ノ規定ナキモ數個ノ裁判所中最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄トスルカ法律ニ適シタルモノナルヘシ何トナレハ本問ノ場合ニ於テハ刑事訴訟法第二十九條ノ規定ニ從ヒ數個ノ裁判所カ管轄權ヲ有スルモノナレハ其裁判所中最モ前ニ被告ニ對シ關係ヲ生シタル裁判所ニ管轄權ヲ有セシムルハ正當ノ順序ナルヲ以テナリ

### 第三節 管轄裁判所ノ指定及ヒ裁判管轄ノ移送

管轄裁判所ノ指定トハ何レノ裁判所カ管轄權ヲ有スルヤ不分明ナル場合ニ於

テ管轄權ヲ有スル裁判所ヲ指定スルコトヲ云フ而シテ其之ヲ指定スヘキ場合ハ裁判所構成法第十條ノ規定スル所ニシテ左ノ四個ノ場合ナリトス

(一) 權限アル裁判所カ法律上ノ理由若クハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フヲ得ス且ツ之ニ代ルヘキ裁判所カ之ヲ行フヲ得サルトキ

(二) 管轄區域ノ境界明瞭ナラサルトキ

(三) 二以上ノ裁判所カ法律ニ從ヒ又ハ確定判決ニ因リ裁判權ヲ互有スルトキ

(四) 二以上ノ裁判所カ權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セストノ

確定判決ヲ受ケタルモ其裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

右ノ場合ニ於テ其申請ヲ爲スヘキ者ハ檢事及ヒ訴訟關係人ナリ而シテ其申請ヲ決定スル裁判所ハ直近上級裁判所ナリトス其手續ノ如キハ刑事訴訟法第三十二條及ヒ第三十三條ノ規定スル所ナリ

裁判管轄ノ移送トハ公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スコトヲ云フ故ニ裁判管轄ヲ移スニ二個ノ場合アリ即チ第一ハ公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス場合ニシテ第二ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス場合ナリトス



(一) 公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スハ刑事訴訟法第三十四條ニ規定スル所ニシテ犯罪ノ性質被告人ノ身分員數地方ノ民心其他重大ナル事情ニ由リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スルノ恐アル場合ニシテ例ヘハ國事犯ノ場合ニ於ケルカ如ク平穩ニ裁判ヲ爲サシメンカ爲メナリ

(二) 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スハ同法第三十六條ノ規定スル所ニシテ被告人ノ身分地方ノ民心又ハ訴訟ノ模様ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル恐レアル場合ニシテ例ヘハ社會上流ノ人カ被告タルノ場合ニ於ケルカ如ク裁判官ノ獨立ヲ維持シ公平ナル裁判ヲ爲サシメンカ爲メナリ

右第一ノ場合ニ於テハ檢事總長ノ申請ニ因リ大審院之ヲ決定シ第二ノ場合ニ於テハ檢事又ハ其他訴訟關係人ノ申請ニ因リ上級裁判所之ヲ決定スルモノナリ又第二ノ場合ニ於テハ民事原告人カ其裁判所ニ私訴ヲ提起シ又ハ被告人カ異議ナク辯論ヲ爲シタルトキハ其申請ハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス又右第二ノ場合ニ於テ申請アリタルトキハ本案ノ訴訟手續ハ之ヲ停止セサルヘカラス

尙ホ第二ノ場合ニ於ケル申請ノ手續ノコトハ刑事訴訟法第三十八條ニ規定セラレタリ

## 第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避、回避

茲ニ裁判所職員ト云フハ判事及ヒ裁判所書記ノコトニシテ檢事ノ如キハ之ヲ包含セサルモノナリ

訴ヲ受ケタル事件ニ付キ判事カ裁判ヲ爲シ書記カ其事件ヲ取扱フハ一ノ職權ナルノミナラス又一ノ職務ナリトス然ルニ訴ヲ受ケタル事件ト雖モ法律上判事ニ裁判ヲ爲スヲ許サス又書記ニ其事件ヲ取扱フコトヲ許ササル場合ト裁判上判事ニ裁判ヲ爲スヲ許サス又書記ニ其事務ヲ取扱フコトヲ許ササル場合トアリ其法律上ナルト裁判上ナルトヲ問ハス之ヲ許ササル理由ハ裁判ノ獨立又ハ其公平ヲ維持スルコト能ハス又縱令之ヲ維持スルモノトスルモ外面ヨリ觀ルトキハ之ヲ維持セサルモノノ如ク疑ヲ容ルヘキ餘地アルヲ以テナリ

法律上判事ニ裁判ヲ爲スヲ許サス又書記ニ事務ヲ取扱フコトヲ許ササル之ヲ

名ケテ法律上ノ除斥ト云ヒ裁判上判事ニ裁判ヲ爲スヲ許サス又書記ニ事務ヲ取扱フコトヲ許ササル之ヲ名ケテ裁判上ノ除斥ト云フ  
法律上ノ除斥即チ法律上判事ニ裁判ヲ爲スヲ許サス又書記ニ事務ヲ取扱フコトヲ許ササル場合ノコトハ刑事訴訟法第四十條ニ規定スル所ニシテ左ノ四個場合ナリトス

- (一)判事若クハ書記カ被害者ナルトキ
- (二)判事若クハ書記又ハ其配偶者ト被告人被害者又ハ此等ノ者ノ配偶者ト親屬ナルトキ但シ姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ
- (三)判事若クハ書記カ其事件ニ付キ證人鑑定人ト爲リタルトキ又ハ被告人若クハ被害者ノ法律上代理人ナルトキ
- (四)判事若クハ書記カ其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキ

右第一第二及ヒ第三ノ後段ノ場合ニ於テハ判事若クハ書記カ其事件ニ付キ直接又ハ間接ニ其公平ヲ維持スルコト能ハサルヘク又縱令聖人君子ノ如キ判事

アリテ自己ノ利害ノ爲メ裁判ヲ爲スニ私心ヲ挿ムコトナシトスルモ他ヨリ之ヲ觀ルトキハ私心ヲ挿ミテ裁判ヲ爲スヘシト疑ヲ容ルヘキ餘地アルヲ以テナリ婚姻ノ解除シタルトキハ最早利害ノ關係ハナカルヘキモ婚姻ノ解除ハ不和ヲ推定スルニ足ルヲ以テ其姻族ニ對シ之ヲ惡ミテ不利益ナル裁判ヲ爲スノ恐ナキヲ免レサルヲ以テナリ又右第三ノ前段及ヒ第四ノ場合ニ於テハ判事カ已ニ己レノ意見ヲ吐露シタルヲ以テ縱令其非ヲ知ルモ前意見ヲ主張スルナキヲ保證スル能ハス即チ裁判ノ公平ニ尤モ必要ナル心ノ自由ニ缺タル所ナキヲ保證スル能ハサルヲ以テナリ

法律上ノ除斥ハ法律上判事若クハ書記カ事件ニ干與スルコトヲ許ササルモノナルカ故ニ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス即チ第一審ナルト第二審ナルト又上告審ナルトヲ問ハス前記場合ノ一ニ當ル判事若クハ書記ヲ事件ニ干與セシメテ裁判ヲ爲ス能ハス若シ之ニ違背スルトキハ法則ヲ適用セサル不法ノ判決タルヲ免レサルヲ以テ控訴者クハ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ヘシ  
裁判上ノ除斥即チ裁判上判事ニ裁判ヲ爲スヲ許サス又書記ニ事務ヲ取扱フコ

トヲ許ササル場合ニ二箇ノ原由アリ即チ一ヲ忌避ト云ヒ一ヲ回避ト云フ  
 忌避トハ檢事又ハ其他訴訟關係人ヨリ判事若クハ書記ヲ職務ノ執行ヨリ除斥  
 セラレンコトヲ申請スルコトヲ云フ

故ニ忌避ノ申請ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ檢事又ハ其他訴訟關係人ナリ而シテ  
 其申請ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ハ第一前記法律上ノ除斥ノ場合第二其他偏頗  
 ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ルハキ情況アル場合はナリ此第二ノ場合ニ於  
 テ其情況アルヤ否ヤヲ決スルハ事實上ノ審査ニ屬スルモノトス

忌避ノ申請及ヒ其裁判ニ付テハ民事訴訟法第三十四條乃至第三十八條ノ規定  
 ニ從フコトヲ要ス(第四二條)

故ニ偏頗ノ裁判ヲ爲スヘキ恐アル場合ニ於テハ被告カ公廷ニ於テ陳述ヲ爲シ  
 タルトキハ忌避ノ申請ヲ爲スヲ得サルモノトス何トナレハ其恐アルニ拘ラス  
 陳述ヲ爲シタルトキハ判事若クハ書記ノ事件ニ干與スルコトヲ甘諾シタルコ  
 トヲ推知シ得ルヲ以テナリ是ヲ以テ其理由ノ結果トシテ若シ其忌避ノ原因カ  
 陳述ヲ爲シタル後ニ生シ又ハ後ニ之ヲ覺知シタルトキハ忌避ノ申請ヲ爲スコ

トヲ得ヘシ

忌避ノ申請ハ區裁判所判事ニ對スルトキハ上級裁判所之ヲ決定シ又合議裁判  
 所ノ判事ニ對スルトキハ其裁判所ニ於テ之ヲ決定スヘシ忌避セラレタル合議  
 裁判所判事ハ其裁判ニ干與スルコトヲ得サルモノトス故ニ若シ其判事ヲ除キ  
 部員ニ不足ヲ生スルコトアラハ上級裁判所ニ於テ之ヲ決定スルモノトス又書  
 記ニ對スルトキハ書記所屬ノ裁判所ニ於テ之ヲ決定スルモノトス(第四五條民  
 事訴訟法第三六條)

忌避ノ申請アリタルトキハ公判ニ於テハ本案ノ辯論ハ之ヲ中止セサルヘカラ  
 スト雖モ豫審ニ於テハ其手續ヲ進行セサルヘカラス何トナレハ豫審ニ於テハ  
 證據ノ蒐集等ニ關シ最モ急速ヲ要スルコト多キヲ以テナリ故ニ其理由ノ結果  
 トシテ豫審事件ト雖モ急速ヲ要セサル場合ニ於テハ其手續ヲ中止スルコトヲ  
 得ルトノ例外ヲ設ケラレタリ(第四三條)

回避トハ判事若クハ書記自ラ其職務ノ執行ヨリ除斥セラレンコトヲ申立ツル  
 ヲ云フ而シテ其申立ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ハ第一前記法律上ノ除斥ノ場合

第二、判事若クハ書記自ラ回避スヘキモノト思料シタル場合はナリ第二ノ場合ニ於テ回避ノ原因アリヤ否ヤヲ決スルモ亦事實ノ審査ニ屬スルモノトス右申立ノ裁判ニ付テハ前記忌避ノ申請ヲ裁判スル裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス(第四四條)

### 第三編 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

本編ニ於テハ犯罪アリシ當時ヨリ公判ニ至ルマテノ手續ニ關スルコトヲ講述スヘシ

## 第一章 捜査

裁判ヲ受クルニハ起訴ヲ要シ起訴ヲ爲スニハ捜査ヲ必要ナリトス何トナレハ捜査不十分ナレハ起訴ヲ爲スモ其目的ヲ達スルコト能ハサルヘキヲ以テナリ故ニ裁判ヲ受ケントスルニハ第一著ニ捜査ヲ能クスルノ必要アリトス而シテ公訴權ヲ行フハ檢事ノ職務ニ屬スルヲ以テ捜査ヲ爲スノ權モ亦檢事ニ屬スル

モノト云ハナルヘカラス

捜査トハ犯罪ノ證據及ヒ犯人ヲ捜査スルコトヲ云フ即チ告訴狀、告發狀及ヒ其附屬書類新聞紙等ニ付キ犯罪ノ有無其種類並ニ犯罪人ノ誰ナルヤ等ヲ取調フル所ノ處分ナリ故ニ檢事ハ捜査處分トシテ探偵ヲ使用シ警察署、村役場等ニ對シ嫌疑者ノ品行等ヲ尋ヌルコトヲ得ヘク又關係人ノ訊問ヲモ爲スヲ得ヘシト雖モ豫審處分ニ立入ラサル様注意セサルヘカラス

捜査處分ニ付キ檢事ヲ補佐スル所ノ官吏、公吏アリ是レ刑事訴訟法第四十七條ノ第二項ニ規定スル所ニシテ(一)警視、警部長、警部、警部補(二)憲兵、將校、下士(三)島司(四)郡長(五)林務官(六)市町村長即チ是ナリ

又茲ニ特ニ法律ヲ以テ捜査權ヲ與ヘラレタル者ナキニ非ス即チ海船内ノ犯罪ニ付テハ船長ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行ヒ(第四八條)又間接國稅處分法違反事件ニ付テハ稅務屬、稅關法違反事件ニ付テハ稅關ノ官吏、司法警察官ノ職務ヲ行フモノトス(明治二十三年第八六號間接國稅犯則者處分法同年第八〇號稅關法)

又茲ニ捜査ニ關シ檢事ト同一ノ權限ヲ有スル所ノ者アリ即チ警視總監地方長官東京府知事ヲ除ク即チ是ナリ(第四七條)

檢事カ犯罪ヲ認知スルノ原因種種アルヘシト雖モ茲ニ其重ナルモノ三箇アリ即チ告訴告發及ヒ現行犯是ナリ

### 第一節 告訴及ヒ告發

告訴トハ被害者ヨリ犯罪アリタルコトヲ官ニ申告スルコトヲ云フ云ハ告發トハ被害者以外ノ者ヨリ犯罪ノアリタルコトヲ官ニ申告スルコトヲ云フ

告訴又ハ告發ヲ爲スニハ證據及ヒ參考ト爲ルヘキコトヲ添ヘテ犯罪ノ地若クハ被告所在ノ地ノ裁判所ノ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スヘシ

告訴又ハ告發ヲ爲スニハ口頭ニテ之ヲ爲スモ書面ヲ以テ之ヲ爲スモ蓋支ナク又代人ニ委任シテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ又一旦爲シタル告訴又ハ告發ト雖

モ隨意ニ之ヲ取下クルコトヲ得ヘシ  
右ノ如ク告訴ト告發ハ其規定ヲ同シクスト雖モ官吏公吏カ告發ヲ爲ストキハ

告訴ト其趣ヲ異ニスル點ナキニ非ス故ニ官吏公吏カ職務上犯罪アリタルコトヲ知リタルトキハ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發セサルヘカラス此場合ニ於テハ代人ニ委任スルコトヲ許サス又口頭ニテ爲スコトヲ許ササルモノナリ

告發ヲ爲スハ官吏公吏ニ對シテハ一ノ義務ナリト雖モ一般人民ニ對シテハ之ヲ以テ義務トセス何トナレハ法律上告訴又ハ告發ヲ爲スヘキコトヲ命スルハ德義ヲ損シ私交ヲ害スルノ恐アルヲ以テ法律ハ可成之ヲ避ケンコトヲ欲シタルモノナリ故ニ刑事訴訟法上ニ於テハ告訴又ハ告發ヲ爲スコトヲ命シ又ハ之ヲ賞スルコトナキモ諸罰則中或ハ之ヲ爲スコトヲ獎勵シタルモノナキニ非ス

例ヘハ稅關法第五十三條ニ於テ密輸出入ヲ稅關ニ申告スル者ニ沒收物代價ノ半額ヲ給與シ又明治十五年第二十五號布告第四條ニ於テ富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニ其徵收スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與スルカ如シ

檢事カ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキ檢事自ラ之ヲ調査シ或ハ起訴ヲ爲シ或ハ不起訴ノ處分ヲ爲スモノナリ司法警察官カ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ違警罪ニ付テハ自ラ即決ヲ爲スコトヲ得ヘシ(明治十八年第三一號違警罪即決例

同十九年勅令第四四號同二十二年法律第二五號ト雖モ重輕罪ニ付テハ其書類ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スルコトヲ要ス(第四九條第五三條第二項)

## 第二節 現行犯罪

現行犯トハ犯罪發覺ノ當時現ニ行ヒツツアル所ノ犯罪ヲ云フモノニシテ犯罪ト發覺ト同時又ハ殆ト同時ナルコトヲ要スルモノナリ故ニ捜査上非現行犯ト大ニ其規定ヲ異ニセリ現行犯ニ付テハ被告人ノ逮捕及ヒ證據ノ蒐集ニ關シ最も急速ヲ要スルカ故ニ非現行犯ト同一ノ規定ヲ適用スルコト能ハサルヲ以テナリ

現行犯ノコトハ刑事訴訟法第五十六條ノ規定スル所ニシテ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際發覺シタル罪ヲ名ケテ現行犯ト謂フ例ヘハ殺人罪ヲ犯ス所ヲ巡查ニ發見セラレタル場合ノ如キ是ナリ

又茲ニ真正ノ現行犯ニ非サルモ法律上現行犯ニ准シタル場合アリ是レ眞ノ現行犯ナラサルモ被告人ノ逮捕及ヒ證據ノ蒐集ニ付キ急速ヲ要スルカ故ニ現行

犯ト訴訟手續ヲ同シウスル爲メ現行犯ニ准シタルモノニシテ之ヲ名ケテ准現行犯ト云フ准現行犯ノ場合ハ刑事訴訟法第五十七條ニ規定セラレタリ同條ニ依リ現行犯ニ准セラレタル場合ハ左ノ如シ

(一) 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラレルトキ

犯人トシテ追呼セラレナカラ逃ケ行クトキハ犯罪ノ嫌疑アルカ故ニ直チニ之ヲ捕ヘ其犯人ナルヤ否ヤヲ取調フルハ極メテ必要ニシテ非現行犯ノ規定ヲ茲ニ適用スルハ不便ナルヲ以テナリ

(二) 兇器、贓物其他ノ物件ヲ携帶シ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキトキ

此ノ如キ場合ニ於テモ犯罪ノ嫌疑アルコトハ勿論ニシテ前同様至急其取調ヲ爲スノ必要アルヲ以テナリ

(三) 家宅内ニ於テ犯罪シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思料ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタルトキ

此場合モ亦犯罪ノ嫌疑アルハ勿論ニシテ前同様急速其取調ニ著手スルノ必要

アルヲ以テナリ

現行犯ノ豫審ニ付テハ非現行犯ノ豫審ト其規定ヲ異ニスル所アリト雖モ是レハ豫審處分ノ處ニ至リテ講述スヘシ本節ノ規定スル所即チ本節ニ於テ予カ講述スル所ハ被告人ノ逮捕及ヒ引致ニ關スル規定ニ外ナラス

人ヲ逮捕スルハ一大事ナリ故ニ憲法第二十三條ニ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕ヲ受クルコトナレ<sub>下</sub>規定セラレタリ然リ而シテ判事ノ令狀ナケレハ人ヲ逮捕スル能ハサルコトハ一ノ原則タリ然レトモ現行犯ノ場合ニ於テハ急速ヲ要スルヲ以テ令狀ヲ得ルノ暇ナキカ故ニ令狀ヲ待タスシテ犯罪人ヲ逮捕スルコトヲ許シタリ

重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ルヘキ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル者ハ何人ニ限ラス即チ司法警察官巡查憲兵卒ハ勿論常人ニテモ犯罪人ヲ逮捕スルコトヲ得

巡查憲兵卒又ハ常人カ犯罪人ヲ逮捕シタルトキハ其犯罪人ハ之ヲ司法警察官ニ引致スヘク此場合ニ於テ若シ巡查憲兵卒ノ引致ニ係ルトキハ司法警察官ハ逮捕告發調書ヲ作成スルコトヲ要ス若シ常人カ犯罪人ヲ逮捕シタル場合ニ於テ之ヲ司法警察官ニ引致スル能ハサルトキハ常人ハ犯罪人ヲ巡查若クハ憲兵卒ニ引渡スコトヲ要スヘシ此場合ニ於テハ常人ハ告訴又ハ告發ノ手續ヲ爲ササルヘカラス

罰金ノ刑ニ該ルヘキ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯ニ付テハ犯罪人ヲ逮捕スルコト能ハス故ニ此場合ニ於テハ犯罪人ノ住所氏名ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ管轄裁判所ノ檢事ニ又違警罪ニ付テハ即決ヲ爲スヘキ官署ニ告發ノ手續ヲ爲ササルヘカラス然レトモ住所氏名不明ナルカ又ハ逃亡ノ恐アルトキハ檢事又ハ即決ヲ爲スヘキ官署ニ犯罪人ヲ引致スルコトヲ得ヘシ

即決ヲ爲スヘキ官署トハ警察署長分署長憲兵屯所等ヲ云フ

## 第二章 起 訴

檢事カ犯罪ノ捜査ヲ終リタルトキ其所爲罪ト爲ラス又ハ公訴不受理ノモノト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲スヘカラスト雖モ其他ノ場合ニ於テハ起訴

刑事訴訟法 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審 起訴

スルコトヲ要スルモノナリ起訴トハ豫審判事ニ其事件ノ豫審ヲ求メ又ハ管轄裁判所ニ其事件ノ公判ヲ請求スルコトヲ云フ  
重罪ニ付テハ必ス豫審ヲ必要トシ違警罪ニ付テハ之ヲ要セサルモ輕罪ニ付テハ檢事ニ於テ其輕重難易ヲ見テ或ハ豫審ヲ求メ或ハ直チニ公判ヲ請求スルモノトス何レノ場合ニ於テモ被告人證人等ヲ指摘シ證據參考書類等ヲ添フルコトヲ要スルモノナリ

檢事ニ於テ被告事件カ其裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料セタルトキハ管轄裁判所ノ檢事ニ其事件ヲ送致スヘシ

### 第三章 豫 審

豫審ハ公判ニ付スル前行フ所ノ取調ニシテ其目的事件ヲ公判ニ移スヘキヤ將タ免訴スヘキヤヲ決定スル所ナリ故ニ豫審ノ目的ハ證據ヲ蒐集スルニ外ナラス即チ犯罪ノ證據十分ナリヤ不十分ナリヤヲ決定スルニ外ナラス犯罪人ヲシテ法網ヲ免レシメ又ハ無辜ノ者ヲ罰スルハ法ノ大禁ナリ故ニ豫審ノ制度ヲ設ケ告訴發等ノ場合ニ於テハ能ク其眞偽ヲ審査シ無罪ノ者ニ對シテハ直チニ訴ヲ免シ又有罪ノ者ニ對シテハ能ク其證據ヲ蒐集シ以テ法網ヲ免レサラシメシコトニ勉メタリ是ヲ以テ豫審ニ於テハ被告ノ利益不利益トモ其證據ヲ蒐集セサルヘカラス豫審ノ設ケナキトキハ或ハ徒ニ無罪ノ者ヲ公判廷ニ引出シテ其名譽ヲ毀損シ又或ハ有罪ノ者ヲシテ證據不備ノ爲メ法網ヲ免レシムルコトナキヲ保證スル能ハス故ニ豫審ノ目的ハ寧ロ濫訴ヲ防キ徒ニ良民ヲ公判廷ニ被告トシテ出頭セシメサルニ在リト云フモ大ナル過チナカルヘシ

豫審ノ性質ハ左ノ如シ

- (一) 豫審ハ公判ト異ナリテ書面審理ナリ
  - (二) 豫審ハ公判ト異ナリテ密行ナリ
  - (三) 豫審ハ公判ト異ナリテ對審ニ非ス檢事ニハ豫審中訴訟記録ヲ檢閲スルコトヲ許スモ被告ニハ單ニ其供述書ノ謄本ヲ求ムルコトヲ許スノミ
- 豫審判事ハ裁判官ナルカ故ニ檢事ノ請求アルニ非サレハ豫審ニ取掛ルコトヲ得サルモノトス若シ此規定ニ背キタルトキハ其制裁トシテ請求以前ノ豫審手



續ハ總テ無効ノモノナリトス此規定ヲ設ケタル理由ハ裁判官ハ訴ナケレハ理  
セストノ原則ノ適用ニ外ナラスシテ若シ之ヲ許ストキハ檢事ノ職務ニ屬スル  
公訴權ヲ侵害スルノ恐アルヘキヲ以テナリ

右規定ニ二箇ノ例外アリ即チ左ノ如シ

(一) 現行犯ノ場合ニ於テハ檢事ノ請求ナクモ豫審判事ハ豫審ニ取掛ルコトヲ  
得ヘシ此事ニ關シテハ後ニ至リテ詳細ニ講述スヘシ

(二) 公廷ニ於テ發見シタル偽證罪ニ付テハ檢事ノ請求ナクモ裁判所ヨリ事件  
ヲ送致セラレタルトキハ豫審判事ハ其豫審ヲ爲ササルヘカラス第一九五條)  
檢事ハ豫審中訴訟記録ノ檢閲ヲ求ムルコトヲ得ヘク又必要ナリト思料スル所  
ノ處分ヲ臨時請求スル事ヲ得ヘシ是レ檢事ハ原告官ナルカ故ニ訴追ノ目的ヲ  
達セシメンカ爲メニ外ナラス檢閲ノ爲メ受取リタル訴訟記録ハ二十四時間内  
ニ還付スルコトヲ要ス是レ急速ヲ要スル豫審ノ進行ヲ妨ケサラシメンカ爲メ  
ナリ又檢事ヨリ請求シタル處分カ必要ナルトキハ豫審判事ハ之ヲ容レテ其處  
分ヲ爲ササルヘカラス其處分トハ令狀ヲ發スルコト及ヒ證人ヲ訊問スルコト

等ヲ云フ若シ檢事ノ請求ニシテ不必要ナルトキハ之ヲ爲ササルノミニシテ別  
ニ却下ノ決定ヲ與フルニハ及ハス

豫審處分ハ二箇ニ之ヲ區別スルコトヲ得ヘシ即チ一ハ犯罪人ノ捕獲ニシテ一  
ハ證據ノ蒐集ナリ

司法大臣ハ毎年地方裁判所判事申ヨリ豫審判事ヲ任命スルモノナリ裁判所構  
成法第二一條

### 第一節 令 狀

令狀ハ犯罪人ノ捕獲ニ關スルモノニシテ豫審進行ノ爲メ犯罪人ヲ呼出シ又ハ  
其逃亡ヲ防ク爲メ犯罪人ノ身體ヲ拘束スルノ必要アリテ一時人ノ自由ヲ妨ク  
ル爲メ之ヲ設ケタルモノナリ

令狀ニ三種アリ召喚狀拘引狀及ヒ拘留狀即チ是ナリ召喚狀ハ單ニ出頭ヲ命ス  
ルモノナルカ故ニ人ノ自由ニ關係スルコトナキモ拘引狀ハ人ヲ裁判所ニ拘引  
シ四十八時間内之ヲ留置スルコトアルヲ以テ人ノ自由ニ關係シ又拘留狀ハ其

目的全ク人ノ自由ヲ束縛スルニ在リ

「日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁ヲ受タルコトナシ」トハ憲法第二十三條ノ規定スル所ニシテ人ノ自由ヲ束縛スルノ大事ナルコト推シテ知ルヘシ而シテ有罪ノ判決カ確定スルニ至ルマテハ無罪ノ人タルハ當然ナルカ故ニ其判決以前ニ在テ人ノ身體ヲ拘束スルハ道理ノ許ササル所ナラン然レトモ其必要ニシテ止ムヲ得サルニ當リテハ之ヲ許ササルヲ得サルヘシ是レ法律上豫審中ノ被告人ヲ拘留スルコトヲ許ス所以ナリ拘留ハ社會ノ安寧ヲ維持シ刑ノ執行ヲ確實ニシ事實ノ發見ヲ容易ナラシムル爲メ之ヲ許スモノナリ

以下各令狀ニ共通ナル規則ヲ示サン

- 第一 令狀ニハ被告事件被告人ノ氏名職業住所ヲ記載スルコトヲ要ス氏名不明ノトキハ召喚狀ヲ除クノ外ハ容貌體格等ヲ明示スルコトヲ要ス
- 第二 令狀ニハ其年月日ヲ記載シ判事裁判所書記カ署名捺印スルコトヲ要ス
- 第三 召喚狀ハ執達吏ヲシテ之ヲ送達セシメ拘引狀拘留狀ハ巡查憲兵卒又ハ司獄官吏ヲシテ之ヲ執行セシムルモノナリ

第四 召喚又ハ拘引ノ場合ニ於テ正當ノ事由アリテ出頭スルコト能ハサルトキハ判事ハ被告人ノ所在ニ就テ訊問スルコトヲ得ヘシ

第五 拘引狀拘留狀ハ正本數通ヲ作り巡查憲兵卒數人ヲシテ之ヲ携帯セシムルコトヲ得ヘシ

第六 拘引狀拘留狀ヲ執行スルニハ正本ヲ携帯シ請求ニ應シテ之ヲ示スヘシ  
第七 拘引狀拘留狀ヲ執行スルニハ正本ニ其執行ノ場所日時ヲ記載シ執行不能ノトキハ其事由ヲ記シ署名捺印スルコトヲ要ス

第八 巡查憲兵卒ハ市町村長又ハ隣佑二名以上ヲ立會ハシメ家宅ヲ搜索スルコトヲ得ヘシ又之ヲ爲スノ義務アリ

第九 右搜索ヲ爲シタルトキハ搜索圖書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印スヘシ  
第十 右家宅搜索ハ日出前日没後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅店割烹店等ニ於テハ公開時間内ハ何時ニテモ搜索ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第十一 被告人他ノ管轄地内ニ在ルトキハ巡查憲兵卒ニ令狀ヲ帶行セシムルコトヲ得ヘシ令狀ハ日本國內ニ於テ執行力アルモノナリ

第十二 右巡查憲兵卒ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ令狀ヲ示シ其執行ヲ求ムヘシ

第十三 豫備又ハ後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對シ令狀ヲ發セシトキハ其所屬長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示シ然ル後其執行ヲ爲スヘシ

第一 召喚狀

被告人ヲ訊問スルコトハ豫審ニ於ケル第一著ノ處分ナリ第九三條而シテ被告人ヲ訊問スルニハ之ニ對シ先ツ召喚狀ヲ發スルコトヲ要スルハ論ヲ埃タヌ是レ刑事訴訟法第六十九條ニ於テ豫審判事ハ檢事ノ起訴ニ因リ重罪輕罪ノ事件ヲ受理シタルトキハ被告人ニ對シ先ツ召喚狀ヲ發ス可シト規定セル所以ナリ豫審判事カ召喚狀ヲ發スルトキハ其送達ト被告人出頭トノ間ニ少クトモ二十四時即チ一日ノ猶豫ヲ與フルコトヲ要スト規定セラレタリ是レ裁判所ト被告人ノ住居ト多少ノ距離アルヘキニ付キ即時出頭ヲ命スルモ實際出頭ヲ爲シ能ハサルコトアルヘキニ付キ一日ノ猶豫ヲ與フルコトト爲シタルモノナリ被告人出頭ノ上ハ豫審判事ハ即時又ハ其日ノ内ニ訊問ヲ爲スコトヲ要ス是レ

召喚シタル者ヲ永ク裁判所ニ留置スルハ召喚ノ性質ニ適合セサルヲ以テナリ若シ被告人カ裁判所ノ管轄地内ニ住居セサルトキハ被告人所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ被告人ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得ヘシ然レトモ囑託訊問ヲ爲スト否トハ豫審判事ノ職權内ニ屬スルヲ以テ被告人ヲ其裁判所ニ召喚シテ自ラ其訊問ヲ爲スモ差支ナカルヘシ

第二 拘引狀

拘引狀ノ目的モ召喚狀ト同様被告人ヲシテ豫審判事ノ面前ニ訊問ノ爲メ出頭セシムルニ在リ  
拘引狀モ召喚狀モ右ノ如ク其目的ハ同一ナリト雖モ其性質及ヒ其執行ニ付テハ大ナル差異アルモノナリ  
其性質ノ異ナル所ハ召喚ノ場合ニ於テハ被告人ノ出頭ハ任意ナリト雖モ拘引ノ場合ニ於テハ其出頭ハ強制ニ依ルモノナリトス之ヲ約言セハ拘引狀ハ強制力アルモ召喚狀ハ強制力ナキモノトス  
又其執行ノ異ナル所ハ召喚狀ハ何レノ場合ニテモ之ヲ發スルコトヲ得ヘキモ

拘引狀ハ之ヲ發スヘキ場合ヲ限ラレタリ其場合ハ即チ左ノ如ク

第一 被告人カ召喚ニ應セサルトキ

第二 被告人カ一定ノ住所ナキトキ

第三 證據湮滅逃亡ノ恐アルトキ

第四 未遂犯又ハ脅迫罪ニシテ仍ホ目的ヲ遂クルノ恐アルトキ

右ノ如ク法律上其場合ヲ限ラレタルモ實際ニ於テハ其場合ニ該當セリト認定スルハ一ニ豫審判事ノ職權ニ屬スルヲ以テ豫審判事ハ拘引狀ヲ發スルニ付キ深ク注意ヲ爲ササルヘカラス

拘引シタル被告人ハ四十八時間内ニ訊問スルコトヲ要ス此時間ヲ空過スルトキハ當然之ヲ釋放セサルヘカラス

罰金ノ刑ニ該ルヘキ輕罪事件ニ付キ豫審判事ハ被告人ニ對シ拘引狀ヲ發スルコトヲ得ヘキヤ公判ノ場合ニ於テハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ被告人ニ對シテノミ拘引狀ヲ發スルコトヲ得ヘキ規定第一七八條第一項アルヲ以テ觀レハ豫審ニ於テモ拘引狀ヲ發スルコトヲ得ルハ禁錮以上ノ刑ノ場合ニシテ罰金ノ刑

ノ場合ニ於テハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得サルカ如ク然レトモ豫審ニ於テ拘引狀ヲ發スル場合ニ於テ禁錮以上ノ刑ノ場合ニ限ルトノ規定第七五條アルモ拘引狀ニ就テハ別段ノ禁止ナク刑事訴訟法第七十一條第七十二條ニ於テ罰金ノ刑ト禁錮以上ノ刑トヲ分タサル所ヲ以テ觀レハ豫審ニ於テハ罰金ノ刑ニ該ルヘキ被告人ニ對シテモ拘引狀ヲ發スルコトヲ得ルモノト云フヲ得ヘク又豫審ノ目的ハ公判ト異ナリ證據ノ蒐集ニ在ルヲ以テ罰金ノ刑ニ該ルヘキ事件ト雖モ被告人ヲ訊問スルノ必要アルトキハ之ヲ拘引スルコトヲ許スハ當然ニシテ刑事訴訟法第百十八條ニ於テ證人ニ對シ拘引狀ヲ發スルコトヲ許シタルヲ以テ觀ルモ之ヲ推知スルニ足ラン

第三 拘留狀

拘引狀ノ效力ニ依リ被告人ヲ留置スルハ四十八時間即チ二日間ニ止マルヲ以テ輕易ノ事件ニ付テハ其時間内ニ豫審ヲ終結シ得ヘシト雖モ事件ニ因リテハ其時間内ニ之ヲ終結スルヲ得サルヲ以テ其時間ノ外ニ尙ホ被告人ノ身體ヲ拘束スルノ必要アルヘシ是ヲ以テ豫審判事カ必要ナリト思料スル場合ニ於テハ

拘留状ヲ發シ永ク被告人ノ身體ヲ拘束スルコトヲ許シタリ而シテ豫審判事カ  
拘留状ヲ發スルニハ左ノ二箇ノ條件アルヲ必要トセリ

第一 被告人ヲ訊問シタルコト但シ逃亡ノトキハ此限ニ在ラス

第二 禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト思料スルトキ

拘留スヘキ被告人ハ拘留状ニ指定セラレタル監獄ニ引致スヘシ若シ指定セラ  
レタル監獄ニ引致スルコト能ハサルトキハ假ニ最近ノ監獄ニ引致スルコトヲ  
得ヘシ

右ノ場合ニ於テハ監獄署長ハ被告人ヲ引致シタル者ニ對シ其領收證書ヲ交付  
スヘシ又在監中ノ被告人ニ對シ發シタル拘留状ハ司獄官吏ヲシテ其執行ヲ爲  
サシムルモノナリ

拘留ヲ受ケタル被告人ハ官吏立會ノ上ニ非サレハ他人ト接見スルコトヲ得ス  
又書類ハ豫審判事又ハ檢事ノ檢閲ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ授受スルコトヲ  
得サルモノトス

必要ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ別房拘留ヲ命シ他人トノ接見及ヒ書類物件ノ

授受ヲ禁シ又書類物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得ヘシ

密室監禁廢止以前ニ在テハ豫審判事ハ密室監禁ヲ命スルコトヲ得タルモ今日  
ニ於テハ密室監禁ハ之ヲ命スルコトヲ得ス

拘留ノ消滅又ハ停止スヘキ場合四アリ即チ

第一 免訴ノ言渡アリタルトキ此場合ニ於テハ被告人ヲ放免セサルヘカラス

第二 禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノナラスト思料スルトキ此場合ニ於テハ何

時ニ拘ラス豫審判事ハ拘留状ヲ取消ササルヘカラス是レ拘留状ヲ發スヘキ

條件ヲ缺クヲ以テナリ

第三 保釋ヲ許シタルトキ

第四 責付ヲ命シタルトキ

右第一第二ノ場合ニ於テハ拘留ハ全ク消滅ニ歸スルモ第三第四ノ場合ニ於テ  
ハ拘留ハ一時停止スルモノナリ故ニ保釋責付カ取消サレタルトキハ拘留ハ復  
活スルモノトス

### 第二節 保釋及ヒ責付

被告人ヲ拘留スルハ豫審判事ノ職權ニ屬スルモノナルカ故ニ保釋ヲ免シ又ハ責付ヲ命スルモ亦其職權ニ屬スルモノトス被告人カ逃亡シ又ハ證據湮滅ノ恐アル場合ニ於テハ被告人ノ身體ヲ拘束スルノ必要ハアルヘキモ被告人カ逃亡スルノ恐ナク又證據湮滅ノ恐ナキトキハ之ヲ拘束スルノ必要ナキヲ以テ豫審判事ハ保釋ヲ免シ又ハ責付ヲ命セサルヘカラス

#### 第一 保釋

保釋ヲ許スニハ左ノ條件アルコトヲ要ス

第一 被告人又ハ其法律上代理人ノ請求アルコト

第二 檢事ノ意見ヲ聽クコト

第三 出頭ニ付テノ證書及ヒ保證ヲ取置クコト(保證ハ金錢又ハ有價證券或ハ實力アル者ノ保證等ヲ以テ之ヲ爲サシム)  
右條件ヲ具備スルトキハ罪ノ如何ヲ問ハス何時ニ拘ラス保釋ヲ許スコトヲ得

ヘシ但シ重罪公判ニ付スル言渡ヲ爲ストキハ之ヲ取消ササルヘカラス  
保證ヲ立テシムルハ被告人ノ出頭ヲ保證セシムル爲メナリ故ニ若シ被告人カ正當ノ理由ナクシテ出頭セサルトキハ豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其全部又ハ幾部ヲ沒收スルノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ後ニ至リ免訴又ハ罰金以下ノ刑遂警罪又ハ罰金ニ該ル輕罪ニ處スヘキ事件トシテ言渡ヲ爲シタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ沒收シタル金額ヲ還付セサルヘカラス

一旦保釋ヲ許シタル後豫審判事ニ於テ之ヲ取消スヘキ場合ナキニ非ス其ハ左ノ三箇ノ場合ナリトス

- (一) 保證金ヲ沒收シタルトキ
  - (二) 豫審判事カ必要ナリト思料シタルトキ檢事ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス
  - (三) 重罪公判ニ付スルノ言渡ヲ爲ストキ
- 保釋ヲ許ササル言渡ニ對シテハ豫審判事所屬ノ裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ裁判所ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ其許否ヲ決定スルモノナリ

#### 第二 責付

責付ノ目的ハ保釋ト同様被告人ノ拘束ヲ解クニ在リト雖モ保釋ハ被告人又ハ其法律上代理人ノ請求ニ基キ責付ハ豫審判事ノ職權ニ屬スルノ差異ナキニ非ス故ニ其結果トシテ責付ト保釋トハ左ノ差異アリトス

(一) 保釋ハ請求ナケレハ之ヲ許スコト能ハサルモ責付ハ請求ナクシテ之ヲ許スコトヲ得ヘシ

(二) 保釋ヲ許スニハ保證ヲ立テシムヘキモ責付ヲ許ストキハ保證ヲ立テシムルコトナシ但シ親屬又ハ故舊ヨリ呼出ニ應ジ被告人ヲ出頭セシムヘキ證書ヲ差出サシム

然レトモ責付ト保釋トハ其規定ヲ同シウスル點ナキニ非ス即チ

(一) 責付ヲ命スルトキモ保釋ヲ許ストキト同様檢事ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

(二) 被告出頭セサルトキハ保釋ノ場合ト同様責付ヲ取消スコトヲ得ヘシ

(三) 責付ノ取消ヲ爲ス場合ニ於テハ保釋取消即チ保證金沒收ノ場合ト同様檢事ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

(四) 重罪公判ニ付スル言渡ヲ爲ストキハ保釋ノ場合ト同様責付ヲ取消ササルヘ

カラス

保釋責付中ノ被告人取締方ニ付テハ明治十六年司法省丙第八號達アリ

### 第三節 證據

被告事件ノ豫審ヲ爲スハ犯罪ノ成立ヲ定メ其犯人ノ誰ナルカラ發見スルニ在リ

本節ニハ證據ニ關スル總則ヲ掲ケ次節以下ニ於テ各證據ニ付キ其規定ヲ設ケラレタリ

證據ニ關スル總則ヲ左ニ講述セン

(一) 被告人ノ自白官吏ノ檢證調書證據物件證人鑑定人ノ供述其他諸般ノ徵憑ハ判事ノ判斷ニ任ス

是レ刑事訴訟法上認めラレタル一大原則ニシテ證據ノ判斷ハ裁判官ノ職權ニ屬スルモノトス即チ證據法上裁判官ヲ羈束スヘキ證據ハ一モ之アルコトナシ故ニ豫審判事ハ各證據ヲ綜合シ事實ノ認定ヲ爲スニ足ル心證ヲ得タル

トキハ有罪ノ判決ヲ爲スヲ得ヘキモ其心證ヲ得サルトキハ免訴ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス

(二) 豫審判事ハ檢事又ハ被告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ事實發見ノ爲メ必要ナリト思料スル所ノ證據徵憑ヲ集取スヘシ

豫審判事ハ檢事ノ起訴ナケレハ豫審ニ取掛ルコトヲ得スト雖モ起訴ヲ受ケタル以上ハ證據徵憑ヲ集取スルハ其職權内ニ在リ而シテ豫審判事ハ被告人ノ利益又ハ不利益ニ關スル總テノ證據徵憑ヲ集取スルコトヲ要ス

(三) 臨檢搜索物件差押被告人及ヒ證人ノ訊問ヲ爲スニハ裁判所書記ノ立會若クハ立會人二名又ハ監獄吏一名ノ立會アルコトヲ要ス

右處分ヲ爲シタルトキハ調書ヲ作り讀聞ケタル上立會人ト共ニ署名捺印スヘシ裁判所書記ノ立會ヒタルトキハ書記ニ於テ調書ヲ作成スヘク書記ノ立會ナキトキハ豫審判事自ラ調書ヲ作ラサルヘカラス

裁判所書記又ハ立會人ノ立會ナクシテ爲シタル處分ハ總テ無効ナリトス何トナレハ裁判所書記若クハ立會人ノ立會ヲ爲スハ不當ノ處分ナキコトヲ擔保スルモノナレハ其擔保ナキ處分ハ有效トスルコト能ハサルヲ以テナリ

#### 第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質

豫審ニ於テ先ツ被告人ヲ訊問スルハ自然ノ順序ナリ何トナレハ被告人ニ於テ或ハ其事實ヲ認メ或ハ辯解ヲ爲シテ反對ノ事實ヲ證明スルコトアルヘキニ付キ先ツ其訊問ヲ爲スノ要アルヲ以テナリ

然レトモ豫審判事ニ於テ急速ヲ要スルモノト思料スルトキハ被告人訊問ヲ後ニ譲リ其他ノ處分ヲ前ニ爲スコトナキニ非ス例ヘハ犯所ニ於ケル足跡ヲ檢證シ又ハ殺傷ニ關スル犯罪ノ場合ニ於テ被害者カ命ヲ絶ツ恐アルトキハ其證言ヲ得ル爲メ先ツ檢證又ハ被害者ノ訊問ヲ爲スコトヲ得ルカ如シ

被告人訊問ニ關スル規定ヲ左ニ摘示セン

(一) 豫審判事自ラ訊問ヲ爲スコトヲ要ス

(二) 被告人ノ自白ヲ得ル爲メ恐嚇又ハ詐言ヲ用フヘカラス

(三) 秘密ニシテ且ツ各別ニ訊問スルコトヲ要ス



- (四) 訊問ノ度數ニ付テハ別ニ制限ナシ然レトモ一回ハ必ス訊問ヲ爲スコトヲ要ス(被告人逃亡ノトキハ此限ニ在ラス)
- (五) 被告人ノ供述ヲ錄取シ被告人ニ讀聞ケタル上署名捺印セシムルコトヲ要ス
- (六) 被告人カ供述ニ付キ變更増減ヲ申立テタルトキハ更ニ訊問ヲ爲シタル上之ヲ錄取シ讀聞ケタル上署名捺印セシムルコトヲ要ス
- (七) 豫審判事カ必要ト思料スルトキハ對質ヲ命スルコトヲ得  
對質ニ付キ錄取讀聞等ノコトハ前記訊問ノ場合ノ規定ニ依ル
- (八) 裁判所ノ用語ハ日本語ナルヲ以テ日本語ヲ以テ訊問ス然レトモ止ムヲ得サル場合ニ於テハ通事ヲ用フルコトヲ得ヘシ裁判所構成法第一一五條故ニ被告人若クハ對質者カ國語ニ通セス又ハ啞者聾者ニシテ文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ用フルコトヲ得
- (九) 通事ハ宣誓ヲ爲スコトヲ要ス
- (十) 裁判所書記ハ通事ニ調書ヲ讀聞ケ署名捺印セシムヘシ
- (十一) 刑事訴訟法第三百三十六條第三百三十七條第四百一一條ノ規定ハ通事ニモ之ヲ適用ス

(十二) 通事ノ任用使用等ニ關スル規定ハ司法大臣之ヲ定ムルモノナリ(裁判所構成法第一一六條)

(十三) 通事ヲ得難キトキハ裁判所書記ヲ通事ニ用フルコトヲ得ヘシ(同法第一一七條)  
裁判所書記カ通事ヲ爲ストキモ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ要ス

### 第五節 檢證搜索物件差押

犯罪ノ形跡ヲ確ムヘキ通常ノ方法ハ檢證搜索物件差押及ヒ鑑定ノ四箇ナリ(鑑定ノ事ハ後ニ講述スヘシ)

豫審判事カ事實發見ノ爲メ必要ナリト思料スルトキハ犯所若クハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲スコトヲ得ヘシ

豫審判事檢證ヲ爲シタルトキハ犯罪ノ性質方法日時場所被告人ノ人違ナキコト並ニ被告人ノ利益トナルコトニ付キ調書ヲ作成セサルヘカラス

檢證ヲ爲スニハ裁判所書記ノ立會ヲ必要ナリトス檢事ノ立會ハ法律上之ヲ命  
セサルモ實際ニ於テハ檢事カ立會ヲ爲スコト尠カラズ  
捜索ハ犯罪ノ捜査處分トハ異ナリ即チ犯罪ノ捜査ハ檢事カ起訴以前ニ爲ス所  
ノ處分ナレトモ捜索ハ豫審處分ニ屬スルモノナリ  
日本臣民ハ法律ノ定ムル場合ノ外其許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及ヒ搜索  
セラルルコトナシトハ憲法第二十五條ノ命スル所ナリ  
豫審判事ハ被告人ノ住所又ハ事實ヲ證明スヘキ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ住  
所ニ臨ミ搜索ヲ爲スコトヲ得ヘシ

搜索ヲ爲スニハ本人ノ立會ヲ要ス本人不在ナルトキハ同居ノ親屬同居ノ親屬  
在ラサルトキハ市町村長ノ立會ヲ要ス右ハ裁判所書記ノ立會ノ外ナリトス  
搜索ハ日出前日没後ハ之ヲ爲ス能ハス但シ旅店割烹店其他夜間衆人ノ出入ス  
ル場所ニ付テハ其公開時間内ニ限り何時ニテモ搜索ヲ爲スコトヲ得ヘシ  
搜索ハ本人ノ身體又ハ其物件ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ  
臨檢搜索ニ依リ發見シタル物件カ事實發見ノ爲メ必要ナルトキハ豫審判事ハ

之ヲ差押フルコトヲ得ヘシ

此場合ニ於テハ差押目錄ヲ作成スルコトヲ要ス差押物件ノ監護遞送ハ裁判所  
書記之ヲ擔任スルモノナリ

差押ハ被告人ノ所有物ニ對シテハ勿論第三者ノ所有物ニ對シテモ之ヲ爲スコ  
トヲ得ヘシ

差押物件ハ被告人ニ示シ其辯解ヲ爲サシムヘシ而シテ其供述ハ調書ニ記載ス  
ルコトヲ要ス

日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外信書ノ秘密ヲ侵サルルコトナシト  
ハ憲法第二十六條ノ命スル所ナリ而シテ刑事訴訟法第百十三條ハ其例外ノ場  
合ノ一ヲ規定シタリ即チ同條ニ豫審判事カ必要ナリト思料スルトキハ驛遞電  
信鐵道ノ官署話會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ豫審事件ニ關係アル者ノ間  
ニ往復スル書類電報又ハ物件ヲ受取ル開披スルコトヲ得ト規定セラレタリ  
然レトモ第三者カ證言ヲ拒ムコトヲ得ル者ニシテ默秘スヘキ義務アル事情ニ  
關スル物件ニ付テハ其承諾アルニ非サレハ之ヲ差押ヘ及ヒ開披スルコトヲ得

サルモノナリ

左ニ前記檢證搜索物件差押ノ三處分ニ共通ノ規則ヲ摘示セン

(一) 其日ニ處分ヲ爲シテラサルトキハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守人ヲ置クコトヲ得

(二) 被告人ハ處分ニ自ラ立會ヒ又ハ代人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得但シ拘留中ハ立會フコトヲ得サルモ豫審判事ニ於テ其立會ヲ必要ナリト思料スルトキハ之ヲ立會ハシムヘシ

(三) 何人ニ限ラス其場所ニ許可ヲ得スシテ出入スルコトヲ得ス若シ之ニ背ク者アルトキハ豫審判事ハ之ヲ逐斥シ又ハ留置スルノ權利ヲ有ス

(四) 豫審判事カ證人ノ供述ヲ聽クヲ必要ナリトスルトキハ之ヲ聽クコトヲ得

(五) 管轄地内ト雖モ豫審判事ハ右處分ヲ區裁判所判事ニ囑託スルコトヲ得

### 第六節 證人訊問

證人訊問ニ關スル規定ヲ左ニ摘示セン

(一) 證人ハ豫ノ之ヲ呼出スコトヲ要ス即チ證人ヲ呼出スニハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間ニ二十四時間ノ猶豫ヲ與ヘ之ヲ呼出ササルヘカラス

呼出狀ニハ證人ノ住所氏名職業出頭ノ日時場所出頭セサルトキハ罰金ヲ言渡スヘキコト並ニ拘引ヲ爲スヘキコト等ヲ記載スヘシ被告事件ハ之ヲ記載スヘシトノ明文ハナキモ實際ニ於テハ多ク之ヲ記載スルコトトセリ

(二) 證人出頭ノ上呼出狀ヲ呈出シタルトキハ豫審判事ハ其氏名年齢職業住所等ヲ訊問シ民事原告人又ハ被告人及ヒ民事原告人ト親屬過去現在ニ於ケル後見人雇人同居人等ノ關係ノ有無ヲ調査シ且ツ十六歳未満知覺精神ノ不十分ナル者瘡痍者重禁錮以上ノ事件ニ付キ公判ニ付セラレタル者又ハ同事件ニ付キ證據不十分ナルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ナラサルヤ否ヤヲ調査シタル上宣誓ヲ爲サシメ訊問ニ取掛ルヘシ

豫審判事ノ訊問ニ對シ證人ノ爲シタル供述ハ裁判所書記之ヲ錄取シ即チ訊問調書ヲ作成シ證人ニ讀聞カシム若シ證人カ變更増減ノ申立ヲ爲ストキハ書記ハ其事ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ判事書記證人署名捺印ス若シ證人カ署名捺印スル能ハサルトキハ書記ハ其旨ヲ調書ニ附記スヘシ  
必要ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ證人ヲ犯所又ハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得ヘシ

(三) 證人ハ他ノ證人又ハ被告人ト各別ニ訊問スヘシ但シ必要ノ場合ニ於テハ對質ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(四) 證人ハ旅費日當ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

(五) 證人ハ左ニ記載スル二箇ノ義務アリトス

(イ) 呼出狀ニ指定セラレタル場所又ハ豫審判事ノ指定スル場所ニ出頭スルコト  
此義務ニ違背シタルトキハ豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聽キ不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ヒ二十圓以下ノ罰金ヲ言渡スヘク且ツ拘引狀ヲ發スルコトヲ得ヘシ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ罰金ノ額ハ二倍ニセサルヘカラス

罰金言渡書ノ送達アリタルヨリ三日間ニ正當ノ事由アリシコトヲ辯解スルトキハ豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聽キ罰金並ニ賠償ノ言渡ヲ取消スヘシ

右出頭ノ義務ニ對シ今茲ニ四ノ例外アリ

(甲) 證人疾病其他正當ノ事故アルトキ

此場合ニ於テハ豫審判事ハ其所在ニ就キ訊問ヲ爲スヘシ

(乙) 證人カ皇族ナルトキ

此場合ニ於テモ豫審判事ハ其所在ニ就キ訊問ヲ爲スヘシ

(丙) 證人カ各大臣ナルトキ

此場合ニ於テハ豫審判事ハ其所屬官廳ノ所在地ニ於テ訊問ヲ爲スヘシ若シ各大臣其官廳ノ所在地ニ在ラサルトキハ其現在地ニ於テ訊問ヲ爲スヘシ

(丁) 證人カ帝國議會ノ議員ナルトキ議會開會中議會ノ所在地ニ滞在ノトキニ限ルニ帝國議會ノ所在地ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

(ロ) 證人ハ其見聞シタル事實ヲ證言スルノ義務アリ

此義務ニ違背スルトキ即チ證人タル者カ宣誓ヲ肯シセス又ハ宣誓ノ上供述ヲ爲スコトヲ肯シセサルトキハ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處セラルルモノトス(第一二六條刑法第一八〇條)

此義ニ對シテモ例外ナキニ非ス即チ左ノ如シ

(甲) 官吏公吏タル者又ハ官吏公吏タリシ者カ其職務上默秘スヘキ義務アル事情ニ關スルトキ

(乙) 醫師藥商穩婆辯護士辯護人公證人神職僧侶其身分職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルヨリ知り得タル事實ニシテ默秘スヘキモノニ關スルトキ

此等ノ場合ニ於テハ證人ヨリ證言ヲ爲スコトヲ拒ムコトヲ得ヘシ若シ證言スルコトヲ拒マサルトキハ證人トシテ訊問セラレルモノナリ

(丙) 刑事訴訟法第百二十三條及ヒ第百二十四條ニ列擧シタル者

此等ノ者ハ證言スルノ義務ナキハ勿論法律上證人タルノ資格ナキモノト認メラレタル者ナリ何トナレハ此等ノ者ハ或ハ直接間接ニ利害關係アリ或ハ智能不備不十分ノ者アリ又ハ其身上ニ缺點アリテ其供述ニ信ヲ置ク能ハサルヲ以テ證人トシテハ訊問スルコトヲ許ササルモノトス

此等ノ者ハ證人タルノ資格ナキ者ナルカ故ニ證言ヲ拒マサルトキト雖モ豫審判事ハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス單ニ事實參考ノ爲メ之ヲ訊問ス

ルコトヲ得ルノミトス

(六) 證人カ豫審判事所屬ノ裁判所所在地ニ住セサルトキハ豫審判事ハ囑託訊問ヲ爲スコトヲ得ヘシ

其囑託ハ證人カ管轄内ニ在ルトキハ其住居ノ地ノ區裁判所判事ニ之ヲ爲シ又證人カ管轄外ニ在ルトキハ其所在地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ之ヲ爲ス

ヘキモノトス受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權利ヲ有スルモノナリ

(七) 證人カ豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬ナルトキハ左ノ特別ノ規定ヲ適用スヘシ

(イ) 呼出狀ハ其所屬長官又ハ隊長ヲ經由シテ之ヲ送達ス

(ロ) 證人カ其職務上差支アルトキハ其所屬長官又ハ隊長ヨリ延期ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

(ハ) 證人不參ノ場合ニ於ケル罰金ノ言渡及ヒ執行並ニ拘引ハ軍事裁判所又ハ其所屬長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲スモノトス

(ニ) 證人カ宣誓ヲ肯シセヌ又ハ宣誓ノ上供述ヲ爲ササル場合ニ於ケル罰金ノ言

刑事訴訟法 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審 豫審 證人訊問

渡及ヒ執行ハ軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲スモノトス  
(八)罰金及ヒ費用賠償ノ言渡ニ對シテハ證人ヨリ抗告ヲ爲スコトヲ得其抗告ハ執行ヲ停止スル效力アルモノトス

### 第七節 鑑定

被告事件ニ付キ證人ハ其見聞シタルコトヲ供述スルモノナルモ鑑定人ハ其見聞シタルコトヲ供述スルモノニ非スシテ學術經驗等ニ依リ分明ナラサル所ノモノヲ分明ナラシムルニ在リ

鑑定スヘキ事項ハ種種アリテ或ハ偽造物ノ鑑定ヲ爲シ或ハ犯罪ニ因リテ得タル物件ノ鑑定ヲ爲シ或ハ犯罪使用ノ物件ノ鑑定ヲ爲シ或ハ被害者又ハ被告人ノ身體ニ付キ鑑定ヲ爲シ或ハ押收物件ノ鑑定ヲ爲スコトアリ  
豫審判事ハ必要ノ場合ニ於テハ死體ノ解剖又ハ墳墓發掘ノ上鑑定ヲ爲サシムル權利アリ  
鑑定人ハ鑑定書ヲ作り手續結果及ヒ時間ヲ記載スヘシ鑑定人數名アルトキハ

各自別箇ニ鑑定書ヲ作ルモ共同シテ鑑定書ヲ作ルモ差支ナキモ其意見異ナルトキハ各別ニ之ヲ作ルコトヲ要スヘシ  
鑑定ニ付テハ前ニ述ヘタル證人ニ關スル規定ヲ適用スヘキ場合多キモ其異ナル所ノ規定ナキニ非ス今茲ニ其重モナルモノヲ列舉スレハ

- (一)鑑定人ノ爲スヘキ宣誓ハ證人ノ爲スヘキ宣誓ト其方法異ナレリ即チ證人ハ何事ヲモ黙秘セス又附加セサルコトヲ誓フモノナルモ鑑定人ハ公平且ツ誠實ニ鑑定スヘキコトヲ誓フモノナリ
- (二)證人ノ出頭セサルトキハ豫審判事ハ之ヲ拘引スルコトヲ得ヘキモ鑑定人ノ出頭セサルトキハ之ヲ拘引スルコトヲ得ス
- (三)證人カ疾病其他正當ノ事故アリテ出頭セサルトキハ豫審判事ハ其所在ニ就キ訊問スルコトヲ得ヘキモ鑑定人カ右事故ノ爲メ出頭スル能ハサルトキハ豫審判事ハ其所在ニ就キ訊問スルコトヲ得ス
- (四)豫審判事ハ證人ニ對シテハ囑託訊問ヲ爲スコトヲ得ルモ(第一三二條鑑定人ニ對シテハ囑託訊問ヲ爲スコトヲ得ス)

右第二乃至第四ノ差異アル理由ハ證人ニ付テハ事實ヲ見聞シタル證人其者ヲ訊問スルニ非サレハ事實ヲ發見スルコト能ハサルヘキモ鑑定人ニ付テハ何人ヲ論セス學術經驗等アル者ナラハ之ニ鑑定ヲ命シテ事實ヲ發見スルコトヲ得ヘキヲ以テナリ

### 第八節 現行犯ノ豫審

起訴權ハ檢事ニ屬シ豫審處分ハ豫審判事ニ屬シ此二者ハ互ニ相獨立シタル職權ニシテ互ニ相侵スコトヲ許ササルモノナリ

然ルニ右原則ニ例外ヲ置キ現行犯ノ場合ニ於テハ檢事及ヒ司法警察官ニ豫審判事ニ屬スル職務ノ幾部ヲ爲スコトヲ許シ又豫審判事ニ檢事ニ屬スル職務ノ幾部ヲ爲スコトヲ許シタリ此例外ヲ設ケタル理由ハ蓋シ現行犯ノ場合ニ於テハ事急速ヲ要スルモノナルカ故ニ訴訟手續ノ正式ヲ踐行スルトキハ犯罪人ハ逃去シ或ハ證據ハ湮滅ニ屬スルノ虞アルヲ以テナリ

犯罪ノ捜査ノ場合ニ於テ現行犯ニ付テハ檢事及ヒ司法警察官等カ豫審判事ノ令狀ヲ待タズ犯罪人ヲ逮捕スルコトヲ得ヘキコトハ已ニ之ヲ講説シタリ茲ニハ豫審ニ關スル所ノ現行犯ニ特別ノ規定ヲ講説セント欲ス

(一)豫審判事ノ特權 現行犯ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ職權ヲ以テ公訴ヲ受理スル豫審判事ハ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ檢事ノ請求ヲ待タズ即チ檢事ノ起訴ナクモ豫審處分ニ著手スルトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ豫審判事カ檢證圖書ヲ作成スルヲ以テ公訴ヲ受理シタルモノトス

此場合ニ於テハ豫審判事ハ檢事ニ現行犯アリタルコトヲ通知シ且ツ書類ヲ檢事ニ送致セサルヘカラス其他ハ總テ普通ノ手續ヲ履行シ豫審ヲ終結スルニ至ルヘシ

(二)檢事地方及ヒ區裁判所ノ及ヒ司法警察官ノ特權 現行犯ノ場合ニ於テハ檢事及ヒ司法警察官ハ臨檢ヲ爲シ豫審判事ノ職務ヲ行フコトヲ得

地方裁判所檢事ハ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リ事急速ヲ要スル場合ニ於テハ其旨ヲ豫審判事ニ通知シテ犯罪ノ場所ニ

臨檢シ豫審處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ  
區裁判所檢事ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ其事件カ區裁判所ノ管轄ニ屬スルト地方裁判所ノ管轄ニ屬スルトヲ問ハス前項同様ノ手續ヲ踐行シ豫審處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ

又司法警察官ハ前項同様豫審處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ

右ノ如ク檢事及ヒ司法警察官ハ豫審處分ヲ爲スヲ得ヘシト雖モ此等ノ官吏ハ素ト裁判官ニ非サルヲ以テ左ノ豫審處分ハ之ヲ爲スコトヲ許サス

(甲) 罰金費用賠償ノ言渡ヲ爲スコト

(乙) 證人鑑定人等ニ宣誓ヲ爲サシムルコト

宣誓ヲ肯ンセサルトキハ其結果罰金ノ言渡ヲ爲シ裁判權ヲ行フニ至ルヲ以テ宣誓ヲ爲サシメサルモノナリ

(丙) 豫審終結ヲ爲スコト

右ノ外檢事ニハ拘留狀ヲ發スルコトヲ許スモ司法警察官ニハ之ヲ發スルコトヲ許サス是レ人ノ自由ニ關スル拘引狀ノ比ニ非サルヲ以テ之ヲ許ササルモノ

ナリ故ニ檢事及ヒ司法警察官ハ臨檢處分ヲ爲スモ豫審ノ終結ヲ爲スヲ得サルヲ以テ右處分ヲ爲シタル後ハ司法警察官ハ管轄裁判所檢事ニ其事件ヲ送致シテ之カ引繼ヲ爲シ區裁判所檢事ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テハ或ハ起訴シ或ハ不起訴ノ處分ヲ爲シ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テハ地方裁判所檢事ニ其事件ヲ送致シ之カ引繼ヲ爲スヘシ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニシテ若シ被告人ニ對シ拘留狀ヲ發シタルトキハ三日間ニ起訴ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス又地方裁判所檢事ハ其事件罪ト爲ラス又ハ公訴不受理ノモノト思料スルトキハ不起訴ノ處分ヲ爲シ又其事件輕罪ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬シ豫審ヲ要セサルモノナルトキハ直チニ公判ヲ求メ區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ區裁判所檢事ニ送致シ又重罪又ハ輕罪ナルモ豫審ヲ要スルモノナルトキハ豫審判事ニ其事件ヲ送致シ之カ引繼ヲ爲ササルヘカラス  
地方裁判所檢事ハ司法警察官又ハ區裁判所檢事ヨリ事件ノ送致ヲ受ケ被告人ヲ受取リタルトキハ二十四時間内ニ被告人ノ訊問ヲ爲スコトヲ要ス



### 第九節 豫審終結

刑事ノ裁判ニ二種アリ一ハ豫審ノ裁判ニシテ一ハ公判ノ裁判即チ是ナリ  
 豫審裁判ハ豫審ノ結果ヲ審查シ事件ヲ公判ニ付スルニ十分ノ證據アリヤ否ヤ  
 フ決定シ合セテ事件カ其裁判所ノ管轄ナルヤ否ヤヲ決定スルモノニシテ之ヲ  
 豫審終結決定ト謂フ故ニ豫審裁判ハ被告人ヲ處罰スルモノニ非スシテ或ハ管  
 轄違フ言渡シ或ハ被告人ヲ免訴シ又或ハ事件ヲ公判ニ付スルニ過キサルモノ  
 ナリ

公判裁判ハ事件ノ管轄ニ屬スルヤ否ヤ又公訴受理スヘキモノナルヤ否ヤヲ調  
 査シ事件カ其裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキハ管轄違フ言渡ヲ爲シ公訴受理ス  
 ヘカラサルモノナルトキハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ無罪  
 免訴又ハ有罪ノ言渡ヲ爲スモノナリトス豫審判事カ證據ノ蒐集ヲ爲シ了リタ  
 ルトキハ訴訟記録ヲ檢事ニ送致シ其意見ヲ聽キタル後豫審終結ノ決定ヲ爲ス  
 ン

豫審判事ヨリ訴訟記録ノ送致ヲ受ケタルトキハ檢事ハ三日間ニ其意見ヲ付シ  
 豫審判事ニ之ヲ返付スヘシ檢事ニ於テ更ニ取調ヲ要スルモノト認メタルトキ  
 ハ豫審判事ニ對シ其取調ヲ爲スコトヲ求ムルコトヲ得ヘシ然レトモ豫審判事  
 ニ於テ其取調ヲ必要ナラスト思料シ之ニ應セザルトキハ檢事ハ二十四時間内  
 ニ其意見ヲ付シ訴訟記録ヲ豫審判事ニ送付セザルヘカラス

豫審終結ヲ爲スニ當リテハ豫審判事ハ必ス檢事ノ意見ヲ聽カサルヘカラサル  
 モ豫審判事ハ檢事ノ意見ニ羈束セラルルモノニ非ス故ニ豫審判事ハ其意見ヲ  
 以テ自由ニ豫審終結ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ豫審終結ニハ管轄違免訴及ヒ  
 公判移ノ三種アリ

(一)管轄違フ言渡 豫審判事カ檢事ノ起訴ヲ受ケ取調ヲ爲シタル後事件カ其管  
 轄ニ屬セザルコトヲ發見シタルトキハ管轄違フ言渡ヲ爲スハ當然ノコトナリ  
 此場合ニ於テハ豫審終結決定ニ其理由ヲ明示セザルヘカラス  
 管轄違フ言渡ヲ爲ス場合ニ於テ若シ拘留ヲ要スルモノト思料スルトキハ前ニ  
 發シタル令狀ヲ存シ又ハ新ニ令狀ヲ發シ事件ヲ檢事ニ交付スルコトヲ要ス此



場合ニ於テモ拘留スヘキ原由ヲ明示スルコトヲ要ス

(二)免訴ノ言渡 豫審判事ハ如何ナル場合ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキヤ其場合ハ刑事訴訟法第六十五條ニ規定セラレタリ即チ一犯罪ノ證據十分ナラサルトキ二被告事件罪ト爲ラサルトキ三公訴ノ時効ニ罹リタルトキ四確定判決ヲ經タルトキ五大赦アリタルトキ六法律ニ於テ其罪ヲ全免スルトキ是ナリ同條ニ指定セラレサルモ公訴ノ受理ノ場合ニ於テモ免訴ノ言渡ヲ爲ササルヘカラサルコトハ刑事訴訟法第六十九條第三項免訴ノ言渡ヲ爲スニハ云云公訴受理ス可カラサルコト云云トアルヲ以テ見ルモ明カナリ

茲ニ第六ノ刑ノ全免ノ場合ニ付テ一言スルコトアリ即チ我刑法上刑ノ全免ノ場合ニ二種アリ(甲)刑ヲ全ク免除シ何等ノ刑ヲモ科セサル場合例ヘハ刑法第九十二條第二項第二百二十六條第三百五十六條ノ如シ(乙)刑ヲ免除シナカラ或刑ヲ科スル場合例ヘハ刑法第二百二十六條第九十二條第一項爆發物取締罰則第十一條ニ於テ刑ヲ免除シナカラ六月以上三年以下ノ監視ニ付シ又富籤法第六條ニ於テ刑ヲ免除シナカラ沒收ノ刑ヲ科スルカ如シ而シテ右甲ノ場合ニ於

テハ豫審判事カ免訴ノ言渡ヲ爲スハ疑ナキモ(乙)ノ場合ニ於テモ豫審判事ハ免訴ノ言渡ヲ爲スヲ得ヘキヤ此場合ニ於テハ豫審判事ハ免訴ノ言渡ヲ爲サスシテ必ス公判ニ付スルノ言渡ヲ爲ササルヘカラサルモノト思考ス何トナレハ監視及ヒ沒收ノ如キモ一種ノ處罰ナルカ故ニ豫審判事ハ其言渡ヲ爲スヲ得サルヲ以テナリ

免訴ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テ被告人拘留ヲ受ケタルトキハ放免ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス又事實及ヒ法律上ノ理由ヲ付セサルヘカラス即チ事實上ノ理由トハ犯罪ノ證據十分ナラサルコト被告人カ其犯罪ニ付キ責任アルコトノ證據十分ナラサルコト等ヲ謂ヒ法律上ノ理由トハ事實ハアリトスルモ公訴ノ時効ニ罹リタルコト又ハ事件カ罪ト爲ラサルコト等ヲ謂フモノニシテ其理由等ヲ明示セサルヘカラス

免訴ノ言渡確定シタルトキハ罪名ノ變更アルモ同一事件ニ付テハ再ヒ訴ヲ受クルコトナシ何トナレハ豫審決定モ確定シタルトキハ確定判決ト謂フヲ得ヘケレハナリ

法律上ノ理由ニ基キタル免訴ノ言渡ハ一旦確定シタル以上ハ確乎動カスヘカラサルモノナルモ事實上ノ理由ニ基キタル免訴ノ言渡即チ證據十分ナラザル理由ニ依リ爲シタル免訴ノ言渡ハ新ナル證據アルトキハ再ヒ起訴スルコトヲ許スコトアリ新ナル證據トハ新ナル證人參考人書類ヲ發見シタルコトヲ謂ヒ又新ナル事實ト共ニ證人參考人其他ノ證據ヲ發見スルコトヲ謂フ右第二ノ第合ニ於テハ前ニ訊問ヲ經タル證人ト雖モ其證言ノ異ナルトキハ新ナル證據ト云フヲ得ヘシ新ナル證據ヲ發見シタルトキハ檢事ヨリ裁判所ニ再起訴ヲ許スノ決定アランコトヲ請求シ其許ヲ待チテ起訴セサルヘカラス再起訴ヲ許スヘキヤ否ヤヲ決定スルハ受訴裁判所ノ職權ニ屬シ而シテ其決定ハ直チニ確定力ヲ有スルモノナリ

(三) 公判ニ付スル言渡 犯罪ノ證據十分ナルトキハ其事件ヲ公判ニ付スルノ言渡ヲ爲スヘシ而シテ其事件重罪ナルトキハ地方裁判所ノ重罪公判ニ付スルノ言渡ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ未タ被告人ノ拘留ヲ爲ササルトキハ新ニ拘留狀ヲ發スヘタ又保釋或ハ責付ヲ許シタルトキハ之ヲ取消ササルヘカラス其事件カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ナルトキハ地方裁判所ノ輕罪公判ニ付スルノ言渡ヲ爲ササルヘカラス此場合ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ナルトキハ新ニ拘留狀ヲ發スルコトヲ得ヘタ又保釋責付ヲ許スコトヲモ得ヘシ又罰金ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ナルトキハ拘留中ノ被告人ハ釋放セサルヘカラス又其事件カ遼警罪ナルカ又ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ輕罪ナルトキハ區裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ササルヘカラス

豫審終結決定ニハ被告事件及ヒ被告人ノ住所身分職業氏名年齢等ヲ記載スルハ勿論犯罪ノ性質模様證據ノ十分ナルコト並ニ適用スヘキ法條等ヲ明示スルコトヲ要スヘシ

豫審終結決定正本ハ速ニ檢事及ヒ被告人ニ送達セサルヘカラス而シテ被告人ニ送達スヘキ重罪公判ニ付スル豫審終結決定正本ニハ其決定ニ對シ抗告ヲ爲スヲ得ヘキコト並ニ其期間ヲ記載スルコトヲ要ス若シ此記載ヲ遺脱シタルトキハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ決定正本ノ送達アルマテ抗告期間ノ經過ヲ停止スルモノナリ



以下豫審終結決定ニ對スル上訴ノコトニ付キ一言セシ豫審終結決定ニ對スル上訴ハ抗告ノ一アルノミニシテ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ檢事及ヒ被告人ナリトス而シテ法律上抗告ヲ爲スコトヲ許シタル場合ハ左ノ二箇ノ場合ニ限レリ

(一)重罪公判ニ付スルノ言渡ニ對シテハ檢事又ハ被告人ヨリ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

故ニ輕罪公判ニ付シ又ハ區裁判所ニ移ス言渡ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ許ササルモノナリ何故重罪公判ニ付スル言渡ニ對シテノミ抗告ヲ爲スコトヲ許シ其他ノ場合ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ許ササルカ是レ蓋シ豫審ハ公判ニ付スル一ノ準備手續ニ外ナラサルヲ以テ檢事及ヒ被告人ハ公判ニ至リ辯論ヲ爲スノ餘地アリ且ツ公判ノ言渡ニ對シテモ亦上訴ヲ爲スノ途アルヲ以テ一般ニハ之ヲ許ナスシテ事ノ重大ナル重罪事件ニ付テノミ抗告ヲ爲スコトヲ許シタルモノナリ

(二)免訴又ハ管轄違ノ言渡ニ對シテハ檢事ニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

故ニ被告人ハ免訴又ハ管轄違ノ言渡ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス是レ蓋シ免訴又ハ管轄違ノ言渡ノ如キハ被告人ニ利益ナル言渡ト云フヲ得ヘキモ不利益ノ言渡ト云フヲ得サルヲ以テナリ然ラハ何故檢事ニ限り抗告ヲ爲スコトヲ許シタルカ其理由ハ免訴又ハ管轄違ノ言渡ニ對シテ檢事ニ抗告ヲ爲スコトヲ許ササルモノトセハ縱令其言渡カ不當ナルコトアルモ之ヲ更正スルノ途ナクシテ其結果或ハ有罪者カ法網ヲ免レ或ハ徒ニ他ノ豫審判事ニ豫審ヲ爲サシムル不都合ヲ見ルニ至ルヘキヲ以テナリ

抗告ノ期間内及ヒ抗告中ハ豫審終結決定ノ執行ハ之ヲ停止セサルヘカラス何トナレハ其期間内又ハ抗告中ハ決定ノ未確定ナルカ故ニ其執行ヲ爲ス能ハサルハ勿論ノコトナレハナリ然レトモ決定カ未確定ナルニ拘ラス保釋及ヒ責付ヲ取消スヘキ言渡ハ其執行ヲ停止スルコトナシ即チ保釋及ヒ責付ヲ取消シテ直チニ拘留ヲ爲スコトヲ得ヘシ是レ蓋シ豫審判事ノ保釋及ヒ責付ヲ取消ス事合ニ於テハ其確定ヲ待タスシテ拘留ヲ爲スノ必要アリト法律上推定シタルモノナラン

抗告ヲ爲スヘキ期間方式抗告ノ裁判ヲ爲スヘキ裁判所等ノコトハ抗告ノ所ニ至リテ講述スヘシ

### 第四編 公判

#### 第一章 通則

公判ノ手續ハ左ノ九節ニ區分シテ之ヲ講述スヘシ

- 第一節 受訴
- 第二節 對審裁判
- 第三節 口頭審理
- 第四節 公開
- 第五節 辯護權
- 第六節 審理前ノ手續
- 第七節 審理手續
- 第八節 裁判

第九節 審理後ノ手續(公判始末書)

#### 第一節 受訴

事件カ裁判所ニ繫屬スルトキハ裁判所ハ之ヲ審判スルノ職權アリ又之ヲ審判スルノ義務アルモノナリ

然ラハ如何ナル原因ニ由リテ事件カ裁判所ニ繫屬スルヤト云フニ其原因三アリ即チ裁判所ハ左ノ三箇ノ場合ニ於テ公訴ヲ受理スルモノナリ

- (一) 檢事ノ起訴アリタルトキ
- (二) 豫審判事又ハ上級裁判所ヨリ事件ヲ移スノ裁判アリタルトキ
- (三) 附帶ノ犯罪又ハ公廷内ノ犯罪アリタルトキ

#### 第二節 對審裁判

公判ノ裁判ハ對審ナリ即チ原告官タル檢事ト被告人トヲシテ公廷ニ於テ辯論セシメタル上裁判ヲ爲スモノナリ

此規定ハ獨リ被告人ノ私益ノ爲メナルノミナラス又併セテ社會公益ノ爲メナ  
 リトス何トナレハ裁判官ニ於テ親ク原被雙方ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ盡スニ非ラ  
 サレハ事實 真相ヲ發見スル能ハスシテ或ハ無辜ヲ罰シ或ハ罪人ヲシテ法網  
 ヲ免レシムルコトナキヲ保スヘカラサレハナリ

故ニ公判ニ於テハ檢事モ出廷シ被告人モ亦出廷スルモノナリ而シテ公廷ニ於  
 テハ被告人ハ守卒ニ監護セラルルコトアルモ身體ニ拘束ヲ受クルコトナシ加  
 之被告人ハ辯護ノ爲メ辯護人又ハ補佐人ヲ用フルコトヲ得ルモノナリ  
 辯護人ハ重罪事件ニ付テハ法律上必ス之ヲ附セサルヘカラサルモ輕罪以下ノ  
 事件ニ付テハ裁判所又ハ被告人ノ意見ニ放任セラレタリ  
 禁錮以上ノ事件ニ付テハ常ニ被告人自身ノ出頭ヲ要スヘキモ罰金以下ノ事件  
 ニ付テハ被告人ハ代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得ヘシ  
 被告人又ハ其代人ノ出廷セサルトキハ裁判所ハ闕席判決ヲ爲スモノナルモ若  
 シ被告人カ精神錯亂又ハ疾病ノ爲メ出廷スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ其  
 全憲ニ至ルマテ事件ノ辯論ヲ停止セサルヘカラス尤モ罰金以下ノ事件ニシテ

被告人ヨリ代人ヲ差出シタルトキハ辯論ヲ停止スルニ及ハサルモノトス被告  
 人精神錯亂ノ爲メ辯論ヲ停止シタルトキハ全憲ノ後必ス新ニ辯論ヲ爲サシメ  
 サルヘカラスト雖モ其他ノ疾病ノ場合ニ於テハ前審理ヲ續行スルコトヲ得ヘ  
 シ尤モ五日間辯論ヲ停止シ又ハ檢事其他訴訟關係人ヨリ新ニ辯論ヲ爲サンコ  
 トヲ請求スルトキハ之ヲ爲サシメサルヘカラス辯論終結ノ後ニ在リテハ縱令  
 精神錯亂ノ場合ト雖モ全憲後直チニ裁判ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第三節 口頭審理

對審裁判ノ結果トシテ辯論ハ口頭審理ナラサルカラス是レ裁判官ニ於テ事  
 件ニ關スル總テノ證據ヲ熟知スルカ爲メニシテ被告人證人鑑定人ノ訊問等總  
 テ口頭ヲ以テ之ヲ爲ササルヘカラス

第四節 公開

對審裁判ハ之ヲ公開スヘシトハ憲法第五十九條ノ命スル所ナリ公開トハ裁判



所カ公廷ヲ開キ事件ノ審理及ヒ裁判ヲ爲スニハ衆人ノ傍聴ヲ許スヘシトノ趣旨ニシテ畢竟裁判所カ審問裁判ヲ爲スニ公平ニシテ不當ノ所爲ナキコトヲ擔保シ裁判所ノ威信ヲ保タシムルカ爲メニ外ナラス

故ニ對審裁判ハ公開スルヲ以テ原則トスレトモ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル虞アルトキハ法律上又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ公開ヲ禁スルコトヲ得ヘシ是レ亦憲法第五十九條ニ規定スル所ナリ

公開ヲ禁シタル場合ト雖モ裁判長ニ於テ至當ナリト認ムル者ニハ公廷ニ入ルヲ許スコトヲ得ヘシ

法律上又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ公開ヲ禁シタルトキト雖モ裁判言渡ノ場合ニ於テハ公開ヲ爲ササルヘカラス是レ裁判所構成法第百五條ノ規定スル所ナリ

### 第五節 辯護權

辯護ヲ爲スコトハ被告人ノ權利タリ故ニ被告人ハ辯護ノ爲メ辯護人ヲ用フルコトヲ得ヘシ而シテ其辯護人ハ裁判所ニ於テ訴訟記録ヲ閱讀シ且ツ之ヲ抄寫

スルコトヲ得ヘシ

辯護人ハ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ辯護士ノコトハ明治二十六年法律第七號辯護士法ニ規定セラレタリ辯護士以外ノ者ト雖モ辯護人ニ用フルコトヲ得ヘキモ此場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非サレハ辯護人ト爲スコトヲ得サルモノナリ

辯護人ヲ選定スルハ被告人ノ隨意ナリト雖モ左ノ場合ニ於テハ被告人カ之ヲ選定セサルトキハ法律上又ハ裁判上辯護人ヲ付スルコトアリ

(一) 重罪事件ニ付キ被告人カ辯護人ヲ自選セサルトキハ裁判長ハ法律上辯護人ヲ選任セサルヘカラス

(二) 輕罪又ハ違警罪事件ニ付キ被告人カ辯護人ヲ自選セス且ツ一、被告人十五歳未滿ナルトキ二、被告人婦女ナルトキ三、被告人聾者又ハ啞者ナルトキ四、被告人精神病ニ罹リ又ハ意識不十分ナル疑アルトキ五、被告事件ノ模様ニ依リ辯護人ヲ必要ナリトスルトキハ裁判所ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ選任スルコトヲ得ヘシ而シテ此場合ニ於テハ辯護人ヲ官選スルトセサルトハ

一ニ裁判所ノ意見ニ任セラレタルモノナレハ其選定ハ第一ノ場合ト異ナリヲ裁判上ノ選定ナリトス

右二箇ノ場合ニ於テハ裁判長ハ其裁判所所屬辯護士中ヨリ之ヲ選任ス而シテ一人ノ辯護士ヲシテ被告數名ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ然レトモ被告人中利害相反スル者アルトキハ其者ノ爲メ別ニ辯護人ヲ選任スルヲ要スルコトハ論ヲ俟タサル所ナリ

被告人ノ法律上代理人ハ其補佐人ト爲リ辯護ヲ爲スコトヲ得ヘシ

### 第六節 審理前ノ手續

檢事ノ起訴アリタルトキ即チ檢事ヨリ訴訟記録ヲ送致シ公判ノ爲メ被告人ノ呼出ヲ求メタルトキハ裁判長ハ期日ヲ定メ裁判所書記ヲシテ被告ニ對シ呼出狀ヲ發セシムヘシ

此呼出狀ニハ被告人ノ住所身分職業氏名出頭ノ日時場所及ヒ被告事件ヲ記載シ且ツ罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付テハ代人ヲ差出スコトヲ得ヘキ旨ヲ

記載セサルヘカラス又右被告事件ヲ記載セサルトキハ未ダ取調ヲ受ケタルコトナキ事件ニ付テハ被告人ハ準備ノ爲メ二日ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

呼出狀ノ送達ト出頭トノ間ニハ少クトモ二日ノ猶豫ヲ與ヘサルヘカラス是レ辯護準備ノ爲メ之ヲ與フルニ外ナラス

私訴關係人アルトキハ之ニ對シテモ呼出狀ヲ發スルコトヲ要スヘシ

證人鑑定人ヲ訊問スヘキ場合ニ於テハ之ニ對シテモ呼出狀ヲ發スルコトヲ要ス

此場合ニ於テハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間ニハ少クトモ二十四時間ノ猶豫ヲ與ヘサルヘカラス尤モ裁判所ニ出頭シタル者ニシテ異議ナキトキハ右規定ニ依ラス即チ呼出狀ヲ發セス又二十四時間ノ猶豫ヲ與フルコトナク之ヲ訊問スルコトヲ得ヘシ又證人鑑定人ニ對スル呼出狀ハ豫審ニ於ケル證人鑑定人ニ對スル呼出狀ノ書式ニ從ヒ之ヲ作成セサルヘカラス

檢事被告人民事原告人等ノ請求ニ因リ呼出スヘキ證人ノ氏名目錄ハ開廷ヨリ一日前各相手方ニ送達スルコトヲ要ス是レ其證據調アルコトヲ相手方ニ通知スルカ爲メナリ





呼出狀ヲ發シタルモ被告人出頭セサルトキハ罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付テハ闕席判決ヲ爲シ又禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付テハ豫審終結決定書又ハ呼出狀ヲ本人ニ送達シタル證アルトキニ限り闕席判決ヲ爲スコトヲ得ヘシ又豫審終結決定書又ハ呼出狀ヲ本人ニ送達シタル證ナキトキハ裁判所ニ於テ相當ノ猶豫期間ヲ定メ其期間ニ出頭セサルトキハ闕席判決ヲ爲スヘキ旨ノ告知書ヲ作り刑事訴訟法第二百二十七條ノ規定ニ從ヒ之ヲ送達又ハ公示タル後闕席判決ヲ爲スヘシ尤モ裁判所ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付テハ何時ニテモ拘引狀ヲ發スルコトヲ得ヘキカ故ニ猶豫期間ヲ與ヘスシテ直チニ拘引狀ヲ發スルコトヲモ得ヘシ

私訴關係人出頭セサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ闕席判決ヲ爲スヘシ證人鑑定人出頭セサルトキハ裁判所ハ費用賠償及ヒ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ尙ホ證人ニ對シテハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得ヘシ

## 第七節 審理手續

本節ハ之ヲ訴訟審問ノ上席及ヒ指揮被告人訊問證人訊問鑑定人訊問證據書類及ヒ證據物件公訴ノ辯論私訴ノ辯論公廷ノ取締ノ八項ニ細別シテ之ヲ講説スヘシ

(イ) 訴訟審問ノ上席及ヒ指揮 訴訟審問ノ上席及ヒ指揮ハ合議裁判所ニ於テハ裁判長ニ屬シ單獨裁判所即チ區裁判所ニ於テハ判事ニ屬スルモノナリ(裁判所構成法第一〇四條被告人證人ノ訊問等モ裁判長又ハ判事ニ於テ之ヲ爲スモノナリ)

(ロ) 被告人ノ訊問 事件ニ付キ開廷スルトキハ裁判長又ハ判事ハ先ツ被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地前科ノ有無位記勳章年金恩給從軍紀章ヲ有スルヤ否ヤ市町村長市町村會議員ニ非サルヤ否ヤ等ヲ訊問スヘシ

右訊問終リタル後立會檢事ハ被告事件ニ付キ論告ヲ爲スヘシ即チ檢事ヨリ犯罪事實ノ陳述ヲ爲シ審判ヲ要求スル旨ヲ申立ツルモノナリ

檢事ノ論告終リタル後裁判長又ハ判事ハ被告人ニ對シ事實上ノ訊問ヲ爲スヘシ(被告人訊問ハ事實發見ノ爲メ必要ナル處分ニシテ眞實ヲ發見スルヲ以テ其目

的トス此方法ニ依リ裁判官ハ親シク被告人ニ接シ其言語舉動ヲ見テ以テ其心證ヲ採ルヲ得ヘク被告人モ亦裁判官ニ對シテ辯解ヲ爲シ親シク其意見ヲ陳述シテ以テ或ハ其無罪タルコトヲ表明シ或ハ有罪タルモ其情狀ノ輕キコトヲ表明スルコトヲ得ヘシ

被告人訊問ハ眞實ヲ發見スルヲ以テ其目的トスルモ之ヲ以テ被告人ノ自白ヲ得ル途ナリト思料スルハ大ナル誤ナリ裁判官ハ原被雙方ノ間ニ立チ公平ニ裁判ヲ爲スモノナルカ故ニ虚心平氣以テ雙方ノ陳辯ヲ聽キ恐嚇詐言又ハ不當ノ言語ヲ用フヘカラス又偏頗ノ處置ナキコトヲ要ス

被告人ノ自白ハ裁判官カ之ニ信用ヲ置キ其心證ヲ採ルヘキ一ノ證據ナリト雖モ豫審ノ部ニ講説シタルカ如ク諸般ノ證據ノ證憑ハ判事ノ判斷ニ任セラレタルヲ以テ被告人ノ自白ト雖モ法律上ノ證據タルヘキ價值アルコトナシ即チ自白モ亦裁判官ヲ羈束スルノ效力アルモノニ非ス故ニ縱令被告人カ自白スルモ裁判官ニ於テ心證ヲ得サルトキハ無罪ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘシ被告人カ其親屬又ハ故舊ヲシテ罪ヲ免レシメシカ爲メニ自白ヲ爲シ或ハ自ラ一時服役ノ苦痛ヲ

免ルル爲メ自白ヲ爲スコト往往ニシテ之ナキニ非ス故ニ自白ト雖モ容易ニ之ヲ信用スヘカラス

區裁判所ニ於テ被告人カ自白シタルトキハ檢事民事原告人等ニ於テ異議ナキニ於テハ裁判所ハ他ノ證據ヲ取調フルコトナク裁判ヲ爲スヲ得ヘシ是レ事件ノ輕微ナルカ爲メ此ノ如キ例外ノ規定ヲ設ケタルモノナレハ之ヲ以テ區裁判所ニ於テハ自白カ法律上ノ證據タルヘキ價值アルモノナリト誤解スヘカラス故ニ縱令被告人カ自白スルトモ判事カ之ニ信用ヲ置カサルトキハ他ノ證據調ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論場合ニ依リテハ無罪ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘシ地方裁判所ニ於テハ右ニ反シ縱令被告人カ自白スト雖モ他ノ證據調ヲ爲サザルヘカラス

裁判所ニ於テ必要ナリトスルトキハ被告人ノ對質訊問ヲ爲スコトヲ得ヘシ事實上ノ訊問終リタルトキハ裁判長ハ證據ノ取調ヲ爲スヘシ各證據ノ取調終リタル毎ニ被告人ニ對シ意見アリヤ否ヤヲ問ヒ且ツ證據物件ヲ示シ辯解ヲ爲サシムヘシ若シ此手續ヲ盡サスシテ其證據ヲ斷罪ノ資料ニ供

シタルトキハ其證據ハ違法ノモノナルヲ以テ上告審ニ於テ原判決破毀ノ理由ト爲スコトヲ得ヘシ

又被告人ニ對シ利益タルヘキ證據アレハ之ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ告知スルコトヲ要ス此告知ヲ爲ササルトキハ違法タルヲ免レサルカ故ニ前項同様上告審ニ於テ原判決破毀ノ理由ト爲スコトヲ得ヘシ

被告人數名アルトキ或被告人カ他ノ被告人ノ面前ニ於テハ充分ナル供述ヲ爲スヲ得サルヘシト思料スル場合ニ於テハ他ノ被告人ヲ退廷セシメタル上其被告人ノ訊問ヲ爲シ訊問済ノ上退廷セシメタル被告人ヲ呼入レ其被告人ノ供述シタル事項ヲ告知スヘシ

被告人數名アルトキハ甲ヨリ乙乙ヨリ丙ト云フカ如ク順次之ヲ訊問スルヲ常トス然レトモ必要ナル場合ニ於テハ對質訊問ヲ爲スコトヲ得ヘシ

被告人カ雙者啞者又ハ國語ニ通セサル者ナルトキハ豫審ニ於ケルカ如ク通事ヲ用フヘシ最モ雙者啞者カ文字ヲ知ルトキハ文字ヲ以テ答辯セシムルコトヲ得ヘシ

被告人ノ訊問ヲ爲スハ裁判長ナリ然レトモ陪席判事又ハ檢事ハ裁判長ニ告ケ被告人ヲ訊問スルコトヲ得ヘク又訴訟關係人モ裁判長ニ或事項ニ付キ訊問ヲラシコトヲ請求スルコトヲ得ヘシ

辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ供述セシムルコトヲ要ス是レ法定ノ方式ナルヲ以テ若シ此手續ヲ踐行セサルトキハ公判ノ手續ハ違法タルヲ免レサルカ故ニ其公判ニ基キ言渡サレタル判決ハ破毀ノ理由アルモノトス

(ハ) 證人訊問 證人訊問ハ公判ニ於テモ豫審ノ部ニ於テ講説シタル證人訊問ノ規定ヲ適用スルモノナリ故ニ證人ノ呼出ニ關スル規定出頭ノトキ之ニ訊問スヘキ事項證人數名アルトキハ各別ニ之ヲ訊問スヘキコト證人トシテ呼出サレタル者カ二箇ノ義務アルコト囑託訊問ノコト證人宣誓ノコト宣誓ヲ肯シセス又ハ宣誓シテ供述セサルトキノ制裁通事ノコト旅費日常ヲ請求スルコト等大概豫審ノ部ニ於テ講説シタル所ニ同シケレハ重キテ茲ニ之ヲ贅セス

圖書ヲ作リタル司法警察官豫審ニ於テ訊問シタル證人等ハ檢事訴訟關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ呼出シ訊問スルコトヲ得ヘキコトハ刑事訴訟

0511

法第百八十八條第百八十九條ノ規定スル所ナリ此規定アル上ハ公判ニ於テハ其他ノ證人ハ之ヲ呼出シ訊問スルコトヲ得サルカ如クモ法ノ精神ハ之ヲ以テ他ノ證人訊問ヲ許ササルノ趣旨ニハ非スシテ唯此ノ如キ者ト雖モ證人トシテ訊問スルコトヲ得ヘキコトヲ明カニシタルニ外ナラス故ニ右以外ノ者ト雖モ檢事訴訟關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ呼出シ訊問スルコトヲ得ルハ勿論ノコトナリ

公判ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ證人ヲ呼出シ訊問スルコトヲ得スト主張スル論者ナキニ非サレトモ其說ノ否ナルコトハ喋喋ヲ要セスシテ明カナラン民事ニ於テハ事私益ノミニ關スルヲ以テ裁判所ヨリ進ンテ證人訊問ヲ爲スコトナシト雖モ刑事ニ於テハ事固ヨリ公益ニ關ス而シテ刑事訴訟ノ目的ハ一ニ事實ノ眞想ヲ發見スルニ在ルモノナルカ故ニ檢事又ハ訴訟關係人ヨリ證人訊問ノ申立ヲ爲ササルモ裁判所カ必要ナリトスル場合ニ於テハ職權ヲ以テ之ヲ呼出シ訊問スルコトヲ得ヘキハ當然ノコトナリトス若シ裁判所ハ職權ヲ以テ證人訊問ヲ爲スコトヲ得サルモノトセンカ其結果檢事ノ舉證充分ナラサルトキ

ハ有罪ノ者ト雖モ法網ヲ免レ又被告人ノ反證足ラサルトキハ無辜ノ者ト雖モ刑ノ言渡ヲ受タルニ至ラン豈此ノ如キノ理アラシヤ故ニ裁判所ハ職權ヲ以テ證人ノ訊問ヲ爲スト得スト主張スルハ事實ノ眞想ヲ發見スルヲ以テ目的トスル刑事訴訟ノ精神ニ背戾スルモノナリ

刑事訴訟法ニハ證人訊問ニ付テ其順序ヲ定ムルコトナシト雖モ不利益ナル證人ノ訊問ヲ前ニシ利益ナル證人ノ訊問ヲ後ニスルハ自然ノ順序ナリ

證人ニハ其見聞シタル所ノコトヲ有體ニ陳述セシムルコトヲ要ス故ニ證人ニハ互ニ言語ヲ接スルコトヲ許サス又證人ハ供述辯論ニ立會フコトヲ許サス且ツ又已ニ供述ヲ爲シタル者ト雖モ裁判長ノ許可ナクシテ退廷スルコトヲ許サタルモノナリ

證人ハ被告人ノ面前ニ於テ訊問スルヲ常則トスレトモ證人カ被告人ノ面前ニ於テハ充分ナル供述ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ裁判所ハ被告人ニ一時退廷ヲ命シテ證人訊問ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ此場合ニ於テハ裁判長ハ證人訊問ノ終リタル後被告人ヲ呼入レ證人カ供述シタル事項ヲ告知セサルヘカラス

證人ヲ訊問スル者ハ裁判長ナリトス然レトモ被告人訊問ノ處ニ逃ヘタルカ如ク陪席判事又ハ檢事ハ裁判長ニ告ケ證人ヲ訊問スルコトヲ得ヘク又訴訟關係人ハ或事項ニ付キ裁判長ニ訊問アラシコトヲ請求スルコトヲ得ヘシ  
證人カ偽證ヲ爲シタルトキハ違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ヲ除クノ外ハ之ヲ取押ヘ拘引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致スルノ手續ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ裁判所書記ハ證人ノ供述ヲ錄取シ豫審判事ニ送致スルモノナリ又此場合ニ於テハ裁判所ハ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

右偽證者ヲ取押フルコト竝ニ本案ノ辯論ヲ停止スルコトハ檢事又ハ訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲スモノナリトス

證人カ疾病其他正當ノ事故ニ因リ出頭スルコト能ハサルコトヲ疏明シタルトキハ裁判所ハ部員一名ニ命シ又ハ區裁判所判事ニ囑託シテ其所在ニ就キ訊問セシムルコトヲ得ヘシ又證人カ裁判所所在地ニ住セス又ハ管轄地外ニ在ルトキハ區裁判所判事ニ囑託シテ訊問セシムルコトヲ得ヘシ

證人カ皇族大臣帝國議會ノ議員議會開會中ナルトキハ裁判所ハ之ヲ呼出シ訊

問スルコトヲ得ヘキヤ是レ一ノ疑問ニ屬スト雖モ豫審ノ規定ヲ準用シテ皇族ニ付テハ裁判所ハ受命判事ヲシテ其所在ニ就キ訊問ヲ爲サシメ大臣及ヒ議會開會中ノ帝國議會ノ議員ニ付テハ其官廳又ハ議會ノ所在地ニ於テ之ヲ訊問スルヲ以テ其當ヲ得タルモノナリト信ス何トナレハ豫審ニ於テ此等ノ證人ニ對シテ特例ヲ設ケタル理由カ唯リ豫審ノミニ存セラ公判ニ存セサルノ條理ナキヲ以テナリ

又茲ニ一ノ疑問タルヘキコトハ證人カ管轄地外ニ在ルトキ裁判所ハ他ノ地方裁判所即チ公判裁判所ニ對シ其訊問ヲ囑託スルコトヲ得ルヤ否ヤト云フニ在レトモ實際ニ於テハ地方裁判所ニ囑託セシテ區裁判所判事ニ囑託スルコトトセリ

(二)鑑定人訊問 鑑定人訊問ニ付テモ豫審ニ於ケル鑑定人訊問ニ關スル規定ヲ適用スルモノトス故ニ一人又ハ數人ニ鑑定ヲ命スルコト死體ノ解剖墳墓ノ發掘ヲ命スルコト宣誓ノコト宣誓ヲ肯セス又宣誓シタル上鑑定ヲ爲ササルトキノ制裁通事ヲ用フルコト旅費日當及ヒ立替金ヲ請求スルコト等大概豫審ノ

規定ヲ準用スヘシ

豫審ニ於テ鑑定シタル鑑定人ヲ公判ニ於テ更ニ呼出シ鑑定ヲ命スルコトヲ得  
ヘク又公判ニ於テ新ニ鑑定人ヲ呼出シ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得ヘキコトハ  
公判ニ於テ新ニ證人ヲ呼出シ訊問スルコトヲ得ルカ如ク

(\*) 證據書類及ヒ證據物件 豫審ニ於ケル被告人訊問調查證人訊問調查鑑定人  
ノ鑑定書及ヒ其他ノ證據書類ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシメ又證據物件  
ハ一ニ被告人ニ示シテ之カ辯解ヲ爲サシメサルヘカラス此規定ニ背キ朗讀ヲ  
爲ササル所ノ書類又ハ被告人ニ示ササル所ノ證據物件ヲ斷罪ノ資料ニ供シタ  
ルトキハ其判決ハ違法ノ證據ヲ採用シタル不法アルヲ以テ上告審ニ於テ破毀  
セラルヘキモノトス

(-) 公訴ノ辯論 事實並ニ證據ノ取調終リタルトキハ檢事ハ事實及ヒ法律ノ適  
用ニ付キ辯論ヲ爲シ次ニ被告人及ヒ辯護人ハ之ニ對シ反對ノ辯論ヲ爲スヘシ  
其後ハ必要ニ應ジ檢事ト辯護人ト交辯論ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ最終ニハ  
必ス被告人又ハ辯護人ヲシテ供述ヲ爲サシメサルヘカラス若シ此規定ニ背キ

最終ニ被告人又ハ辯護人ヲシテ供述ヲ爲サシメタルトキハ因リテ言渡サレタ  
ル判決ハ上告審ニ於テ破毀セラルヘキモノナリトス

原告官タル立會檢事ハ多クハ公訴ヲ維持シ被告人ニ對シ刑ノ言渡アランコト  
ヲ主張スト雖モ立會檢事ノ辯論ハ自由ナルカ故ニ無罪ノモノナルコトヲ信シ  
又ハ證據充分ナラスト思料スルトキハ公訴ヲ維持セシメテ無罪ノ判決アラン  
コトヲ求ムルヲ得ヘシ又辯護人ハ之ニ反シ常ニ被告人ノ無罪又ハ免訴ヲ主張  
スルモノナルモ證據充分ニシテ事實争フヘカラサル場合ニ於テハ被告ノ罪責  
アルコトヲ認メ情狀酌量又ハ其他ノ點ニ於テ刑ノ減輕アランコトヲ求ムルコ  
トナシトセス

(ト) 私訴ノ辯論 公訴ノ辯論終了シタル後私訴ニ付キ辯論ヲ開クヲ常トス私訴  
ノ辯論ニ付テハ民事原告人ヨリ被害事件ノ陳述ヲ爲シ且ツ其舉證ヲ爲シテ其  
請求スル所ヲ陳述セサルヘカラス民事原告人ノ陳述終リタル後被告人辯護人  
又ハ民事擔當人ヨリ其答辯ヲ爲スヘシ

原被雙方ノ辯論終リタル後立會檢事ニ於テ意見アレハ其意見ヲ陳述スルコト

ヲ得ヘシ其意見ヲ述フルト述ヘサルトハ檢事ノ自由ナルモ其立會ハ裁判所ノ構成上必要ナルヲ以テ其立會ナクシテ言渡サレタル私訴判決ハ破毀ノ理由アルモノナリ

私訴ノ審判ニ付テハ刑事訴訟法上明文アル場合ニ非サレハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スヘキモノニ非ス民事訴訟法ノ規定ヲ準用スヘキ場合ハ刑事訴訟法第二百一條末項ニ規定シタル訴訟費用ノ負擔ヲ命スル場合及ヒ同第二百二十六條末項ニ規定シタル私訴關係人ニ對シ闕席判決ヲ言渡スヘキ場合ノ如キ即チ是ナリ

民事擔當人ハ明治十四年第七十三號布告ニ依レハ(一)未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者(二)夫タル者(三)百癡癡癡人ノ保管者(四)雇主但シ雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フトキナリト雖モ右布告ハ民法ノ施行ト共ニ廢止セラレタリ民法施行法第九條第一九條而シテ民法ノ規定ニ依レハ民事擔當人タルヘキ者ハ親權ヲ行フ父又ハ母後見人未成年ナル妻ノ夫使用者使用者ニ代リ被用者ヲ監督スル者等ナリトス(民法第七一四條第七一五條第七九

一條

(チ)公廷ノ取締 裁判所ヲシテ平安ニ審判ヲ爲サシメ且ツ其威嚴ヲ保タシメシムルニハ法律上裁判所ニ公廷取締權ヲ付與スルノ必要アリ而シテ開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬スルヲ以テ茲ニ左ノ如キ規定アリ

- (一) 裁判長ハ婦女兒童及ヒ相當ナル衣服ヲ著セサル者ヲ退廷セシムル權ヲ有ス
- (二) 裁判長ハ審問ヲ妨ケタル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ退廷セシムル權ヲ有ス
- (三) 裁判長ハ必要ナリト認ムルトキハ前項ニ掲ケタル者ヲ拘引シ閉廷ノトキマテ之ヲ拘留スル權ヲ有ス
- (四) 裁判所ハ前項ノ拘留ヲ受ケタル者ヲ閉廷ノトキ釋放シ又ハ五圓以下ノ罰金若クハ五日以内ノ拘留ニ處スル權ヲ有ス(此言渡ニ對シテハ上告ヲ爲スコトヲ得ルモ控訴ハ之ヲ爲スコトヲ得ス)
- (五) 裁判所ハ審問ヲ妨ケタル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲シタル者ノ行爲カ毆打創傷毀棄器物官吏侮辱等ノ如ク重罪若クハ輕罪ニ該ルヘキモノナルトキハ之ニ對シ刑事訴追ヲ爲ス權ヲ有ス

(六) 審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者カ當事者證人鑑定人ナルトキハ裁判所ハ閉廷ヲ待タスシテ之ヲ處罰スル權アリ

(七) 若シ右違犯者カ原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍ホ本人有怨ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ審問ヲ中止スルコトヲ得ヘシ

(八) 裁判長ハ不當ノ言語ヲ用フル辯護士ニ對シ同事件ニ付キ引續キ陳述スルノ權ヲ行フコトヲ禁スルノ權ヲ有シ仍ホ其行狀ニ付キ懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ得ヘシ

裁判長又ハ裁判所カ右ノ權利ヲ行ヒタルトキハ其事由ヲ訴訟記録ニ記入シ若シ違犯者ノ行爲カ重罪又ハ輕罪ニ該ルヘキモノナルトキ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ其事由ヲ訴訟記録ニ記載シ裁判長ヨリ其事件ヲ處分スヘキ權アル官廳ニ報告スヘキモノトス

### 第八節 裁判

裁判ノ事ニ關シテモ亦(イ)裁判ノ種類(ロ)不告不理(ハ)評議(ニ)本案ノ裁判ニ關スル

規則ノ三段ニ分チテ之ヲ講述スヘシ

(イ) 裁判ノ種類 裁判ノ種類ニ數種アリ即チ左ノ如シ

(一) 對審裁判非對審裁判

對審裁判トハ公廷ヲ開キ當事者ノ辯論ヲ聽キ言渡スヘキ裁判ヲ謂フ有罪無罪ノ判決ノ如キ是ナリ非對審裁判トハ當事者ノ口頭辯論ヲ聽クコトナク訴訟記録ヲ檢案シテ爲ス所ノ裁判ヲ謂フ例ハ保釋ノ申請ヲ許否スル決定保證金免除ノ申請ヲ許否スル決定ノ如キ是ナリ

(二) 第一審裁判第二審裁判終審裁判

裁判所構成法ニ依レハ一ノ事件ニ對シ普通三階級ノ裁判所アルモノニシテ初メテ審判スルヲ第一審裁判ト謂ヒ第一審裁判ヲ覆審スルヲ第二審裁判ト謂ヒ又覆審ノ上言渡シタル裁判ニ對スル上告ヲ審判シ其上不服ヲ唱フル道ナキ之ヲ終審裁判ト謂フ然レトモ例外トシテ一審ニシテ終審トシテ一回ノミノ裁判ヲ爲ス場合ナキニアラス開ハ裁判所構成法第五十條第二ニ規定シタル大審院ノ管轄ニ屬スル刑法第二編第一章及ヒ第二章ニ掲ケタル重罪並



ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該ルモノノ裁判ナリトス

(三) 對席裁判 關席裁判

對席裁判トハ被告人出頭シテ辯論シタルトキ言渡ス裁判ヲ謂ヒ 關席裁判トハ被告人カ出頭セサルトキ言渡ス所ノ裁判ヲ謂フ

(四) 確定裁判 不確定裁判

確定裁判トハ上訴期間ヲ空過シ又ハ上訴ヲ爲シ盡シ他ニ不服ヲ唱フルノ道ナキニ至リタル裁判ヲ謂ヒ 不確定裁判トハ上訴期間内ナルカ又ハ上訴審ニ繫屬中ノ裁判ヲ謂フ

(五) 本案ノ裁判 本案前ノ裁判

本案ノ裁判トハ本案訴訟ヲ終局セシムル所ノ裁判ヲ謂フ故ニ右ハ被告人ニ對シ有罪又ハ無罪ヲ言渡スカ如ク裁判所カ事件ニ付キ終リテ告タル所ノ裁判ナリトス 本案前ノ裁判トハ之ニ反シ訴訟ノ中間ニ於テ言渡ス所ノ裁判ヲ謂フ其詳細ハ次ノ區別ニ依リ了解スヘシ

(六) 本案前ノ裁判ニ三種アリ一「ジュージュマン、ブレバトワール」ニ「ジュージュマン、インテラルロキトワール」三「ジュージュマン、プロヴゾワール」即チ是ナリ

(甲)「ジュージュマン、ブレバトワール」トハ本案ニ直接影響ヲ及ボササル所ノ裁判ニシテ其重モナルモノヲ掲クレハ傍聽禁止ノ決定審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ退廷セシムル命令證人鑑定人ノ訊問ヲ命スル決定公判ノ手續ニ付キ異議ノ申立アリタルトキ之ニ對スル裁判忌避若クハ回避ノ申立ニ對スル裁判ノ如キ即チ是ナリ

(乙)「ジュージュマン、インテラルロキトワール」トハ本案ニ影響ヲ及ボスヘキ本案前ノ裁判ヲ謂フ例ヘハ管轄違又ハ公訴不受理ノ申立ヲ却下スル裁判ノ如キハ則チ「ジュージュマン、インテラルロキトワール」ニシテ本案ニ影響ヲ及ボス所ノ裁判ナリトス何トナレハ其申立ニシテ正當ノモノナリトセハ本案事件ハ茲ニ終局スヘキ管ノモノナルカ故ニ之ヲ不當ナリトシテ却下スル所ノ裁判ハ本案事件ヲ終局セスト謂フニ歸著スルヲ以テ本案ニ影響アルコトハ推シテ知ルヲ得ヘキヲ以テナリ而シテ刑事訴訟法第百八十七條、第二百五十條及ヒ第百六十七條ノ規定ニ依レハ管轄違又ハ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル判



決ハ本案前ノ判決ナルモ本案ノ判決ヲ待タス之ニ對シ直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ得ルモノナリトス本案前ノ裁判ニ對シテハ本案ノ判決ヲ待テ之ト共ニ非サレハ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ許ササルモノナルニ管轄違又ハ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル判決ニ對シテハ何故本案ノ判決ヲ待タスシテ直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ許シタリヤ本案前ノ裁判ニ對シテ本案ノ裁判ヲ待タス直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ許スモノトセハ訴訟關係人カ徒ニ其裁判ニ對シ控訴又ハ上告ヲ爲シテ本案ノ裁判ヲ遅延セシムヘキ處アルヲ以テ之ヲ許ササルモノナレトモ管轄違又ハ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル本案前ノ裁判ニ對シ控訴又ハ上告ヲ許ササルモノトセハ縱令其裁判カ不當ナルトキ即チ管轄違又ハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ト雖モ裁判所ハ進テ事實ノ取調ヲ爲シ本案ノ裁判ヲ爲ササルヘカラス而シテ上級審ニ於テ原判決ヲ取消シ管轄違又ハ公訴不受理ノ裁判アルトキハ本案ノ審判ヲ爲シタルコトハ全ク無益ニ屬スルヲ以テ管轄違又ハ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル本案前ノ裁判ニ對シテ直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ許シ

タルモノナリ

(丙) ジュリーマン、プロヴヰヰールトハ事件ノ審理申訴認關係人ノ利益ヲ保護スル爲メ下ス所ノ裁判ヲ謂フ例ヘハ保釋ノ申請ヲ許否スル所ノ裁判責付ヲ命スル所ノ裁判ノ如キ即チ是ナリ

(ロ) 不告不理 裁判所ハ訴ヲ受ケタルトキハ之ニ對シ裁判ヲ與フル職責アルモ訴ヲ受ケサル所ノ事件ニ付テハ裁判ヲ爲ス能ハサルヲ以テ原則ト爲ス故ニ檢事ノ起訴ナキ間ハ如何ニ顯著ナル犯罪アルコトヲ發見スルトモ裁判所ハ進ミテ之カ審判ヲ爲ス能ハサルモノトス

然レトモ右原則ニ對シ茲ニ二箇ノ例外アリ即チ左ノ如シ

- (一) 檢事ノ起訴ナクトモ辯論ニ依リ發見シタル附帶ノ犯罪ニ付テハ裁判所ハ職權ヲ以テ之カ審判ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第一八四條)
- 附帶ノ犯罪ニ付キ裁判ヲ爲スト否トハ受訴裁判所ノ職權ニ屬スルモノニシテ附帶ノ犯罪アリタルトキハ必ス之ニ對シ裁判ヲ與フヘシトノ注意ニアラス是レ刑事訴訟法第百八十四條ニ「裁判所ニ於テハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ



裁判ヲ爲ス可カラス但辯論ニ因リ發見シタル附帶ノ犯罪ニ付テハ此限ニ在  
 ラス(オ)アルノミニシテ附帶ノ犯罪ニ付テハ裁判ヲ爲スコトヲ要ストノ明文  
 ナキヲ以テ見ルモ明カナリ  
 附帶ノ犯罪トハ互ニ相獨立シタル所ノ犯罪ナルモ其間多少ノ關係アリテ無  
 形ノ帶即チ鎖ヲ以テ連結セシメラレタル犯罪ナリトス  
 故ニ附帶ノ犯罪ノ成立ニハ必ス數箇ノ犯罪アルヲ要ス然レトモ數罪俱發ノ  
 場合トハ異ナリテ必スシモ一人ニシテ數箇ノ犯罪ヲ爲シタルコトヲ要セス  
 又數人共犯ノ場合トモ異ナリテ數人ニシテ一罪ヲ犯シタルコトヲ必要トセ  
 ス又附帶ノ犯罪ハ實質上ノ一罪ト稱スルモノトモ異ナレリ實質上ノ一罪ト  
 ハ借用證書ヲ偽造行使シテ金圓ヲ騙取シタル罪ノ如キモノニシテ想像上ニ  
 於テハ二罪タルヘキモ實質上ニ於テハ一罪タルニ過キサルモノトス(刑法第  
 三九〇條第二項)  
 附帶ノ犯罪ノコトハ刑事訴訟法第百八十五條ニ在リ同條ノ規定ニ依レハ附  
 帶ノ犯罪ハ左ノ三箇ノ場合ナリトス

(甲)同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタルトキ

此場合ハ例ヘハ一人ノ者カ同時ニ同一ノ場所ニ於テ竊盜毆打創傷官吏侮辱  
 ノ罪ヲ犯シタルトキノ如ク又相撲場ニ於テ見物人總立ト爲リ數十人カ互ニ  
 毆傷シタル場合ノ如シ而シテ此場合ニ於テハ時ト場所トノ同一ナルコトカ  
 即チ數箇ノ犯罪ヲ連結セシムル所ノ無形ノ帶即チ鎖ト爲ルモノナリ又數人  
 ニテ數箇ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テモ數人カ其目的ヲ共謀シタルコトヲ必  
 要トセス數人カ同時ニ同一ノ場所ニ於テ共ニ罪ヲ犯シタル事實アレハ附帶  
 ノ犯罪ハ成立スヘキモノトス

(乙)數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタルトキ

此場合ニ於テハ日時又ハ場所ノ同一ナルコト必要ナラス唯其數人間ニ通謀  
 アリタルコトヲ必要トス故ニ此場合ニ於テハ數箇ノ犯罪ヲ連結セシムル所  
 ノ無形ノ帶即チ鎖ハ通謀ナリトス然レトモ此場合ニ在リテハ數人カ共ニ其  
 犯罪ノ共犯者ナルコトヲ必要トセス故ニ例ヘハ貧民カ通謀シテ各自別別ニ  
 市内ノ米商店ヲ襲ヒ家屋ヲ破毀シタル場合又ハ貧民カ通謀シテ各自別別ニ

人家ニ忍ヒ入り竊盜ヲ爲シタル場合ノ如キニ於テハ共犯トシテ之ヲ罰スルコトヲ得スト雖モ其犯罪ハ附帶ノ犯罪ナリトス  
 (丙) 自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免ルル爲メ他ノ罪ヲ犯シタルトキ

此場合ニ於テハ數箇ノ犯罪カ互ニ原因結果タルノ關係ヲ有スルモノニシテ其關係カ無形ノ帶即チ鎖ト爲ルモノナリ例ヘハ竊盜罪ヲ犯ス爲メ番人ヲ毆傷又ハ故殺シタル場合ノ如キハ附帶ノ犯罪ニシテ竊盜罪ト毆傷又ハ故殺罪トハ互ニ原因結果タルノ關係ヲ有スルモノトス

刑事訴訟法第百八十五條ノ規定ハ例示的ノ規定ニシテ制限的ノ規定ニハ非ス故ニ事件ノ模様ニ依リ犯罪カ最モ密著ノ關係ヲ有シ併合審理ヲ要スルモノナルトキハ附帶ノ犯罪トシテ之ニ刑事訴訟法第百八十四條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ヘシ  
 何故附帶ノ犯罪ニ付テハ檢事ノ起訴ナクトモ職權ヲ以テ之ヲ審判スルコト

ヲ裁判所ニ許シタルヤ其理由ハ一ノ犯罪ニ對スル審理ヲ以テ他ノ犯罪ノ審理ヲ明カニスルノ利益アルノミナラス附帶ノ犯罪トシテ併合審理ヲ許ストキハ裁判官ニ於テ犯情ヲ詳ニシ各犯罪人ノ間ニ刑ノ不權衡ヲ來スカ如キ不都合ヲ避クルコトヲ得ヘク又二重ニ要スヘキ審理ノ時間ト費用トヲ省クノ利益アルニ由リ職權ヲ以テ之ヲ審判スルコトヲ許シタルモノナリ

附帶ノ犯罪ニ付テハ檢事ノ起訴ナクトモ職權ヲ以テ之ヲ審判スルコトヲ裁判所ニ許シタル理由右ノ如クナルカ故ニ其結果トシテ主タル事件ト併合シテ之ヲ審判スルコトヲ得ルハ勿論裁判管轄ノ點ニ付テモ多少ノ變更ヲ來スコトヲ許シタルモノナルヤ論ヲ竣タス故ニ地方裁判所カ重罪事件ノ審理中區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ輕罪ノ附帶犯罪アルコトヲ發見シ又他ノ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ重罪ノ附帶犯罪アルコトヲ發見シタルトキハ之カ審判ヲ爲スコトヲ得ヘシ

茲ニ一ノ疑問アリ他ナシ豫審判事ハ主タル事件ノ審理中附帶ノ犯罪アルコトヲ發見シタルトキハ之ニ對シ豫審終結決定ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ否ヤト

云フニ在リ此疑問ニ對シテハ二箇ノ説アリ即チ積極論者ノ唱フル所ハ公判ニ於テ附帶ノ犯罪トシテ檢事ノ起訴ナクトモ之ヲ審判スルコトヲ許スヘキ理由アル以上ハ豫審ニ於テモ亦之ヲ審判スルコトヲ許スノ理由アルヤ論ヲ俟タス何トナレハ一ノ犯罪ニ對スル審理カ他ノ犯罪ノ審理ヲ明カニシ又二重ニ要スヘキ審理ノ時間ト費用トヲ省クノ利益アルコトハ豫審ニ於テモ公判ニ於テモ異ナルノ道理ナキヲ以テナリト云フ消極論者ノ唱フル所ハ檢事ノ起訴ナクシテ附帶ノ犯罪ノ審判ヲ爲スコトヲ許シタルハ不告不理ノ原則ニ加ヘタル非常ノ例外ナリトス故ニ此例外ハ法律カ明許シタル場合ニノミ制限シテ之ヲ適用スヘキハ勿論ナルヲ以テ法律ノ明許セザル豫審ニハ刑事訴訟法第百八十四條ノ規定ヲ準用スヘカラスト云フニ在リ

(二) 檢事ノ起訴ナクトモ公廷内ノ犯罪ニ付テハ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ審判スルコトヲ得ヘシ

右公廷内ノ犯罪トハ前ニ譯説シタルカ如ク公廷ニ於テ審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シタル罪ヲ謂フ此犯罪ヲ犯シタル者アルトキハ裁判所ハ檢事ノ起訴ナクトモ五圓以下ノ罰金又ハ五日以内ノ拘留ニ處スルコトヲ得ヘシ  
公廷内ノ犯罪ト雖モ其他ノ犯罪ニ付テハ裁判所ハ直チニ之カ審判ヲ爲ス能ハス故ニ公廷内ニ於ケル偽證ノ罪ニ付テハ裁判所ハ豫審判事ニ事件ヲ送致セザルヘカラス又其他ノ重輕罪ニ付テハ裁判所ハ之カ訴追ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲スニ止マリ之カ審判ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ

(ハ) 評議 區裁判所ニ於テハ一人ノ判事カ裁判ヲ爲スモノナルカ故ニ評議ヲ爲スノ必要ナシト雖モ合議裁判所即チ地方裁判所控訴院及ヒ大審院ニ於テハ必ス裁判所構成法ノ規定ニ從ヒ定數ノ判事カ評議ノ上裁判ヲ爲スコトヲ要スルモノナリ

判事ノ定數ハ裁判所構成法ノ規定ニ依レハ區裁判所ニ於テハ一人地方裁判所ニ於テハ三人控訴院ニ於テハ五人大審院ニ於テハ七人トス然レトモ裁判所構成法第三十八條ニ依リ東京控訴院カ皇族ニ對スル民事訴訟ノ裁判ヲ爲ストキハ第一審ニ於テハ五人第二審ニ於テハ七人トス又大審院ニ於テ前ニ生シタル判決ト相反スル意見ヲ有スルトキハ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若クハ刑事

ノ總部又ハ民事及ヒ刑事ノ總部ヲ聯合シ聯合部ニ於テ裁判ヲ爲スコトアリ此  
 場合ニ於テハ判事ノ數ハ聯合部ノ判事少クトモ三分ノ二列席スルコトヲ要ス  
 而シテ裁判ヲ爲スニハ奇數ノ判事列席ヲ要スルカ故ニ二部聯合スルトキハ十  
 一人若クハ十三人ノ判事列席スルコトヲ要シ又四部聯合スルトキハ十九人二  
 十一人二十三人二十五人又ハ二十七人ノ判事列席スルコトヲ要スヘシ  
 裁判ヲ爲スヘキ判事ハ必ス終始審問ニ列席シタル者ナルコトヲ要ス故ニ審問  
 半途ニシテ判事ノ更代アルトキハ辯論ヲ更新スルコトヲ要スルモ檢事又ハ書  
 記ハ辯論中幾度更代スルモ辯論ヲ更新スルコトヲ要セス  
 判事ノ評議ハ之ヲ公行セス即チ評議ヲ爲スニハ當事者及ヒ公衆ノ傍聽ヲ許サ  
 ス合議室ニ於テ之ヲ爲シ何人ト雖モ室内ニ立入ルコトヲ許サスト雖モ豫備判  
 事及ヒ司法官試補ニハ傍聽ヲ許スコトナシトセス  
 評議ハ裁判長之ヲ開キ且ツ之ヲ整理スルモノトス  
 各判事意見ヲ述フル順序ハ官等最低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同シ  
 キトキハ年少ノ者ヲ始トシ受命事件ニ付テハ官等ト年齢トニ拘ラス受命判事

ヲ始トス而シテ裁判ハ過半数ノ意見ニ依リ之ヲ爲スモノナレトモ判事意見三  
 説以上ニ岐レ何レモ過半数ニ達セサルトキハ被告人ニ不利益ナル意見ヨリ順  
 次利益ナル意見ニ合算シ又私訴ノ金額ニ付テハ最も多數ノ意見ヨリ順次多數  
 ニ合算スルモノナリ

評議ノ場合ニ於テハ各判事ハ其意見ヲ表スルコトヲ拒ムヲ得サルモノトス  
 (ニ) 本案ノ裁判ニ關スル規則ハ左ノ如シ

(一) 裁判所ハ訴ヲ受ケタル事件ニ付キ管轄違又ハ公訴不受理ノ裁判ヲ爲スコ  
 トアリ

管轄違又ハ公訴不受理ノ言渡ハ裁判所ノ職權又ハ檢事若クハ被告人ノ申立  
 ニ因リ之ヲ爲スモノトス而シテ其言渡ハ本案ノ判決ナルヲ以テ刑事訴訟法  
 第二百五十條及ヒ第二百六十七條ノ規定ニ從ヒ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ  
 得ヘシ

管轄違ノ言渡ハ前ニ裁判所ノ管轄ニ付キ講説シタル所ノ規定ニ從ヒ事件カ  
 其裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキ之ヲ爲スモノナリ例ヘハ横濱地方裁判所ノ

管轄ニ屬スヘキ事件ヲ檢事ヨリ東京地方裁判所ニ起訴シタルトキ又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件ヲ檢事ヨリ區裁判所ニ起訴シタルトキハ受訴裁判所ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件ヲ地方裁判所ニ起訴シタルトキハ受訴裁判所ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ササヘカラサルカ此場合ニ於テハ地方裁判所ノ管轄内ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スルト即チ事件カ其管轄内ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ受訴裁判所ハ管轄違ノ言渡ヲ爲スコトナク直チニ第一審ノ判決ヲ爲スヘキモノトシ第二四〇條若シ事件カ其管轄外ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ受訴裁判所ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ササルヘカラサルモノトス又地方裁判所ノ本部ト支部トノ間ニ於テハ縱令檢事カ誤リテ公訴ヲ提起シタルコトアリトスルモ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非スシテ單ニ其事件ヲ移送スルニ止マルヘキモノトス

一事件ニ付キ管轄違ト時効ノ問題併發シ又ハ管轄違ト公訴不受理ノ問題併發シタルトキハ裁判所ハ其何レノ點ニ付キ先ニ判決スヘキヤ右何レノ場合

ニ於テモ管轄違ノ問題ヲ先ニ決スヘキモノトセサルヘカラス何トナレハ時効ノ問題モ公訴不受理ノ問題モ共ニ事件カ其管轄ニ屬シタル上ニ非サレハ此等ノ點ニ付キ裁判ヲ爲スヘキ權利ナキヲ以テ管轄違ノ問題アルトキハ此點ニ付キ先ヲ其裁判ヲ爲ササルヘカラス

管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テ被告人カ拘留セラレ居ルトキハ之ヲ放免スルヲ常トス然レトモ拘留ヲ必要トスルトキハ前拘留狀ヲ存シ又ハ新ニ拘留狀ヲ發シ事件ヲ檢事ニ送付スヘキモノトス此場合ニ於テハ法ニ明文ナキモ拘留スヘキ原由ヲ明示スルヲ善シトス管轄違ノ言渡アリタルトキハ檢事ハ更ニ適當ノ裁判所ニ起訴ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス故ニ若シ其手續ヲ爲ササルトキハ新ニ事件ヲ受ケタル裁判所ハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス

公訴不受理ノ裁判ハ起訴ノ手續カ適法ナラサルトキ例ヘハ起訴狀ニ官印又ハ檢事ノ捺印ナキトキ又ハ檢事代理ヲ命セラレタル司法官試補カ起訴シタルトキ或ハ訴訟記録カ燻失シ公訴ノ有無ヲ審査スルニ由ナキトキ之ヲ要ス

0523

ルニ檢事ノ起訴ナキニ歸著スルトキ之ヲ爲スヘキモノトス公訴不受理ノ言  
 渡ヲ爲ス場合ニ於テ被告人拘留ヲ受ケ居ルトキハ必ス之ヲ放免シ管轄違ノ  
 場合ニ於ケルカ如ク拘留狀ヲ發スルコトヲ得サルモノトス  
 (二)事件カ裁判所ノ管轄ニ屬シ犯罪ノ證據十分ナルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シ且  
 ツ公訴裁判費用ヲ要シタルトキハ其言渡ヲ爲シ又差押物件アルトキハ之ヲ  
 還付スルノ言渡ヲ爲スヘシ  
 刑ノ言渡即チ被告ヲ禁錮又ハ罰金等ニ處スル言渡ヲ爲スニハ必ス事實上ノ  
 理由證據上ノ理由及ヒ法律上ノ理由ヲ明示セサルヘカラス事實上ノ理由ト  
 ハ犯罪ノ事實即チ罪ト爲ルヘキ事實ニ對スル理由ヲ謂フ例ヘハ竊盜事件ニ  
 付キ明治三十四年一月六日夜被告ハ東京市何區何町何番地何某方ニ忍入り  
 金百圓衣類雜品取交セ何十點ヲ竊取シタリト云フカ如ク證據上ノ理由トハ  
 證據ノ内容ヲ明示シテ罪ト爲ルヘキ事實ヲ認メタル理由ヲ謂フ例ヘハ前記  
 竊盜事件ニ付キ以上被告カ金品ヲ竊取シタル事實ハ何某ノ告訴狀ニ明治三  
 年一月六日夜私方ヘ竊盜忍入り金百圓衣類雜品取交セ何十點ヲ竊取シ

走セリトノコトヲ記載シ證人何某ノ豫審調書ニ押收ニ係ル此衣類雜品ハ明  
 治三十四年一月七日被告ヨリ質物ニ取リタル物品ニ相違ナク其時被告ニ金  
 十圓ヲ貸與シタル旨ノ記載アルコト被害者何某ノ訊問調書ニ押收ニ係ル此  
 衣類雜品ハ私ノ所有ニシテ明治三十四年一月六日夜盜難ニ係リタル物品ニ  
 相違ナキ旨ノ記載アルコト及ヒ被告カ當公廷ニ於テ竊盜ヲ爲シタル旨ヲ自  
 白シタルコトニ依リ之ヲ認ムルニ足ルトノ理由ヲ付スルカ如シ又法律上ノ  
 理由トハ罪ト爲ルヘキ事實ニ對シ適用スヘキ法律ノ正條ヲ明示スルコトヲ  
 謂フ例ヘハ右竊盜事件ニ付キ右所爲ハ刑法第三百六十六條第三百七十六條  
 ニ該當スル竊盜罪ナルヲ以テ其刑期範圍内ニ於テ處斷スヘキモノトスト理  
 由ヲ付スルカ如シ而シテ右三箇ノ理由ニ付テハ刑事訴訟法第二百三條ノ規  
 定アルヲ以テ若シ之ヲ明示セサルトキハ其判決ハ違法ノ判決ナルカ故ニ控  
 訴ニ於テハ原判決取消ノ原由ト爲リ上告ニ於テハ原判決破毀ノ原由ト爲ル  
 ヘシ

公訴裁判費用及ヒ差押物件還付ノ言渡ヲ爲スニ付テモ法律ノ正條即チ刑法



第四十五條、同第四十七條刑事訴訟法第二百一條第一項、第二百二條等ヲ適用スルニ如クハナシト雖モ該條ヲ適用セサルモ違法ト謂フヲ得ス何トナレハ公訴裁判費用及ヒ差押物還付ノ言渡ハ刑ノ言渡ニ非サルヲ以テ法律上ノ理由ヲ付スヘシトノ規定之ナキヲ以テナリ

(三)事件カ裁判所ノ管轄ニ屬シ犯罪ノ證憑十分ナラサルトキ又ハ事件罪ト爲ラサルトキハ無罪ノ言渡ヲ爲シ刑事訴訟法第六十五條第三號以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ此場合ニ於テモ差押物件アルトキハ之ヲ還付スルノ言渡ヲ爲ササルヘカラスト雖モ公訴裁判費用ニ付テハ別ニ之カ言渡ヲ爲スニ及ハサルモノトス何トナレハ此場合ニ於テハ刑事訴訟法第二百一條第二項ノ規定ニ依リ當然國庫カ之ヲ負擔スヘキモノナルヲ以テナリ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ爲スニ付テモ其理由ヲ明示スルコトヲ要ス是レ刑事訴訟法第二百三條第二項ノ規定スル所ナリ故ニ公訴ノ時効ニ罹リタルトキハ其時効ニ罹リタル事由大赦アリタルトキハ其大赦アリタル事由確定判決ニ係リタルトキハ其確定判決ヲ經タル事由ヲ明示セサルヘカラスト又事件カ罪ト爲ラサルトキハ如何ナル理由ニ依リ罪ト爲ラサルカ其理由ヲ明示セサルヘカラスト犯罪ノ證憑十分ナラサルトキハ犯罪ノ證憑十分ナラサル旨ヲ判示スレハ其理由十分ナルカ將タ民事ニ於ケルカ如ク原告官タル檢事ノ採用シタル證據ニ對シ逐一説明ヲ下シ其心證ヲ得難キ理由ヲ明示セサルヘカラストナルカ是レ刑事訴訟法第二百三條改正以後ノ一疑問タリ然レトモ最近ノ大審院判決例ニ依レハ犯罪ノ證憑十分ナラサルトキハ其證憑十分ナラサル旨ヲ判示スレハ其理由十分ナルモノト爲シタリ

茲ニ二箇ノ疑問アリ即チ左ノ如シ

(1)親告罪ニ付キ審理中告訴人ヨリ告訴ヲ取下ケタルトキハ裁判所ハ如何ナル判決ヲ爲スヤ此疑問ニ付テハ從來種種ノ說アリ即チ此場合ニ於テハ裁判所ハ無罪ヲ言渡スヘシト主張スル者アリ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘシト主張スル者アリ又免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノナリト主張スル者アリト雖モ大審院ノ判決例ニ依レハ此場合ニ於テハ從來免訴ノ言渡ヲ爲シ來レリ

(2)刑ノ廢止アリタルトキハ被告ニ對シ如何ナル言渡ヲ爲スヘキヤ此疑問ニ

付テハ二説アリテ第一説ニ於テハ無罪ヲ言渡スヘシト主張シ第二説ニ於テハ免訴ヲ言渡スヘシト主張セリ余ヲ以テ之ヲ觀レハ此場合ニ於テハ被告カ行爲ヲ爲ス當時ニ在リテハ其行爲當時ノ法律ニ觸レ罪ト爲ルヘキモノナレハ刑ノ廢止後ニ至リ爲シタル行爲ト其性質ヲ異ニスルハ論ヲ埃タサルノミナラス此場合ニ於テ裁判所カ被告ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲ス能ハサルハ其所爲罪ト爲ラサル理由ニ依ルモノニ非スシテ刑事訴訟法第六條第四號ノ規定アルニ依ルモノナレハ確定判決大赦時効等ノ場合ト同シク免訴ノ言渡ヲ爲スヲ以テ其當ヲ得タルモノトス

(四)事件カ裁判所ノ管轄ニ屬シ公訴ノ判決ヲ爲ストキハ之ト同時ニ公訴附帶ノ私訴ニ付テモ判決ヲ爲スヘシ

此場合ニ於テハ請求金額ノ多寡ニ拘ラス又有罪ノ判決ヲ爲ス場合ト無罪若クハ免訴ノ言渡ヲ爲ス場合ト問ハス私訴ニ付キ判決ヲ爲スヘキモノトス

公訴附帶ノ私訴ニ付テハ公訴判決ト同時ニ之カ判決ヲ爲スヲ常則トスレトモ若シ私訴ニ付キ其取調十分ナラサルトキハ公訴ノ判決ヲ先ニシ私訴ノ判

決ヲ後ニスルコトヲ得ヘシ

私訴ノ判決ヲ爲ストキハ之ト同時ニ私訴ニ關スル訴訟費用ノ裁判ヲ爲サザルヘカラス而シテ私訴ニ關スル訴訟費用ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ニ從フヘキモノトス

茲ニ一ノ疑問アリ他ナシ私訴ノ判決ヲ爲スニ付キ裁判所ハ當事者ノ授用セサル所ノモノヲ證據トシテ判決ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ否ヤト云フニ在リ此疑問ニ付テハ左ノ二説アリ

第一 裁判所ハ當事者ノ授用セサル所ノモノヲ探テ證據ト爲シ判決ヲ爲スヲ得ス私訴ハ贓物ノ返還又ハ損害ノ賠償ヲ以テ其目的トスルモノニシテ其性質タルヤ民事上ノ請求ニ外ナラサレハ之カ判決ヲ爲スニ付テハ裁判所ハ民事訴訟ノ原理ニ基キ當事者即チ原告若クハ被告ノ授用セサル所ノ證據方法攻撃防禦ノ方法等ヲ用フルコト能ハサルモノト爲ササルヘカラス即チ民事訴訟ニ於ケルト同シク裁判所ハ不干渉主義ヲ探ラサルヘカラス且ツ刑事訴訟法第二百一十一條ヲ見ルニ公訴ニ付キ辯論終リタル後民事原告人ハ被

0526

害ノ事實ヲ證明シ且ツ私訴ニ付キ其請求スル所ヲ陳述ス可シトアリテ私訴ニ付テハ其舉證ノ責任ハ民事原告人ニ在ルコト論ラ埃タス故ニ民事原告人ニ於テ若シ其舉證ノ責任ヲ盡ササルトキハ裁判所ハ之ニ對シ敗訴ノ判決ヲ爲スハ固ヨリ當然ニシテ裁判所ヨリ進ミテ民事原告人ノ援用セサル所ノモノヲ證據ト爲シ判決ヲ爲スラ得サルモノトス

第二 裁判所ハ當事者ノ援用セサル所ノモノト雖モ公訴事件ニ付キ知り得タル所ノモノハ之ヲ採テ證據ト爲シ私訴ノ判決ヲ爲スコトヲ得ヘシ法律上刑事裁判所ニ公訴附帶ノ私訴ニ付キ審判ヲ爲スコトヲ許シタルハ素ト一ノ便法ニ外ナラス即チ刑事裁判所ハ公訴ノ審理ヲ爲シ被害ノ原因被害ノ有無及ヒ被害ノ程度ニ付キ已ニ其心證ヲ得テ私訴ノ審判ヲ爲スニ付キ最モ便利ナルヘキヲ以テ公訴ト併セテ私訴ノ審判ヲ爲スヲ許シタルモノナリ若シ第一說ノ如クセハ刑事裁判所カ公訴ニ付キ竊盜ノ事實アリト認メ有罪ノ判決ヲ爲ス場合ト雖モ民事原告人ノ援用シタル證據ニシテ裁判所カ有罪ノ心證ヲ得タル證據ニ的中セサルトキハ裁判所ハ私訴ニ付キ民事原告人敗訴ノ裁

判ヲ爲ササルヘカラス是レ豈法律上刑事裁判所ニ公訴附帶ノ私訴ニ付キ審判スルコトヲ許シタル精神ニ適合スルモノト謂フヲ得ンヤ且ツ刑法第四十八條後段ヲ閱スルニ若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ストアルニ由リ犯人ノ手ヨリ押收シタル贓物アルトキハ縱令被害者ニ於テ私訴ヲ爲ササル場合ト雖モ裁判所ハ之ヲ被害者ニ還付スルノ言渡ヲ爲ササルヘカラス是レ亦法律カ刑事訴訟ニ於テ許シタル一ノ便法ニ外ナラス然ルニ若シ犯人ノ手ヨリ押收シタル贓物アルニ拘ラス被害者ハ私訴ヲ爲シナカラ毫モ之カ舉證ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ私訴ニ付テハ其舉證ナシトシテ民事原告人敗訴ノ裁判ヲ爲ササルヘカラサルカ第一說ニ從ヘハ此場合ニ於テハ民事原告人ニ對シ敗訴ノ裁判ヲ爲ササルヘカラスト雖モ是レ亦請求ナキニ拘ラス犯人ノ手ニ在ル贓物ヲ被害者ニ還付スルコトヲ命シタル法律ノ精神ニ適合スルモノト謂フヲ得ンヤ又第一說ノ援用スル所ノ刑事訴訟法第二百一十一條ノ規定ハ公訴辯論ノ終了シタル後民事原告人ハ私訴ニ付キ申立ヲ爲スヘキコトヲ命シタルニ外ナラサレハ之ヲ以テ刑事裁

判所ハ公訴ニ付キ知り得タルコトヲ度外ニ措キ單ニ民事原告人ノ提出シタル證據若クハ攻撃ノ方法ノミニ據リ判決ヲ爲スヘキコトヲ命シタルモノト謂フヲ得サルヘシ

右疑問ニ伴ヒ生スヘキ問題ハ私訴判決ニ對スル控訴ノミヲ審判スヘキ第二審裁判所ハ當事者ノ援用セサル證據及ヒ攻撃防禦ノ方法ニ基キ判決ヲ爲スヘキコトヲ得ヘキヤ否ヤ上告裁判所ヨリ公訴附帶ノ私訴ノミノ移送ヲ受ケタル第二審裁判所民事部モ亦當事者ノ援用セサル證據及ヒ攻撃防禦ノ方法ニ基キ判決ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ否ヤ裁判所ハ私訴ノ審判ヲ爲スニ付キ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ否ヤト云フニ在リ

(五)被告人公判期日ニ出頭セサルトキハ關席判決ヲ爲スヘシ然レトモ關席判決ヲ爲スニハ場合ニ依リ其手續ヲ異ニセリ

(1)罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付キ被告人又ハ其代人出頭セサルトキハ裁判所ハ直チニ關席判決ヲ爲スヘシ  
(2)禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付テハ豫審終結決定書又ハ公判ノ呼出狀

ヲ本人ニ送達シタル證アルニ非サレハ關席判決ヲ爲スヲ得ス

故ニ若シ豫審終結決定書又ハ公判ノ呼出狀ヲ本人ニ送達シタル證ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ相當ノ猶豫期間ヲ定メ其期間ニ被告人出頭セサルトキハ關席判決ヲ爲スヘキ旨ノ告知書ヲ作り之ヲ被告人ノ親屬又ハ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地ノ市町村長ニ送達シ若シ其本籍若クハ最後ノ住所地不明ナルトキハ右告知書ヲ少クトモ一箇月裁判所ノ揭示板ニ貼付シテ公示シ其上被告人出頭セサルトキ始メテ關席判決ヲ爲スヘキモノトス

私訴關係人出頭セサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ關席判決ヲ爲スヘキモノトス

關席判決ニ對シテハ關席者ヨリ故障ヲ申立ルコトヲ得ヘシ而シテ其申立ヲ爲スニハ裁判所ニ申立書ヲ提出スルコトヲ要ス

故障ハ其性質控訴上告ノ如ク上訴ノ一種ニ非スシテ關席判決ヲ爲シタル裁判所ニ對シ審理ノ更新ヲ求ムルニ在リ故ニ其結果トシテ上訴トハ左ノ差異アリトス

(1) 故障ヲ受理シタル裁判所ハ被告人ニ對シテ關席判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ヘシ控訴上告ノ場合ニ於テハ被告人ノ上訴ヲ受ケタル裁判所ハ被告人ニ對シテ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得サルコトハ刑事訴訟法第二百六十五條第二百九十一條ノ規定スル所ナレトモ故障ハ上訴ニ非ナルヲ以テ此規定ヲ適用スルニ及ハス

(2) 故障ノ場合ニ於テハ縱令被告人ノ申分ニシテ理由アルトキト雖モ刑期ハ後判宣告ノ日ヨリ起算シ關席判決宣告ノ日ヨリ起算セス控訴上告ノ場合ニ於テハ若シ被告人ノ上訴理由アルトキハ刑期ハ前判即チ原判決宣告ノ日ヨリ起算スヘキモノナルコトハ刑法第五十一條第一號ノ規定スル所ナレトモ故障ハ上訴ニ非ナルヲ以テ此規定ヲ適用スルコトヲ得サルモノナリ

故障申立ノ期間ハ三日ナリトス而シテ此期間ハ場合ニ依リ其起算點ヲ異ニス即チ罰金以下ノ刑ヲ言渡シタル判決及ヒ私訴判決ニ對スル故障期間ハ判決正本送達ノ日ヨリ起算シ禁錮以上ノ刑ヲ言渡シタル判決ニ對スル故障期間ハ被告人自ラ判決正本ノ送達ヲ受ケ又ハ判決ノ執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知りタル日ヨリ起算スルモノトス

判決ノ送達又ハ其執行以外ノ原因ニ依リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知りタルトキハ故障期間ハ進行スルコトナシト雖モ故障ヲ申立ツルコトハ敢テ差支ナカルヘシ何トナレハ判決ノ送達又ハ其執行以前ニ故障ヲ爲スコトヲ得ストノ規定ナキヲ以テナリ

關席判決宣告ノ日ヨリ刑ノ時効期間經過シタル者ハ故障ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス何トナレハ時効期間ヲ經過シ刑ノ時効ヲ得タルトキハ其判決ハ已ニ確定シタルモノニシテ確定判決ニ對シテハ故障ヲ爲スコトヲ許スヘキ條理ナキヲ以テナリ

故障期間ハ前ニ述ヘタル如ク三日間ナレトモ天災其他ノ事變ノ爲メ故障期間ヲ經過シタル者ニ對シテハ法律上其權利ヲ回復スルコトヲ許セリ故ニ其權利ヲ回復セント欲スル者ハ障礙ノ止ミタル日ヨリ三日間ニ其原因ヲ疏明シ故障申立書ト共ニ其申立書ヲ裁判所ニ提出スヘシ此場合ニ於テハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ先ツ其申立ヲ許スヘキヤ否ヤニ付キ決定ヲ爲スヘキモ

ノトス  
 故障申立ノ期間中又ハ故障アリタルトキハ其審判中ハ判決ノ執行ハ之ヲ停止スルコトヲ要ス  
 故障ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ公判期日ヲ定メ被告人其他訴訟關係人ヲ呼出ササルヘカラス而シテ裁判所ハ職權ヲ以テ故障ヲ許スヘキヤ否ヤ又故障カ期間經過前ニ係ルモノナルヤ否ヤヲ調査シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ判決ヲ以テ故障棄却ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス  
 故障ノ申立カ適法ナル場合ニ於テハ通常ノ手續ニ從ヒ裁判ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テ故障申立人再ヒ闕席シタルトキハ裁判所ハ新闕席判決ノ言渡ヲ爲スヘシ而シテ此闕席判決ニ對シテハ闕席者ヨリ更ニ故障ヲ爲スコトヲ許サス然レトモ此闕席判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ其控訴期間ハ法ニ明文ナキモ罰金以下ノ刑ニ付テハ判決ノ送達アリタル日ヨリ起算セテ五日トシ禁錮以上ノ刑ニ付テハ本人自ラ判決ノ送達ヲ受ケ又ハ判決ノ執行ニ依リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル日ヨリ起算シテ五日ト爲スヲ

要當ナリト思考ス

茲ニ一ノ疑問アリ即チ第一審ノ闕席判決ニ對シ被告ノ爲シタル故障ハ之ヲ取下クルコトヲ得ルヤ否ヤト云フニ在リ此疑問ニ付テハ之ヲ取下クルコトヲ得ヘシト主張スル積極論者ト之ヲ取下クルコトヲ得スト主張スル消極論者トノ外ニ故障受理ニ至ルマテハ之ヲ取下クルコトヲ得ト主張スル折衷論者アリ

(1) 積極論者ノ唱フル所ハ闕席判決ニ對シ故障ヲ申立ツルハ刑事訴訟法第二百二十八條第二項ニ依リ闕席者ニ付與セラレタル一ノ權利ニシテ控訴上告ト異ナル所ナシ而シテ控訴上告ニ付テハ檢事ヲ除ク外上訴ヲ爲シタル者ハ其判決アルマテ何時ニテモ之ヲ取下クルコトヲ得ルトハ同法第二百四十六條ノ明示スル所ニシテ敢テ疑ヲ其間ニ容ルヘキ所ナシト雖モ故障ニ付テハ同法中別ニ之ヲ取下クルコトヲ得ヘシトノ明文ナキヲ以テ之ヲ取下クルコトヲ得サルカ如シ然レトモ右ハ畢竟法律ノ不備ニシテ故障ヲ爲スコトハ闕席者ノ權内ニ在ルモノナレハ故障ヲ爲シタル上之ヲ續行スルモ之ヲ取下クルコト

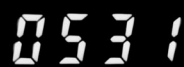


亦其權内ニ在リト謂ハサルヘカラス且ツキ民事ノ闕席判決ニ對シ故障ヲ爲シタル者カ之ヲ取下クルコトハ民事訴訟法第二百六十四條ノ認ムル所ナルヲ以テ觀ルモ刑事ニ於テ申立人カ故障ヲ取下クル權アルコト推シテ知ルヘキナリト云フニ在リ

(2)消極論者ノ唱フル所ハ刑事ニ付テハ民事ト異ナリテ法ニ明文ナキモノハ執行官ニ於テ之ヲ許スノ權ナキモノナリ我刑事訴訟法ハ檢事ヲ除クノ外上訴ヲ爲シタル者カ之ヲ取下クルコトヲ得ルハ刑事訴訟法第二百四十六條ノ明許スル所ナレトモ故障ニ付テハ同法中其明文アルヲ見ス且ツ我刑事訴訟法ノ本タル佛國刑事訴訟法第八十七條ニハ闕席者カ故障ヲ申立テ且ツ其申立ヲ有效ニ對手人ニ通知シタルトキハ闕席判決ハ無効タリトノ規定アリ我刑事訴訟法ニハ故障ニ依リ闕席判決カ無効タリトノ明文ナシト雖モ第二百三十三條第一項ヲ玩味スレハ故障申立アリタルトキハ闕席判決ハ自ラ無効タルヘキ法意ナルコトヲ推測スルニ足ルヲ以テ故障ヲ取下クルコトヲ許スモノトセハ其闕席者ニ對シテハ新ニ判決ヲ爲スニ由ナク又之ニ對シ執行スヘキ

判決ナキニ至ラン故ニ故障ノ取下ハ絕對的之ヲ許スヘカラスト云フニ在リ

(3)折衷論者ノ唱フル所ハ闕席判決ニ對シ故障ヲ爲スト爲ササルトハ闕席者ノ權内ニ在ルヲ以テ縱令之ヲ申立テタル後ト雖モ事ニ害ナキ以上ハ之ヲ取下クルコトヲ許スハ當然ノコトナリトス消極論者カ唱フル如ク法ニ明文ナキモノハ之ヲ取下ケ之ヲ拋棄スルヲ許ササルモノトセンカ被告カ公廷ニ於テ辯論ノ延期ヲ申請シ或ハ證據調ノ申請ヲ爲シタル後ハ縱令之ヲ取下ケ之ヲ拋棄スルモ裁判所ハ之ニ對シ判定ヲ與ヘカラス被告カ公廷ニ於テ裁判ノ手續ニ付キ異議ヲ申立テ或ハ管轄違公訴不受理ノ申立ヲ爲シタル後之ヲ取下ケント欲スルモ之ヲ許サスシテ相當ノ裁判ヲ爲ササルヘカラス又被告カ忌避ノ申立又ハ保釋ノ申立ヲ爲シタルトキノ如キモ之ヲ爲シタル以上ハ其取下ヲ許サスシテ裁判ヲ與ヘサルヘカラサルニ至ラン然レトモ自己カ自由ニ申立タルコトヲ自己カ自由ニ取下クルヲ許ササルノ理由ナキノミナラス刑事訴訟ニ於ルモ民事訴訟ニ於ケルト同シク申立ナケレハ裁判ヲ與ヘストハ一大原則ナルカ故ニ一旦申立ヲ爲シタリト雖モ申立人ニ於テ之ヲ



取下ケタル上ハ其申立ナキニ歸スルヲ以テ之カ裁判ヲ與フルハ右原則ニ違背スルモノナリ又之ヲ實際ニ徵スルモ申立人カ右ノ如キ申立ヲ取下ケタルニ拘ラス裁判所カ之ニ對シ裁判ヲ與ヘタル例アルヲ聞カス已ニ他ノ申立申請等ニシテ取下ヲ爲スヲ許ストセンカ故障申立ニ對シテノミ法ニ明文ナシトシテ之ヲ取下ケルヲ許ササルノ理由アラシヤ然レトモ裁判所カ一旦故劇ヲ受理シタル上ハ申立人ト雖モ之ヲ取下ケルヲ得サルヘシ其理由ハ故障ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ故障ヲ許スヘキヤ故障ノ期間内ニ申立ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ故障ヲ棄却スヘク若シ此要件ヲ具備スルトキハ法理上一般ノ規定ニ從ヒ事件ニ付キ審判ヲ爲ササルヘカラス即チ刑事訴訟法第二百十八條以下ノ規定ニ從ヒ檢事ヨリ被告事件ノ陳述ヲ聞キ被告ノ訊問ヲ爲シ證據調ヲ爲ス等總テ對審ノ式ヲ履行スルコトヲ要ス是レ刑事訴訟法第二百三十三條第一項ノ規定スル所ナリ此場合ニ於テハ闕席判決カ無効ナリトノ明文ハナキモ一般ノ規定ニ從ヒ事件ノ審判ヲ更ニ爲スコトヲ命シタル同條第一項ノ法文中ニハ自ら闕席判決ノ無

効ナル意義ヲ包含スルコト疑ヲ容ルヘカラス闕席判決ニシテ已ニ無効ナル以上ハ殘ル所ハ唯檢事ノ提起シタル公訴アルノミ然ルニ故障ノ取下ケ許シ公訴ニ付テ審判ヲ爲ササルトキハ被告ハ故障ノ取下ケ因リ法網ヲ免ルルノ結果ヲ生スルニ至ラン豈ニ此ノ如キ理アラシヤ且ツ故障申立ノ目的小控訴上告トハ異ナリテ闕席判決ヲ撤回セシメ更ニ對審判決ヲ受タルニ在ルヲ以テ其申立ノ受理セラレ對審判決ヲ受クル地位ニ至レハ其目的ハ已ニ達シタルモノニシテ其後故障ノ成存スヘキ道理ナキナリ上訴ニ付テハ縱令期間經過後ノ上訴トシテ棄却セラレサルトキト雖モ控訴上告ハ尙ホ成存スルヲ以テ其理由アリヤ否ヤヲ審理シ理由ナキトキハ控訴上告ヲ棄却スルノ言渡ヲ爲ササルヘカラス故障ニ付テハ之ニ反シテ本案審理ノ末申立人ノ主張相立タサルトキト雖モ裁判所ハ有罪ノ判決ヲ爲スノミニシテ故障棄却ノ判決ハ之ヲ爲サス是ニ由リテ之ヲ觀ルモ故障受理ノ上ハ最早故障ノ成存セサルコト明カナルカ故ニ之ヲ取下ケント欲スルモ爲シ能ハサルモノナルコトヲ知ルニ足ラント云フニ在リ





右三説ノ中予ハ積極論者ノ説ヲ可トスル者ナリ其理由トシテハ積極論者ノ唱フル所並ニ折衷論者カ其前段ニ唱フル所ヲ援用シ尙ホ茲ニ少シク折衷論者カ其後段ニ唱フル所ヲ駁撃シテ以テ積極論者ノ可ナルコトヲ明カニヒント欲ス同論者カ其後段ニ唱フル所ハ要スルニ故障ノ受理ヲ以テ關席判決ハ消滅シ故障申立ハ其目的ヲ達シ了レリト誤信スルヨリ生スル所ノ謬タルヲ免レス論者ハ刑事訴訟法第二百三十三條第一項ノ法文ニ依レハ故障受理ノ上ハ關席判決ハ自ラ無効ノモノナリト主張スルモノナレトモ同條項ハ其前條ヲ受ケ故障ノ適法ナルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘシノ法意ニ外ナラサレハ之ヲ以テ佛國刑事訴訟法第八十七條ノ關席判決ハ無効ナリト明示シタル場合ト同視スルコト能ハサルヤ論ヲ埃タヌ又法ニ明文ナキヲ以テ故障ノ取下ヲ許サザルト法ニ明文ナキニ拘ラス關席判決ノ無効ヲ推測スルトハ其何レカ是ニシテ何レカ非ナルカハ識者ヲ待チテ而シテ後知ルヘキ所ニ非ス且ツ夫レ故障以外ノ申立申請等ニ付テハ折衷論者ト雖モ之ヲ取下クルコトヲ許スニ非スヤ然ルニ法ニ明文ナキニ拘ラス關席判決ノ無効ヲ推

測シテ以テ故障申立ノ目的ハ已ニ達シ了レリト論及シ其取下ヲ許サザルハ法理ニ背戾スルノ甚シキモノナラスヤ予ヲ以テ之ヲ見レハ刑事訴訟法第二百三十三條第一項ハ故障ノ適法ニシテ且ツ取下ノ如キ他ニ故障消滅ノ原因ナキトキハ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘシトノ法意ナリト解釋スルヲ以テ其當ヲ得タルモノナリト信スルナリ且ツ又論者ノ説ニ從ヘハ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ニ取掛リタルトキハ已ニ故障ノ受理アリシモノナレハ關席判決ハ無効ニ屬スルヲ以テ其後裁判所カ故障ノ不適法ナルコトヲ發見シタリト雖モ最早故障棄却ノ判決ヲ爲ス能ハサルニ至ラン然レトモ刑事訴訟法第二百三十二條ノ場合モ控訴ニ關スル同法第二百六十條ノ場合ト同シク辯論中若クハ辯論終結ノ後ト雖モ其不適法ナルコトヲ發見セハ故障棄却ノ判決ヲ爲スニ於テ何ノ妨ケカアラザランヤ論者ノ言フカ如クセハ辯論中若クハ辯論終結ノ後裁判所カ期間經過後ノ故障ナルコトヲ發見シテ之ヲ棄却シ其判決雖定シタルトキハ如何辯論ノ開始ハ故障ノ受理ヲ推測シ故障ノ受理ハ關席判決ノ無効ヲ惹起シタルニ拘ラス裁判所ハ故障棄却ノ判決ヲ下タシテ其事件

ノ局ヲ結ヒ一件落著セシメハ此說ノ爲メ却テ犯人ハ法網ヲ免ルルノ結果ヲ  
生スルニ至ルヘシ是レ予カ前說中積極論ヲ可ナリトスル所以ナリ  
(六)判決原本ノ作製 判決原本ノ作製ハ有罪ナルト無罪又ハ免訴ナルトニ從  
ヒ其趣ヲ異ニスル所ナキニ非ス茲ニ簡單ナル例ヲ掲ケテ之ヲ示サン

判決原本

東京府東京市何區何町何番地平民

何職

何 某

明治何年何月生

右竊盜事件ニ付キ審理判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告某ヲ重禁錮一年監視六月ニ處ス押收物件ハ差出人ニ還付ス

理 由

被告某ハ明治三十四年一月一日夜東京市何區何町何番地何某方ニ

忍入り金百圓衣類雜品取交セ七十五點ヲ竊取シタル  
右事實ハ被害者何某ノ呈出シタル盜難届ニ明治三十四年一月一日  
夜自宅ニ於テ盜難ニ罹リ金百圓衣類雜品取交セ七十五點ヲ竊取セラ  
レタル旨ノ記載アルコト、證人何某ノ豫審調書ニ押收ニ係ル物件ハ  
自分方ノ所有品ニシテ明治三十四年一月一日夜盜難ニ係リタル物  
品ニ相違ナキ旨ノ記載アルコト、證人何某ノ豫審調書ニ押收ノ物件  
ハ明治三十四年一月一日被告ヨリ質物ニ取リタル物品ニ相違ナク  
且ツ其際被告ニ金五圓ヲ貸渡シタルニ相違ナキ旨ノ記載アルコト  
被告カ當公廷ニ於テ前記竊盜ヲ爲シタルニ相違ナキ旨ヲ自白シタ  
ルコト並ニ押收ニ係ル衣類雜品等ニ徴シテ之ヲ認定スルニ足ル  
之ヲ法律ニ照スニ右所爲ハ刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ  
該當スルヲ以テ其刑期範圍内ニ於テ處分シ押收物件ハ刑事訴訟法  
第二百二條ニ依リ處分スヘキモノトス  
右ノ理由ナルヲ以テ主文ノ如ク判決スルモノナリ

刑事訴訟法 公判 通則 裁判

明治三十四年二月一日何地方裁判所刑事公庭ニ於テ檢事何某立會  
宣告ス

裁判所印

裁判長判事	何	某
判事	何	某
判事	何	某
裁判所書記	何	某

判決原本

東京府東京市何區何町何番地平民  
何職

何 某

明治何年何月生

右竊盜事件ニ付キ審理判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告某ヲ無罪トシ放免ス

理 由

被告某ハ明治三十四年一月一日夜東京市何町何番地何方ニ忍入  
リ金百圓衣類雜品取交セ七十五點ヲ竊取シタルコトハ其證據十分ナ  
ラサルヲ以テ刑事訴訟法第二百二十四條ニ依リ無罪ヲ言渡スヘキ  
モノトス因テ主文ノ如ク判決スルモノナリ

明治三十四年二月一日何地方裁判所刑事公庭ニ於テ檢事何某立會  
宣告ス

裁判所印

裁判長判事	何	某
判事	何	某
判事	何	某
裁判所書記	何	某

右ノ如ク判決原本ニハ必ス裁判所年月日事件ニ干與シタル檢事ノ官氏名ヲ

刑事訴訟法 公判 通則 裁判

記載シ刑事裁判所書記ニ於テ署名捺印スルコトヲ要シ又有罪ノ判決ニ付テハ罪ト爲ルヘキ事實及ヒ之ヲ認メタル證據上ノ理由並ニ法律上ノ理由ヲ明示スルコトヲ要スヘク又無罪若クハ免訴ノ判決ニ付テモ其理由ヲ明示セサルヘカラス若シ此記載要件ノ一ヲ缺クトキハ其判決ハ違法ニシテ控訴審ニ於テハ取消ノ理由ト爲ルヘク若シ控訴審ニ於テ其違法ノ判決ヲ取消ササルトキハ上告審ニ至リテ破毀ノ理由ト爲ルヘシ

(七)判決言渡 判決ハ必ス公廷ニ於テ之ヲ言渡スコトヲ要ス而シテ其言渡ナルモノハ主文ハ必ス之ヲ朗讀シ理由ハ之ヲ朗讀スルモ口頭ヲ以テ其要領ヲ告クルモ差支ナシ

刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ裁判長ハ其言渡ニ對シ上訴ヲ爲スヲ得ヘキコト並ニ其上訴期間ヲ被告人ニ告知シ又自費ヲ以テ判決ノ正本謄本又ハ抄本ヲ求ムルヲ得ヘキコトヲ被告人ニ告知セサルヘカラス若シ關席判決ナルトキハ被告人ニ送達スヘキ判決書ニハ必ス其判決ニ對シ故障ヲ爲スヲ得ヘキコト並ニ故障期間ヲ記載セサルヘカラス

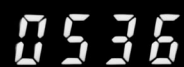
若シ右ノ告知又ハ記載ナキトキハ更ニ其通知アルマテ上訴及ヒ故障期間ハ進行セサルモノトス

關席判決ハ檢事又ハ訴訟關係人ノ請求ニ因リ關席者ニ送達スルモノトス判決ノ言渡ハ辯論終結ノ即日又ハ次ノ開廷日ニ之ヲ爲スヘキモノトス茲ニ次ノ開廷日ト云フハ辯論終結ノ日ト直近ノ開廷日ノミニ限定シタル律意ニ非サルヲ以テ事件ノ煩雜若クハ論點ノ多岐ニ涉ル等ノ場合ニ於テハ終結日數日ヲ經過シタル後判決ノ言渡ヲ爲スモ違法ト謂フヲ得サルヘシ

第九節 審理後ノ手續

審理後ノ手續トシテハ裁判所書記カ公判始末書ヲ作成スルノ一事アルノミ裁判所ノ構成其他訴訟手續ハ公判始末書ニ徴シテ之ヲ認知スルコトヲ得ルノミニシテ他ニ之ヲ證明スルノ途ナシ故ニ上級裁判所特ニ大審院ノ如キハ公判始末書ニ依リ裁判所ノ構成其他訴訟手續等ヲ審査スルノ外途アルコトナシ

公判始末書ニ記載スヘキ事項ハ刑事訴訟法第二百八條及ヒ第二百九條ニ列擧



- セラレタリ即チ左ノ如シ
- (一) 公ニ辯論ヲ爲シタルコト又ハ公開ヲ禁シタルコト及ヒ其事由
- (二) 被告人ノ訊問及ヒ其供述
- (三) 證人鑑定人ノ供述及ヒ宣誓ヲ爲シタルコト若シ宣誓ヲ爲ササルトキハ其事由

(四) 證據物件

- (五) 辯論中異議ノ申立アリタルコト其中立ニ付キ檢事其他訴訟關係人ノ意見及ヒ裁判所ノ裁判

- (六) 辯論ノ順序及ヒ被告人ヲシテ最終ニ供述セシメタルコト

- (七) 其他一切ノ訴訟手續

- (八) 裁判ヲ爲シタル裁判所

- (九) 年月日

- (十) 裁判長陪席判事檢事及ヒ裁判所書記ノ官氏名

- (十一) 辯論數日ニ涉ルトキハ其旨及ヒ同一ノ判事出席シタルコト

- (十二) 辯論中補充判事ヲシテ代ラシメタルトキハ其旨

(十三) 公判始末書ハ判決ノ言渡アリタルヨリ三十日以内ニ之ヲ作成シ裁判長及ヒ裁判所書記之ニ署名捺印スルモノトス裁判長ハ公判始末書ヲ檢閲シ意見アルトキハ之ヲ紙尾ニ記載スヘシ公判始末書ヲ作成シ訴訟記録ニ添附シタル以上ハ其後ニ至リ如何ナル瑕瑾アルコトヲ發見スルモ之ヲ補正スルコト能ハサルモノトス

公判始末書ハ訴訟記録ニ添附シ裁判所ニ之ヲ保存スルモノナリ

第二章 區裁判所公判ニ特別ナル規則

- (一) 豫審ヲ經サル被告事件ニシテ急速ヲ要スルトキハ公判ニ取掛ル前ト雖モ檢證處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ檢事其他訴訟關係人ノ立會ヲ要セサルモノトス

- (二) 被告人ノ自白アリタルトキハ他ノ證據調ヲ爲サスシテ直チニ判決ヲ爲スコトヲ得尤モ檢事其他訴訟關係人ノ異議アルトキハ此限ニ在ラス

### 第三章 地方裁判所公判ニ特別ナル規則

- (一) 地方裁判所ニ於テ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ檢證處分ヲ爲ストキハ受命判事ヲシテ之ヲ爲サシメ其報告ヲ爲サシムヘシ
- (二) 重罪事件ニ付テハ開廷前裁判長又ハ受命判事ハ被告人ヲ訊問シ且ツ辯護人ヲ選定シタルヤ否ヤヲ問查スヘシ此場合ニ於テハ裁判所書記ハ下調調書ヲ作成セサルヘカラス該調書ハ豫審調書トハ異ナリ公判ノ一部ニ屬スルヲ以テ之ヲ被告人ニ讀聞カセ又ハ署名捺印セシムルニ及ハス唯裁判所書記及ヒ裁判長又ハ受命判事カ署名捺印スルヲ以テ足レリトス
- (三) 重罪事件ニ付キ被告人ニ於テ辯護人ヲ自選セサルトキハ裁判所ヨリ之ヲ官選スルコトヲ要ス
- (四) 重罪事件開廷ノトキハ辯護人ハ公判開始ヨリ終結ニ至ルマテ立會フコトヲ要ス尤モ判決言渡ノトキハ其立會フ必要トセス隨テ判決言渡期日ヲ辯護人ニ通知セサルモ違法ニ非ス
- (五) 輕罪事件トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ檢事ヨリ其事件ヲ重罪トシテ訴追スルコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ事件ヲ豫審判事ニ送付スルノ決定ヲ爲シ且ツ被告人不拘束ナルトキハ拘留狀ヲ發セサルヘカラス此場合ニ於テハ豫審判事ハ通常ノ規定ニ從ヒ豫審終結ノ決定ヲ爲スヘキモノトス故ニ重罪ナリト思料スルトキハ重罪公判ニ付スルノ決定ヲ爲シ證據十分ナラサルトキハ免訴ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘシ若シ其事件已ニ豫審ヲ經タルモノナルトキハ裁判所ハ其公判ヲ停止シ重罪事件トシテ審判スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ取調ヲ爲サシメサルヘカラス此場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ニ屬スル一切ノ處分ヲ爲シ結了ノ上裁判所ニ對シ報告ヲ爲スコトヲ要ス其報告ハ書面ヲ以テスルモ口頭ヲ以テスルモ差支アルコトナシ裁判所ハ其上ニテ重罪事件トシテ審判ヲ爲スヘキモノナリ

### 第五編 上 訴

上訴ニ二種アリ即チ(一)ハ事件即チ事實ノ覆審ヲ求ムル上訴ニシテ其理由ハ單



ニ原裁判ハ不當ナル旨ヲ申立ツルヲ以テ足リトス(一)ハ裁判ノ當否ヲ審査ヲ求ムル上訴ニシテ原裁判ノ不當ナル理由ヲ逐一申立ツルコトヲ要ス故ニ控訴ハ右第一ノ種類ニ屬シ上告ハ第二ノ種類ニ屬ス

### 第一章 通則

(一) 上訴ハ法律上許サレタル上訴ナルコトヲ要ス  
上訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ左ノ如シ

- (イ) 検事 検事ハ被告人ノ利益ノ爲メ又ハ其不利益ノ爲メニモ上訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ即チ有罪ノ判決ナルト無罪ノ判決ナルト間ハス上訴ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ
- (ロ) 訴訟關係人 訴訟關係人トハ被告人、民事原告人、民事擔當人等ヲ謂フ而シテ被告人ハ公訴判決ト私訴判決ト間ハス上訴ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ民事原告人、民事擔當人ハ私訴判決ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ルモ公訴判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

(ハ) 辯護人 茲ニ辯護人ト云フハ前審ニ於テ選任セラレタル辯護人ナリトス而シテ辯護人ノ上訴ヲ爲スハ被告人ニ代ハリテ之ヲ爲スモノナレハ上訴申立ノ本人ハ被告人ナリトス又辯護人ニ於テ上訴ヲ爲シタルノミニシテ別ニ辯護届ヲ差出ササルトキハ上訴審ニ於ケル辯護人ニ非サルヲ以テ之ニ對シテハ公判期日ニ付テノ呼出狀ヲ發スルニ及ハサルモノトス

(ニ) 被告人ノ法律上代理人 法律上代理人ハ公訴判決並ニ私訴判決ニ對シテ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(ホ) 告訴人 告訴人ニシテ上訴ヲ爲スヲ得ヘキ場合ハ非常ノ例外ニシテ明治十六年朝鮮ニ於テ日本人民貿易規則並海關稅目第三十五款ニ於テ告訴ヲ爲シタル朝鮮國海關長カ日本領事官ノ爲シタル裁判ニ對シ不服ナルトキ控訴ヲ爲スコトヲ許シタル一例アルノミ

(三) 上訴ヲ爲スノ方式ハ其申立書ヲ原裁判所ニ呈出スルニ在リ尤モ拘留中ノ被告人ニ於テハ監獄署長ニ其申立書ヲ呈出シ監獄署長ヨリ原裁判所ニ之ヲ送致スルモノトス而シテ此場合ニ於テハ縱令期間内原裁判所ニ到達セサルモ申立

書ヲ監獄署長ニ呈出シタル當時上訴期間中ナリトキハ上訴ハ有效ニ成立スルモノトス之ニ反シテ若シ誤リテ申立書ヲ上訴裁判所ニ呈出シ期間經過後其申立書カ原裁判所ニ到達シタルトキハ其上訴ハ期間經過後ニ係ルモノトス

(四) 訴訟關係人ハ其申立ヲタル上訴ヲ取下クルコトヲ得ヘシト雖モ檢事ハ其申立タル上訴ヲ取下クルコトヲ得ス曩ニ講説シタル如ク檢事ハ公訴權ヲ行使スル者ナルモ自ラ公訴權ヲ有スル者ニ非サルヲ以テ一旦上訴ヲ爲シタル上ハ之ヲ取下クルコトヲ得サルモノトス

茲ニ一ノ疑問アリ即チ辯護人カ上訴ヲ爲シタル後其辯護人ヨリ之ヲ取下クルコトヲ得ルヤ否ヤト云フニ在リ

取下書カ裁判所ニ到達シタルトキハ取下ノ效力ヲ生スルモノトス故ニ取下書カ裁判所ニ到達シタルコトヲ知ラスシテ判決言渡ヲ爲シタルトキハ其判決ハ違法タルヲ免レス

(五) 天災又ハ其他ノ事變ノ爲メ上訴期間ヲ經過シタル者ニ對シテハ法律上其上訴權ヲ回復スルコトヲ許セリ故ニ其權利ヲ回復セント欲スル者ハ障礙ノ止ミタル日ヨリ通常ノ期間内控訴ニ付テハ五日上告ニ付テハ三日ノ期間内ニ其原因ヲ疏明シ上訴申立書ト共ニ其申立書ヲ裁判所ニ呈出スヘシ此場合ニ於テハ上訴ヲ裁判スヘキ裁判所ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ先ツ其申立ヲ許スヘキヤ否ヤニ付キ決定ヲ爲スヘキモノトス

(六) 上訴完結ノ後ハ其訴訟記録ハ判決ノ謄本ト共ニ原裁判所ニ還付スヘキモノトス

### 第二章 控 訴

本章モ亦左ノ數項ニ分テテ講述スヘシ

(一) 控訴ハ第一審判決ニ對シ爲スヘキ覆審ノ途ニシテ判決ノ確定前之ヲ爲スヘキモノトス而シテ控訴ヲ裁判スル裁判所ハ覆審ヲ爲スヘキ裁判所ナルカ故ニ第一審判決ノ認メタル罪名ニ拘束セラルルコトナク自由ニ事實上ノ審理ヲ遂ケ其犯罪ヲ構成スヘシト認定シタル點ニ對シ判決ヲ爲スヘキモノニシテ第一審判決ニ認定シタル犯罪ノ有無ヲ判定スルニ止マラサルモノトス又第一審





判決ト其意見ヲ異ニシタル場合ト雖モ逐一第一審判決ノ不當ナル理由ヲ舉示スルヲ要セス且ツ控訴ノ理由ニ對シテモ逐一其當否ヲ判定スルヲ要セサルモノトス要スルニ控訴裁判所ハ第一審裁判所ト同様自由ニ事實ノ認定證據ノ取捨及ヒ法律ノ適用ヲ爲シテ以テ判決ヲ下スノ權利アルモノトス

控訴ニ二種アリ一ヲ主タル控訴又ハ獨立ノ控訴ト謂ヒ一ヲ附帶控訴ト謂フ主タル控訴又ハ獨立ノ控訴トハ第一審判決ニ對シテ獨立シテ爲ス所ノ控訴ヲ謂ヒ附帶控訴トハ主タル控訴ニ附隨シテ爲ス所ノ控訴ヲ謂フ主タル控訴ト附帶控訴ト異ナル所ハ(第一)主タル控訴ハ必ス五日ノ期間内ニ之ヲ提起セサルヘカラスト雖モ附帶控訴ハ主タル控訴ニ附隨シテ本案ノ判決アルニ至ルマテ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ故ニ附帶控訴ハ公庭ニ於テ其申立ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ(第二)主タル控訴ヲ爲スニハ必ス其申立書ヲ差出ササルヘカラスト雖モ附帶控訴ヲ爲スニハ必スシモ申立書ヲ差出スニ及ハス故ニ附帶控訴ハ公庭ニ於テ口頭ヲ以テ之ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ(第三)附帶控訴ハ控訴裁判所ノ檢事モ亦之ヲ爲スコトヲ得レトモ主タル控訴ハ控訴裁判所ノ檢事ニ於テハ之

ヲ爲スコトヲ得ス(第四)主タル控訴ヲ取下クルトキハ附帶控訴ハ當然其效力ヲ失フモ附帶控訴ヲ取下ケタリト雖モ主タル控訴ハ其效力ヲ失フモノニ非ス主タル控訴ニ對シテノミ判決ヲ下シ附帶控訴ニ對シテ何等ノ判決ヲ下ササルハ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲ササルモノニシテ違法ノ判決タルヲ免レヌ又大審院ニ於テ甲控訴院ノ判決ヲ破毀シ事件ヲ乙控訴院ニ移シタルトキト雖モ甲控訴院ニ於テ檢事若クハ被告ノ爲シタル附帶控訴ハ消滅スルモノニ非ス故ニ乙控訴院ハ其附帶控訴ニ對シテモ判決ヲ爲ササルヘカラス若シ之ヲ爲ササルトキハ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲ササル違法アルモノトス

第一審判決ニ對シテ檢事カ爲シタル刑期輕キニ失ストノ附帶控訴ハ被告ノ控訴ト其性質上一致スヘキモノニ非ス故ニ其場合ニ於テ檢事ノ附帶控訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ取消シ第一審判決ヨリ重キ刑ヲ言渡スニ當リ被告ノ控訴ヲ理由アリト説明シタル判決ハ不法ナリトス然レトモ若シ其場合ニ於テ被告ノ控訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ取消シ無罪ヲ言渡ストキハ檢事ノ附帶控訴ヲ理由アリトスルヤ否ヤ此疑問ニ對シテハ二說アリ即チ第一說ニ於テハ檢

事ノ附帶控訴ハ相立タルヲ以テ理由ナシトシテ之ヲ棄却スヘシト主張シ第  
二説ニ於テハ檢事カ獨立シテ刑期輕キニ失セリトシテ控訴ヲ提起シタル場合  
ト雖モ裁判所カ無罪ノ心證ヲ得タルトキハ檢事ノ控訴ヲ理由アリトシテ第一  
審判決ヲ取消シ無罪ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ル以上ハ檢事カ被告ノ控訴ニ附帶  
シテ控訴ヲ爲シタル場合ト雖モ無罪ノ心證ヲ得タルトキハ其附帶控訴モ亦理  
由アリト謂ハサルヘカラス故ニ檢事ノ附帶控訴ヲ理由アリトスルヲ以テ相當  
ナリト主張セリ

甲控訴院ノ爲シタル判決ニ對スル再審ノ訴ヲ理由アリトシテ該判決ヲ破毀シ  
乙控訴院ニ事件ヲ移シタル場合ニ於テ乙控訴院ノ檢事ハ被告ニ不利益ナル附  
帶控訴ヲ爲スヲ得サルモノトス何トナレハ再審ノ訴ハ被告利益ノ爲メニ許シ  
タルモノニシテ再審ノ爲メ事件ヲ移サレタル以上ハ被告利益ノ爲メ審判ヲ爲  
スヘキモノナレハ其目的ニ反スル不利益ノ附帶控訴ヲ爲スヲ得サルハ當然ナ  
レハナリ

(二) 如何ナル判決ニ對シ控訴ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ控訴ハ裁判所カ第一審

ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ公訴不受理又ハ管轄違ノ申立ヲ却下シタル本  
案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ其判決カ區裁判所ノ爲シタル  
判決ナルト地方裁判所ノ爲シタル判決ナルトヲ問ハス又其判決カ言渡シタル  
刑期ノ長短若クハ金額ノ多寡ニ拘ラサルモノトス故ニ區裁判所ノ管轄ニ屬ス  
ヘキ事件ヲ地方裁判所ニ於テ審判シタル場合ト雖モ其判決ニ對シテ控訴ヲ爲  
スコトヲ得ルモノナリ本案ノ判決ニ對シテハ總テ控訴ヲ爲スコトヲ許スモ本  
案前ノ判決ニ付テハ公訴不受理又ハ管轄違ノ申立ヲ却下シタル場合ニ非サレ  
ハ控訴ヲ爲スヲ許サス本案前ノ裁判ハ前ニ述ヘタル如ク其種類尠カラス故ニ  
若シ其裁判ニ對シ一控訴ヲ爲スコトヲ許ストモ徒ラニ本案ノ裁判ヲ遲延  
セシムルノ恐レアルヲ以テ之ヲ許ササルモノナレトモ公訴不受理又ハ管轄違  
ノ申立ヲ却下スル判決ハ本案ニ影響ヲ及ホスヘキ裁判ニシテ若シ此判決ニ對  
シ控訴ヲ許ササルトキハ受訴裁判所ハ進ミテ事實ノ取消ヲ爲シ本案ノ判決ヲ  
爲ササルヘカラス而シテ本案ノ判決ヲ言渡シタル後控訴審ニ於テ其事件ハ公  
訴不受理又ハ管轄違ト爲リタルトキハ受訴裁判所カ本案ノ審判ヲ爲シタルコ

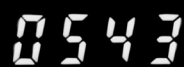
トハ全ク徒勞ニ屬スルヲ以テ公訴不受理又ハ管轄違ノ申立ヲ却下シタル本案前ノ裁判ニ對シテハ直チニ控訴ヲ爲スコトヲ許シタルモノナリ

(三) 控訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ通則ニ於テ叙述シタル上訴ヲ爲ス權ヲ有スル者ニ外ナラサルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス

(四) 控訴期間ハ判決ノ言渡アリタル日ヨリ五日間ナリトス然レトモ闕席判決ニ對シテ故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲ス場合ニ於テハ其期間ハ故障期間ト同一ナルヲ以テ罰金以下ノ刑ニ付テハ判決ノ送達アリタル日ヨリ三日間ナリトシ禁錮以上ノ刑ニ付テハ被告本人自ラ判決ノ送達ヲ受クルカ又ハ判決ノ執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル日ヨリ三日間ナリトス次ニ第二ノ闕席判決ニ對スル控訴期間ハ何日ナリヤト云フニ其五日間ナルコトハ論ヲ埃

タサル所ナリト雖モ其五日ハ何レノ日ヨリ起算スルカ將タ判決送達ノ日ヨリ起算スルカ刑事訴訟法第二百五十二條第一項ノ規定ニ依レハ控訴ノ期間ハ判決言渡アリタル日ヨリ五日トストアリテ第二ノ闕席判決ニ對スル控訴期間モ一見判決言渡ノ日ヨリ起算スルカ如クナレトモ若シ判決言渡ノ日ヨリ之ヲ起

算スルモノナリトセハ被告ニ於テハ判決アリタルコトヲ知ラサルニ其判決ハ已ニ確定スルニ至ルヘシ闕席判決ハ元來假設ノ判決ナリ故ニ被告ニシテ其言渡アリタルコトヲ知リナカラ或期間内ニ不服ヲ申立テサレハ之ヲ確定シタルモノトスルモ妨ケナカルヘシト雖モ被告ニ其言渡アリタルコトヲ知ラシムルノ途ヲ盡サスシテ之ヲ確定シタルコトヲ云フハ是レ其當ヲ得タルモノト謂フヘカラス若シ被告ニ其言渡アリタルコトヲ知ラシムルノ途ヲ盡サスシテ五日後ハ控訴ヲ許ササルモノナリトセハ第二ノ闕席判決ハ假設ノ判決ニ非スシテ闕席者ニ對スル懲罰タルノ性質ヲ有スルニ至ルヘク又第二ノ闕席判決ニ對シテハ控訴ヲ許ササルト同一ノ結果ヲ生スルニ至ルヘシ故ニ余ハ第二ノ闕席判決ニ對スル五日ノ控訴期間ハ罰金以下ノ刑ノ言渡ニ付テハ判決ノ送達アリタル日ヨリ起算シ禁錮以上ノ刑ノ言渡ニ付テハ被告本人自ラ判決ノ送達ヲ受クルカ又ハ判決ノ執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル日ヨリ起算スルヲ以テ穩當ナリト信スルモノナリ次ニ附帶控訴ニ付テハ別ニ期間ノ設ケナシ故ニ附帶控訴ハ主タル控訴ノ判決アルニ至ルマテ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得



ヘク辯論終結後ト雖モ之ヲ爲スハ妨ケナカルヘシ  
 期間經過後ニ係ル控訴ノ申立アリタルトキハ原裁判所ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却  
 スルコトヲ得ヘシ是レ被告人及ヒ訴訟記録ヲ控訴裁判所ニ送致スルノ煩ヲ避  
 クル爲メ設ケタル便法ニ外ナラス但シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得  
 ヘシ然レトモ原裁判所ニ於テ期間經過後ノ控訴ナルニ心付カスシテ被告人並  
 ニ訴訟記録ヲ控訴裁判所ニ送致シタルトキハ控訴裁判所ハ公延ヲ開キ判決ヲ  
 以テ控訴ヲ棄却セサルヘカラス

(五) 控訴ヲ申立ツルニ付テノ方式ハ今日ニ於テハ控訴申立書ヲ原裁判所ニ差  
 出スコトノ一アルノミ從前ハ重罪及ヒ輕罪事件ニ付テハ控訴豫納金ヲ裁判所  
 ニ納付スルヲ以テ一ノ方式ト爲シ若シ此方式ヲ缺クトキハ控訴ハ成立セサル  
 モノトシテ控訴棄却ノ判決ヲ爲セタリ而シテ控訴豫納金ハ輕罪事件ニ付テハ  
 金十圓重罪事件ニ付テハ金二十圓ナリトシタリ明治十八年第二號布告及ヒ同  
 二十三年法律第七號尤モ重罪事件ニ付テハ貧困者ニシテ保證金ヲ豫納スル能  
 ハサルトキハ之ヲ免除シタリ故ニ其免除ヲ得ント欲スル者ハ控訴申立書ト共

ニ保證金免除ノ申請書ヲ裁判所ニ呈出シ且ツ其呈出ヨリ十四日內ニ控訴ノ趣  
 意書並ニ無實力タルノ證明書ヲ裁判所ニ呈出スルコトヲ要シ裁判所ニ於テハ  
 檢事ノ意見ヲ聽キタル上其許否ヲ決定シタリ但シ實益ナキトキハ免除ヲ與フ  
 ルニ及ハス又保證金ノ免除ナキトキハ其控訴ノ申立ハ効ナキモノトシ別ニ控  
 訴棄却ノ判決ハ之ヲ爲サザリシモノナリ然ルニ右控訴豫納金ニ關スル規則ハ  
 明治三十三年三月二日之ヲ廢止スルノ法律ヲ公布セラレタルヲ以テ其施行後  
 ハ控訴ヲ爲スニハ控訴豫納金ヲ要セザルコトト爲リタリ

(六) 控訴ノ效果ニ二アリ即チ左ノ如シ

(イ) 控訴ハ事件ヲ控訴裁判所ニ繫屬セシムルノ效力アルモノトス故ニ控訴  
 裁判所ハ事實上ト法律上トヲ問ハス總テ事件ノ覆審ヲ爲スモノナリ  
 然レトモ此效力ニハ三箇ノ制限アリ

(第一) 控訴ハ事件ヲ控訴裁判所ニ繫屬セシムルモノナリト雖モ其覆審ヲ爲  
 スハ控訴申立書ニ記載シタル部分ノミニ止マリ其他ニ及フヘカラサルモノ  
 トス故ニ例ヘハ公私訴ノ判決アル場合ニ於テ被告カ公訴判決ノミニ對シ控

訴ヲ爲シタルトキハ覆審ヲ爲スハ公訴ノミニ止マリ私訴ニ及フヘカラス又被告カ私訴判決ノミニ對シ控訴ヲ申立テタルトキハ其覆審ヲ爲スハ私訴ノ部分ノミニ止マリ公訴ニ及フヘカラサルカ如シ

茲ニ一疑問ト爲ルヘキコトハ數箇ノ重罪アリト認メ刑ノ言渡ヲ爲シタル判決ニ對シ被告カ一ノ重キ重罪ノ點ノミヲ不服ナリトシテ控訴ヲ爲シタルトキハ控訴裁判所ハ一ノ重キ重罪事件ニ付テノミ覆審ヲ爲スヘキカ將タ數箇ノ重罪全部ニ對シテ覆審ヲ爲スヘキモノナルカト云フニ在リ第一說ニ於テハ控訴審ニ繫屬スルハ被告々不服ヲ申立テタル一ノ重キ重罪事件ノミナルヲ以テ覆審ヲ爲スハ其部分ノミニ止マリ其他ニ及フヘカラス被告カ不服ヲ申立テサル他ノ部分ニ付テハ第一審判決ハ已ニ確定シタルモノナレハ刑法第百二條ノ餘罪俱發例ニ依リ處分セサルヘカラスト主張シ第二說ニ於テハ一ノ重キ重罪事件ノミニ對シ控訴ヲ申立テタリト雖モ數罪俱發例ニ依リ處斷シタルモノナルトキハ他ノ犯罪ハ牽聯シテ相離ルヘカラサルモノナラヲ以テ總テノ事件ニ付キ覆審ヲ爲シ刑法第百條ノ數罪俱發例ニ從ヒ處斷

セサルヘカラスト主張セリ大審院ノ判例ハ從前ハ第一說ノ如クナリシモ最近ノ判例ニ於テハ第二說ヲ採用シタリ

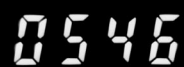
(第二) 控訴ハ事件ヲ控訴裁判所ニ繫屬セシムルモノナリト雖モ其覆審ヲ爲スハ控訴ノ性質ニ依リ制限セラルルモノトス故ニ民事原告人ノ控訴ハ私訴判決ニ對シテノミ其效ヲ有シ公訴判決ニ對シテハ其效ヲ生セス又檢事ノ控訴ハ公訴判決ニ對シテノミ其效ヲ有シ私訴判決ニ對シテハ其效ヲ生セス次ニ被告人辯護人又ハ法律上代理人カ控訴ヲ爲シタルトキ又ハ檢事カ被告利益ノ爲メ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ利益ト爲スコトヲ得サルモノトス何トナレハ右控訴ハ被告ノ利益ヲ目的トシテ爲ス所ノモノナレハ被告ノ利益ト爲スコトヲ許ササルハ刑事訴訟法第百六十五條ノ規定スル所ナリ而シテ該條ノ解釋ニ付テハ從來二說アリ即チ第一說ニ於テハ原判決ヲ被告ノ利益ニ變更スルコトハ主文ノ刑ヲ重クスルハ勿論判決ノ理由タル事實ノ認定又ハ法律ノ適用ヲ重クスルコトヲモ謂

フモノナリト故ニ例ヘハ第一審判決カ一罪ト認メタル事實ヲ第二審ニ於テ  
 二罪ナリト認定シ又ハ第一審判決カ刑法第二百八條第二項ヲ適用シタルヲ  
 第二審ニ於テ同條第一項ヲ適用シ以テ第一審判決ヲ取消シタルトキハ即チ  
 第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更セタルモノナリトス第二説ニ於テハ原判  
 決ヲ被告ノ不利益ニ變更スルトハ主文ノ刑ヲ重キニ變更セサルコトヲ謂フ  
 モノナリ故ニ主文ノ刑ヲ重キニ變更セサル限ハ第一審判決ト事實及ヒ法  
 律ニ付キ意見ヲ異ニシ第一審判決ヲ取消スモ原判決ヲ重キニ變更セタリト  
 謂フヲ得サルモノトス大審院ノ判例ハ從前ハ第一説ノ如クナリシモ最近ノ  
 判例ニ於テハ第二説ヲ採用シタリ大審院ニ於テ甲控訴院ノ判決ヲ破毀セ  
 件ヲ乙控訴院ニ移シタルトキハ甲控訴院ノ判決ハ刑事訴訟法第二百六十五  
 條ニ所謂原判決ト謂フヲ得ス故ニ乙控訴院カ甲控訴院ノ言渡シタル刑ヨリ  
 重キ刑ヲ言渡スモ違法ニ非ス又第二審ニ於テ第一審カ裁判ノ基本トシタル  
 犯情重キ所爲ヲ無罪トシ犯情輕キ所爲ニ對シ重キ犯情ニ科セタルト同一ノ  
 刑ヲ科スルモ之ヲ以テ原判決ヲ被告ノ不利益ニ變更セタリト謂フヲ得ス次

ニ第一審カ公訴裁判費用ノ負擔ヲ命セサリシヲ第二審ニ於テ負擔セシメタ  
 リト雖モ之ヲ以テ原判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルト謂フヲ得サルモノ  
 トス

(第三) 控訴審ニ於テハ辯論ニ因リ附帶ノ犯罪アルコトヲ發見スルモ之ニ對  
 シテ裁判ヲ爲スヘカラス第一審ニ於テ附帶ノ犯罪アルコトヲ發見シタルト  
 キハ檢事ノ起訴ナシト雖モ其審判ヲ爲スヲ得ヘキコトハ前ニ已ニ講述シタ  
 ル所ナリ控訴裁判所ハ事件ニ付キ覆審ヲ爲スト雖モ附帶ノ犯罪ニ付テハ審  
 判ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ控訴ニ繫屬スル所ノモノハ第一審ニ於テ審  
 判ヲ有シタル部分ノミニ止マリ其他ニ及ハサルコトハ控訴ノ性質上然ラサ  
 ルヲ得サルヲ以テ第一審ニ於テ審判セサル附帶ノ犯罪ハ控訴審ニ繫屬スル  
 ノ條理ナキヲ以テナリ

(四) 控訴ノ第二ノ效力ハ第一審判決ノ執行ヲ停止スルコト是ナリ控訴期間  
 内ハ判決未確定ナルヲ以テ其執行ヲ爲ス能ハサルコトハ論ヲ埃タス控訴期  
 間經過後ト雖モ已ニ控訴ヲ提起シタルトキハ前同様判決ハ未確定ナルヲ以



ヲ之カ執行ヲ爲ス能ハサルモノトス  
 刑ノ執行ヲ爲スニハ判決ノ確定ヲタルコトヲ要シ無罪又ハ免訴放免ノ執行  
 ヲ爲スニモ亦判決ノ確定ヲタルコトヲ要スヘシ然レトモ無罪又ハ免訴放免  
 ノ場合ニ於テ檢事カ其判決ニ對シ控訴ヲ爲スノ意ナキトキハ控訴期間内ト  
 雖モ之カ執行ヲ爲スニ妨ケナカルヘシ

(七) 第一審判決ニ對シ控訴ノ提起アリタルトキハ第一審裁判所ノ檢事ヨリ訴  
 訟記録ヲ第二審裁判所ノ檢事ニ送付シ第二審裁判所檢事ヨリ第二審裁判所ニ  
 差出スヘク又被告人カ拘留ヲ受ケタルトキハ第一審裁判所檢事ハ之ヲ控訴裁  
 判所ノ監獄ニ送致スルノ手續ヲ爲スヘシ  
 控訴裁判所カ訴訟記録ヲ受ケタルトキハ訴訟關係人ニ對シテ呼出狀ヲ發シタ  
 ル上其審理ニ著手スヘシ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間ニハ少クモ二日ノ猶豫  
 ヲ與フルコトヲ要ス然レトモ二日ノ猶豫期間ヲ與ヘサルモ被告人ヨリ異議ヲ  
 唱ヘスシテ辯論ヲ爲シタル以上ハ之ヲ以テ違法ナリト謂フヲ得ス何トナレハ  
 右猶豫期間ハ辯論準備ノ爲メ與フル所ノモノナレハ被告人ニ於テ異議ナク辯

論ヲ爲シ得ル以上ハ之ニ對シ猶豫期間ヲ與フルノ要ナキヲ以テナリ

控訴裁判所ノ審判ニ付ラハ地方裁判所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用スルモノ  
 トス然レトモ控訴ノ性質ト相容レサル規定ハ之ヲ適用スル能ハサルハ勿論茲  
 ニ又控訴ニ特別ナル所ノ規定ナキニ非ス其主ナルモノヲ掲クレハ

- (イ) 控訴ニ於テハ控訴申立人ヲシテ先ツ控訴ノ趣旨ヲ陳述セシムヘシ故ニ  
 檢事カ控訴ヲ爲シタルトキハ檢事ヨリ被告人カ控訴ヲ爲シタルトキハ被告  
 人ヨリ控訴ノ趣旨ヲ申立テシメ辯護人ヨリ控訴ヲ爲シタルトキハ辯護人ヨ  
 リ其趣旨ヲ申立テシムルモノトス第一審ニ於テハ前ニ講説シタル如ク檢事  
 ヲリ被告事件ノ論告ヲ爲スモノナルモ第二審ニ於テハ然ラスシテ控訴人ヲ  
 シテ先ツ控訴ノ趣旨ヲ陳述セシムルモノナリ而シテ控訴ノ範圍不明ナルト  
 キハ裁判所ハ申立人ヲ訊問シテ其範圍ヲ定メサルヘカラス
- (ロ) 控訴裁判所カ第一審裁判所ニ於テ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナ  
 リトスルトキ又ハ其事件ヲ重罪ナリトシテ主タル控訴又ハ附帶控訴アリタル  
 トキハ開廷ノ上其公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判ヲ爲スヘキ旨ノ決定

ヲ爲シ受命判事ヲシテ其取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ此場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スノ權アルモノトス此手續ヲ要スル所以ハ重罪事件ニ付テハ總テ豫審ヲ要ストノ規定ノ結果ニ外ナラス

茲ニ一ノ疑問アリ他ナシ第一審裁判所カ重罪トシテ受理シタル事件ヲ輕罪ナリト判決シタルヲ不當トシテ檢事ヨリ控訴シタルトキハ右ノ規定ニ依ルヘキモノナルカ將タ刑事訴訟法第二百五十八條第二十七條ノ規定ニ依ルヘキモノナルカト云フニ在リ此疑問ニ付テハ二說アリテ第一說ニ於テハ右ノ規定ニ依ルヘキモノニシテ刑事訴訟法第二百五十八條第二十七條ノ規定ニ依ルヘキモノニ非スト主張セ其理由トシテハ刑事訴訟法第二百六十四條ニ控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリト受理シタルトキ云云トアルヲ以テ觀レハ第一審裁判所カ其事件ヲ重罪ナリトシテ受理シタルト輕罪ナリトシテ受理シタルト問ハス第一審裁判所カ輕罪ナリト判決シタル以上ハ該條ノ規定ヲ適用スルハ當然ナルヲ以テ此場合ニ於テハ刑事訴訟法第二百五十八條第二十七條ノ規定ヲ適用スル能ハ

スト云ヒ第二說ニ於テハ此場合ニ於テハ刑事訴訟法第二百五十八條第二十七條ノ規定ヲ適用スヘキモノニシテ同第二百六十四條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非スト主張シ其理由トシテハ第一審裁判所カ重罪トシテ受理シタル事件ニ付キ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲シタルヲ不當ト爲シ檢事ヨリ控訴シタルトキハ刑事訴訟法第二百五十八條第二十七條ノ規定ヲ適用スヘキモノナルコトハ疑ヲ容レサル所ナラン是レ蓋シ其事件ハ初メヨリ重罪事件ナルヲ以テナリ果シテ然ラハ第一審裁判所カ重罪トシテ受理シタル事件ナレハ縱令之ヲ輕罪ナリト判決スルモ重罪事件タルノ性質ニ變更ナカルヘク又第一審裁判所ハ重罪事件トシテ審理シタルモノナルヲ以テ刑事訴訟法第二百五十八條第二十七條ノ規定ニ依ルヘキハ當然ナリ同法第二百六十四條ニ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ「下」ノ法意ニ外ナラスト論說セリ

- (八) 控訴裁判所ノ爲スヘキ判決ヲ類別スレハ凡ソ左ノ如シ
- (イ) 控訴棄却ノ判決 控訴裁判所カ控訴棄却ノ判決ヲ爲スハ左ノ二箇ノ儘



合ニ區分スルコトヲ得ヘシ

(第一) 本案ノ事實ニ依ラスシテ控訴ヲ棄却スルコトアリ即チ(一)期間經過後ニ係ル控訴ナルトキ(二)控訴申立人ノ出頭セザルトキ是ナリ

(第二) 本案事實ノ取調ヲ爲シタル上控訴ノ理由ナキトキモ亦控訴ヲ棄却スヘシ

(ロ) 第一審判決ヲ取消シ其事件ニ付キ更ニ判決ヲ爲ス 此場合ニ於テハ第一審判決ヲ取消ト事件トニ付キ更ニ判決ヲ爲スニ付キ各別ニ判決書ヲ作成スルヲ要セス即チ判決書ハ一通ヲ以テ足レリトス而シテ此場合ノ主タルモノハ左ノ如シ

(第二) 控訴裁判所カ第一審裁判所ト事實ノ認定ヲ異ニスルトキ例ヘハ有罪ヲ無罪トシ竊盜ヲ強盜ト認メタル場合ノ如シ

(第二) 第一審判決ニ裁判所ノ構成及ヒ方式ニ關スル違法アルトキ又ハ其他法則違背ノ廉アルトキ

(第三) 控訴裁判所カ刑事訴訟法第六十五條第三號以下ニ該當シ又ハ公訴受理スヘカラサルモノト認メタルトキ

(第四) 控訴裁判所カ刑事訴訟法第六十五條第三號以下ニ該當スルモノ又ハ公訴不受理ノモノニ非スト認メタルトキ此場合ニ於テハ控訴裁判所ハ事件ノ事實ニ入り本案ノ審理ヲ爲ササルヘカラス然レトモ本案ノ公訴不受理ノ判決ニ對シ控訴アリタルトキハ判決ニ先チ公訴受理スヘキヤ否ヤニ付キ審判スルコトヲ要スヘシ故ニ第一審判決ヲ取消シ公訴ヲ受理ストノ判決確定シタル上本案事實ニ對シ審理セサルヘカラサルモノトス茲ニ注意スヘキコトハ第一審裁判所カ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル判決ニ對シ控訴アリタル場合ニ於テハ控訴裁判所ハ公訴受理スヘキヤ否ヤニ付キ審判ヲ爲スニ止マリ本案事實ニ付テハ審判ヲ爲スヘキモノニ非サルコト是ナリ何トナレハ此場合ニ於テハ控訴裁判所カ公訴受理スヘカラサルモノト認メタルトキハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘク又公訴受理スヘキモノト認メタルトキハ單ニ控訴ヲ棄却スルニ止マリ本案ノ判決ヲ爲スヘキモノニ非サルヲ以テナリ(第五) 一審裁判所カ公訴ヲ受ケタル事件ノ或點ニ付キ判決ヲ遺脱シタルトキ

(ハ) 單ニ第一審判決ヲ取消ス 第一審裁判所カ不當ニ其管轄ヲ認メテ本案ノ裁判ヲ爲シタルトキハ控訴裁判所ハ單ニ第一審判決ヲ取消スニ止マリ管轄ノ言渡ヲ爲サス又本案ノ事實ニ付テモ裁判ヲ爲スヘキモノニ非ス此場合ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ前拘留狀ヲ維持シ又ハ新ニ拘留狀ヲ發スルコトヲ得ヘク又檢事ハ管轄區裁判所ニ對シ更ニ起訴ノ手續ヲ爲ササルヘカラス然レトモ茲ニ例外トシテ控訴裁判所カ第一審判決ヲ取消スニ止マラス進ミテ本案事實ニ對シ判決ヲ爲スコトナキニ非ス是レ地方裁判所カ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ヲ受ク其區裁判所ノ管轄違ナルコトヲ認メタルモ自ラ其事件ニ付キ第一審トシテ裁判權ヲ有スル場合ニシテ此場合ニ於テハ地方裁判所ハ第一審判決ヲ取消シ更ニ其事件ニ付キ判決ヲ爲ササルヘカラス是レ其地方裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ナルヲ以テ結局其地方裁判所ニ於テ裁判ヲ爲ササルヘカラサルカ故ニ直チニ裁判スルコトヲ命シタルモノナリ此事ニ關シテ茲ニ一ノ疑問アリ例ヘハ甲區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ヲ受ケタル地方裁判所カ其事件ヲ甲區裁判所ノ管轄ニ非スシテ管内乙區裁判

所ノ管轄ナリト認ムルトキハ其判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲スヘキヤ否ヤト云フニ在リ此疑問ニ付テハ二說アリ即チ第一說ニ於テハ此場合ニ於テハ第一審判決ヲ取消スニ止マリ本案ノ事實ニ付テハ判決ヲ爲スヘカラスト主張セリ其理由ハ刑事訴訟法第二百六十三條ヲ見ルニ前條第一項ノ場合ニ於テ控訴ヲ受ケタル地方裁判所自ラ其事件ニ付キ第一審トシテ裁判權ヲ有スルトキハ更ニ其事件ニ付キ裁判ヲ爲ス可シトアリテ本條ハ事件カ他ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ場合ヲ規定シタルコト明カナレハ事件カ他ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ本條ノ規定ヲ適用スヘカラサルモノナリト云フニ在リ第二說ニ於テハ此場合ニ於テモ地方裁判所ハ第一審判決ヲ取消シ更ニ本案ノ事實ニ付キ判決ヲ爲ササルヘカラスト主張セリ其理由ハ地方裁判所カ第一審トシテ裁判權ヲ有スルハ唯リ裁判所構成法第二十七條ノ場合ノミナラス刑事訴訟法第二百四十條ノ規定ニ依リ事件カ區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキト雖モ第一審ノ判決ヲ爲ス權利ヲ有スルモノナレハ事件カ甲區裁判所ノ管轄ニ屬セシテ乙區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキト雖モ之ヲ裁判スルノ

權利アルハ當然ナレハナリト云フニ在リ

若シ地方裁判所カ第一審トシテ裁判權ヲ有スル事件カ重罪ナルトキハ重罪ノ手續ヲ履行セサルヘカラス即チ刑事訴訟法第二百四十一條ノ規定ニ依リ未タ豫審ヲ經サル事件ナレハ豫審判事ニ送付スルノ決定ヲ爲シ又已ニ豫審ヲ經タル事件ナルトキハ公判ヲ停止シ更ニ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ其取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ

(二) 第一審判決ヲ取消シ事件ヲ原裁判所ニ差戻ス 此場合ハ刑事訴訟法中單ニ一アルノミニシテ即チ第一審裁判所カ不當ニ管轄違ノ言渡ヲ爲シタル場合ナリトス

茲ニ又一ノ疑問アリ第一審裁判所カ管轄違ノ申立ヲ却下シタル判決ニ對シ控訴アリタル場合ニ於テ控訴裁判所カ其判決ヲ不當ナリト認メタルトキ即チ第一審裁判所ハ管轄ニ非スト認メタルトキハ第一審判決ヲ取消スニ止マルヘキカ將タ第一審判決ヲ取消シ管轄違ヲ言渡スヘキカ將タ又第一審判決ヲ取消シ事件ヲ原裁判所ニ差戻スヘキカト云フニ在リ

### 第三章 上告

本章モ亦左ノ數項ニ分テテ講説スヘシ

- (一) 上告ノ目的ハ上告ニ係ル所ノ判決カ適法ナルヤ否ヤヲ審判スルニ在リ故ニ上告裁判所ハ事實ノ真相ト裁判ノ關係ヲ審查スルノ職權ナク單ニ裁判ト法律トノ關係ヲ審查スルノ職權アルノミ
- 上告ニ二箇ノ區別アリ(一)主タル上告及ヒ附帶上告(二)通常上告及ヒ非常上告
- (二) 上告ハ如何ナル裁判ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得ヘキヤト云フニ上告ハ地方裁判所又ハ控訴院カ第二審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ管轄違又ハ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ故ニ本案ノ判決ハ第二審ノ判決ニ非サレハ之ニ對シ上告ヲ爲スヲ得サルヲ以テ原則トスレトモ法律上明文ヲ以テ上告ノミヲ許シタル例外ノ場合ニ在リテハ第一審ノ判決ト雖モ之ニ對シ直チニ上告ヲ爲スヲ得ルモノトス例ヘハ公廷ニ於テ審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ニ對シ裁判所カ刑ノ言渡ヲ爲シ



タルトキハ被告ハ此言渡ニ對シ直チニ上告ヲ爲スヲ得ルカ如ク(裁判所構成法第一〇九條之ニ反シテ)地方裁判所又ハ控訴院カ第二審ニ於テ言渡シタル本案ノ判決ト雖モ上告ヲ爲スヲ許ササルモノアリ即チ地方裁判所又ハ控訴院カ本案ニ付キ言渡シタル闕席判決ナリトス然レトモ再度ノ闕席判決ニ對シテハ上告ヲ爲スコトヲ得ヘシ又管轄違又ハ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル判決ニ付テハ第一審裁判所カ之ヲ言渡シタルトキハ之ニ對シ上告ヲ爲スコト能ハスト雖モ第二審裁判所カ右判決ヲ言渡シタルトキハ之ニ對シ直チニ上告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(三) 上告ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ如何ト云フニ是レ通則ニ述ヘタル如ク檢事被告人辯護人被告ノ法律上代理人民事原告人民事擔當人等ナリトス

(四) 上告裁判所ハ判決ノ適法ナルヤ否ヤヲ審判スル法衙ナルヲ以テ其審判ニ付テハ茲ニ左ノ如キ制限アリトス

(イ) 本案ノ事實ニ付テハ原裁判所ノ認メタル事實ヲ眞實ト看做シテ判決ヲ爲ササルヘカラス

(ロ) 法律上ノ點ニ付テモ上告人カ理由トシテ申立ラタル點ノミニ對シ判決ヲ爲ササルヘカラス

(ハ) 上告裁判所ハ本案事實ニ付テハ裁判ヲ爲サス故ニ原裁判ヲ破毀スルトキハ事件ヲ他ノ裁判所ニ移ササルヘカラス

(五) 上告ヲ爲スヘキ場合ハ種種アリト雖モ之ヲ要スルニ其場合ハ總テ原判決ヲ法律ニ違背シタル廉アル場合ニ歸著セリ原判決カ法律ニ違背シタリト云フハ法則ヲ適用セス又ハ不當ニ之ヲ適用シタルコトヲ謂フ

(六) 上告ヲ爲スニ付テノ方式ハ(第一)上告申立書ヲ原裁判所ニ差出スコト(第二)上告趣意書ヲ原裁判所ニ差出スコト即チ是ナリ

其申立書及ヒ趣意書ハ二十四時間内ニ相手方ニ送達スルモノトス故ニ該書類ハ必ス上告裁判所ニ差出スヘキモノト相手方ニ送達スルモノトノ二通ヲ差出スコトヲ要ス又被告數名ニ對スル事件ニ付キ檢事ヨリ上告スルトキハ該書類ハ上告裁判所ニ差出スモノト各被告ニ送達スルモノトノ數通ヲ呈出スルコトヲ要ス



従前ハ罰金及ヒ追徴ヲ言渡シタル判決ニ對シテ被告人辯護人法律上代理ハ等ヨリ上告ヲ爲ストキハ其金額十分ノ一ニ相當スル豫納金ヲ上告趣意書ニ添付シテ差出スコトヲ要シタリ而シテ上告ノ理由ナキトキハ上告裁判所ハ必ス其全部又ハ幾部ヲ沒取シタルモノナリ又罰金若クハ追徴ヲ言渡シタル判決ニ對シ豫納金ヲ納メスシテ上告ヲ爲シタルトキハ其上告ハ不成立ノモノナリトセリ然ルニ右豫納金ハ明治三十三年三月二日附ヲ以テ之ヲ廢止スルノ法律ヲ公布セラレタルニ依リ其法律公布ヨリ二十日後ハ之ヲ要セサルコトト爲リタリ

(七) 上告期間ハ判決言渡ノ日ヨリ三日間ナリトス故ニ上告申立書ハ其三日内ニ之ヲ呈出スルコトヲ要ス尤モ附帶上告ニ付テハ主タル上告ニ對シ判決アルニ至ルマテ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第二審ニ於テ爲シタル再度ノ闕席判決ニ對シ上告ヲ爲ストキハ三日ノ上告期間ハ何レノ日ヨリ之ヲ起算スヘキヤ之ニ付テハ控訴期間ニ付キ説述シタル所ト異ナルコトナケレハ茲ニ之ヲ贅セス

期間經過後ノ上告ニ付テハ原裁判所ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スルコトヲ得ヘシト雖モ上告裁判所ニ於テハ開廷ノ上判決ヲ以テ之ヲ棄却セサルヘカラス又原裁判所カ上告ヲ棄却シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ許セリ  
 次ニ上告趣意書ヲ差出スニ付テノ期間ハ上告申立書ヲ差出シタル日ヨリ起算シテ五日間ナリトス又上告趣意書ニ對シ相手方ヨリ差出スヘキ答辯書呈出ノ期間ハ其趣意書ヲ受取リタル日ヨリ起算シテ五日間ナリトス

(八) 上告ノ效果ニ二アリ

- (イ) 上告ハ原判決ノ執行力ヲ停止スルモノナリ故ニ上告期間内ハ勿論上告中ニ在リテハ其判決ノ執行ハ之ヲ爲スコト能ハサルモノトス然レトモ拘留又ハ放免ノ言渡ニ付テハ其執行ハ之ヲ停止セサルモノナリ
  - (ロ) 上告ハ事件ヲ上告裁判所ニ繫屬セシムルノ效力ヲ有ス
- 然レトモ上告裁判所ハ控訴裁判所ト異ナリテ事件ノ覆審ヲ爲スヘキ法衙ニ非サルヲ以テ其裁判權ニ付テハ大ナル制限アルモノナリ即チ上告裁判所ノ裁判スヘキ所ハ法律上ノ點ニ止マルノミナラス法律上ノ點ニ付テモ上告人ヨリ理由トシテ申立テタル點ノミニ限ラサルヘカラス又被告人辯護人法律上



代理人ヨリ上告ヲ爲シタルトキ又ハ檢事ヨリ被告人ノ利益ノ爲メ上告ヲ爲シタルトキハ被告人ノ不利益ニ原判決ヲ變更スル能ハサルモノトス是レ控訴ノ效果ニ關シ講述シタル所ト同一ノ事ニ屬スルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス

(九) 上告ニ關スル手續トシテハ(一)原裁判所檢事ヨリ訴訟記録ヲ上告裁判所ノ檢事ニ送致シ上告裁判所檢事ヨリ上告裁判所ニ呈出ス(二)上告裁判所ノ裁判長ハ受命判事ヲ定メ報告書ヲ作成セシム(三)上告人及ヒ相手方ハ成ルヘク受命判事カ報告書ヲ差出スマテニ上告趣意擴張書又ハ辯明書ヲ呈出ス(四)然レトモ報告書作成後ト雖モ之ヲ呈出スルコトヲ妨クス(四)上告人及ヒ相手方ハ辯護士ヲ差出スコトヲ得ヘシ重罪事件ニ付キ辯護士ヲ差出ササルトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ之ヲ選定スルモノニシテ其選定ハ上告裁判所所在地ノ辯護士中ヨリ之ヲ爲スモノナリ(五)開廷期日ハ其三日前ニ上告人及ヒ相手方ノ辯護士ニ之ヲ通知スルモノトス(六)開廷期日ニハ受命判事先ツ報告書ヲ朗讀シ次ニ上告人上告ノ趣意ヲ辯明シ相手方ハ之ニ對シ其答辯ヲ爲ス私訴ニ付テハ右ノ外最終ニ檢事其意見ヲ陳述ス

(十) 上告裁判所ノ審査スル所ハ法律上ノ點ニ在ルノミ而シテ其審査スヘキ事項ノ主ナルモノヲ列舉スレハ

- (イ) 裁判所又ハ其職員ニ瑕瑾ナキヤ否ヤヲ審査ス、裁判所ニ瑕瑾アルトハ規定ニ從ヒ裁判所ヲ構成セサルコトヲ謂ヒ裁判所職員ニ瑕瑾アリトハ法律上又ハ裁判上除外セラレタル判事若クハ裁判所書記カ審判ニ干與シタルコトヲ謂フ
- (ロ) 管轄又ハ訴ノ事ニ關シ不當ノコトナキヤ否ヤヲ審査ス、管轄ノ事ニ關シ不當ノコトアリトハ其裁判所ノ管轄ニ屬セサル事件ニ付キ本案ノ審査ヲ爲シ又ハ其裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ對シ管轄ヲ認メサルコトヲ謂フ又訴ニ付キ不當ノコトアリトハ之ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ爲シ又ハ公訴受理スヘカラサル事件ニ付キ裁判ヲ爲シ又ハ公訴ヲ受理スヘキ事件ニ付キ公訴不受理ノ裁判ヲ爲シタルカ如キコトヲ謂フ

(ハ) 審理手續ニ不當ノコトナキヤ否ヤヲ審査ス、審査手續ニ關スル規定ニ二種アリ其一ハ被告ノ辯護權若クハ其他審理上必要缺クヘカラサル所ノ規定

ニシテ之ニ背キタル判決ハ之ヲ破毀セサルヘカラス例ヘハ辯論ヲ公開スルコト、被告人ノ身體ヲ拘束セサルコト、法律ニ定メタル場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽クコトヲ命シタル規定ニ背キタル判決ナルトキハ之ヲ破毀スルカ如シ其ニハ有益ナル規定ナルモ之ヲ履行セサルモ被告ノ利益ヲ害セサル所ノ規定ニシテ之ニ從ハサルモ上告ノ理由ト爲ラサルモノナリ例ヘハ罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ノ公判呼出狀ニ代人ヲ差出スコトヲ得ヘキ旨ヲ記載セス又ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間ニ二日ノ猶豫ヲ與ヘザリシモ被告人ニ於テ異議ナク辯論ヲ爲シタル以上ハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ許ササルカ如シ然レトモ此二種ノ規定ヲ識別スルコトハ實際ニ於テハ至難ノ問題ニ屬セリ

(二) 判決ニ不法ノ廉ナキヤ否ヤヲ審査ス是レ判文上理由不備若クハ理由ノ齟齬又ハ擬律錯誤ノ廉ナキヤ否ヤヲ審査スルモノナリ  
理由不備トハ判決ニ理由ヲ付セス又理由ヲ付スルモ其完全ナラサルコトヲ謂フ即チ判決ニハ刑事訴訟法第二百三條ノ規定ニ依リ事實上ノ理由證據上

ノ理由及ヒ法律上ノ理由ヲ明示セサルヘカラサルモノナルニ其規定ニ背キテ之ヲ明示セサルハ即チ理由ノ不備ナリ例ヘハ委託物費消事件ニ付キ受託ノ事實ヲ明示セス證人訊問調書ヲ證據ニ援用シナカラ其内容ヲ明示セス又犯罪ノ事實ノミヲ掲ゲテ其所爲カ如何ナル法條ニ該當スルモノナルヤヲ示サスシテ刑ノ言渡ヲ爲シ又ハ事實ニ二罪アルコトヲ認メナカラ法律適用ノ部ニ刑法第百條ヲ適用セサルカ如シ理由齟齬トハ事實若クハ法律ノ理由中彼是相齟齬シテ何レカ是ニシテ何レカ非ナルヤ更ニ判別シ難キコトヲ謂フ例ヘハ事實理由中始メニハ殺意アルコトヲ叙述シナカラ終ニ至リ過チテ人ヲ殺害シタリト判示シ又法律理由中金品騙取ノ用ニ供シタル偽造證書ヲ沒收スル爲メ刑法第四十三條第一號及ヒ第二號ヲ適用シ或ハ犯罪供用ノ物件ヲ處分スル爲メ刑法第四十三條第二號及ヒ刑事訴訟法第百二條ヲ適用シタルカ如シ擬律ノ錯誤トハ判文上認定シタル事實ト其事實ニ當行セタル法律ノ適用ニ錯誤アルコトヲ謂フ例ヘハ竊盜ノ事實ヲ認メナカラ強盜ノ法條ヲ適用シ犯罪準備ノ用ニ供シタルモノヲ犯罪ノ用ニ供シタルモノトシテ刑法第



四十三條第二號ヲ適用シ偽造證書ヲ禁制品ニ非ストシテ還付シ又ハ父ノ小切手ヲ偽造シ銀行ヨリ金圓ヲ騙取シタル事實ヲ認定シナカラ父ヲ被害者トシテ不論罪ノ言渡ヲ爲シタルカ加シ

(ホ) 其他法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルコトナキヤ否ヤヲ審査ス、法則ヲ適用セスト云フハ法律ノ規定ヲ當行セサルコトニシテ例ハ第一審判決ニ不適法ノ廢アルニ拘ラス刑事訴訟法第二百六十一條第二項ノ規定ヲ適用セス即チ之ヲ取消サスニテ控訴ヲ棄却シタルカ如シ又法則ヲ不當ニ適用シタリト云フハ法律ノ規定ヲ當行スヘカラサル場合ニ之ヲ適用スルコトニシテ例ハ第一審判決ニ毫モ違法ノ廉ナキニ拘ラス前記法條ヲ適用シテ第一審判決ヲ取消シ更ニ裁判ヲ爲シタルカ如シ

以上ノ諸點ニ付キ審査ヲ遂ケタル上原判決ニ不法ノ廢アルトキハ上告ハ其理由アリトスルヲ以テ原則トスレトモ被告利益ノ爲メ設ケタル規定ニ違背シタルコト竝ニ土地ノ管轄違ハ免訴又ハ無罪ノ判決ニ對スル上告ノ理由トスルニ足ラス又被告ニ不利益ナル申立モ亦被告上告ノ理由トスルニ足ラサルモノト

ス故ニ重罪事件ニ付キ辯護人ヲ添付セス又事件ニ付キ被告人若クハ其辯護人ニ最終ノ發言ヲ爲スヲ許サザリシト雖モ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ理由トシテ以テ上告ヲ爲スヲ得ス何トナレハ被告利益ノ爲メ設ケタル規定ニ違背スルモ結局被告ニ利益ナル免訴又ハ無罪ノ裁判ヲ爲シタルトキハ被告ノ利益ヲ害シタリト謂フヲ得サルヲ以テナリ又横濱地方裁判所ノ管轄スヘキ事件ニ付キ東京地方裁判所カ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テモ土地ノ管轄違タルノ理由ヲ以テ上告ヲ爲スヲ得ス何トナレハ土地ノ管轄ヲ定メタル理由ハ搜查ノ容易ナルコト豫審ノ迅速ナルコト證據調ニ便利ナルコト等ニ基クモノニシテ其他ノ理由ニ基クモノニ非サルヲ以テ土地ニ付キ管轄ヲ有セサル裁判所ト雖モ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ爲シタルトキハ之ニ對シテ上告ヲ爲スヲ許ササルモノナリ然レトモ被告ノ資格犯罪ノ種類等ニ依リ定メタル管轄違ノ場合ニ於テハ免訴又ハ無罪ノ言渡ナリト雖モ之ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得ヘシ例ヘハ皇族ニ對スル禁錮以上ノ事件又ハ重罪ノ國事犯事件ニ付キ地方裁判所カ免訴無罪ノ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ檢事ハ之ニ



對シテ上告ヲ爲スコトヲ得ヘシ又第二審判決カ沒收ノ言渡ヲ爲ササルコトヲ申立テ或ハ誤リテ輕キ刑ヲ言渡シタルコトヲ論難スルカ如キハ以テ被告上告ノ理由ト爲スニ足ラス何トナレハ被告ノ上告ハ其利益ヲ圖ル爲メノモノナレハ自己ニ不利益ナル申立ヲ爲スハ其性質ニ反スルヲ以テナリ

(七) 上告裁判所ハ如何ナル判決ヲ爲スヘキヤト云フニ之ヲ大別スレハ上告ヲ棄却スル判決ト原判決ヲ破毀スル判決トノ二種ナリトス

(イ) 上告ヲ棄却スルニ二種アリ

(一) 法律ニ定メタル方式ヲ缺キ若クハ期間經過後ニ係ル上告ナルトキハ上告理由ノ當否ヲ論セスレテ直チニ上告ヲ棄却スヘシ

(二) 上告適法ノ理由ナキトキハ上告ヲ棄却スヘシ  
上告棄却ノ效力ハ原判決ヲ確定セシメ事件ヲ落著セシムルニ外ナラス

(ロ) 上告理由アルトキハ原判決ヲ破毀スルモノトス左ニ破毀ノ範圍ト破毀ノ結果トニ付テ講説セン

(一) 破毀ノ範圍 上告理由アルトキハ原判決ヲ破毀スルモ其破毀スヘキ部分ハ上告ニ係ル部分ニ限ラサルヘカラス故ニ甲乙二人ニ對スル判決ニ對シ其二人ヨリ上告アリタル場合ニ於テ甲ノ上告ハ理由ナクシテ乙ノ上告ノミ理由アルトキハ乙ニ對スル原判決ノ部分ノミヲ破毀シ又刑ヲ併科スヘキ數罪ニ對スル判決ニ對シ被告人ヨリ上告ヲ爲シタル場合ニ於テ其中ノ一罪ニ關シ上告理由アルトキノ如キハ其一罪ニ關スル原判決ノ部分ノミヲ破毀スルカ如シ

然レトモ擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルニ因リ原判決ヲ破毀スルトキハ原判決ノ全部ヲ破毀シ他ノ共同被告人ニモ其利益ヲ及ホササルヘカラス何トナレハ此場合ニ於ケル上告ノ理由ハ各被告ニ共同ノモノニシテ共同被告人間ニ於テハ法律ノ適用ヲ同一ニスルノ必要アルヲ以テナリ

(二) 破毀ノ結果 上告理由アルトキハ左ノ三箇ノ結果ヲ生スルモノナリ

(イ) 原判決ヲ破毀シ事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス此場合ニ於テハ事件ハ他ノ裁判所ニ繫屬スルモノナリ他ノ裁判所トハ原判決ヲ爲シタル裁判所ニ接近シタル同階級同資格ノ裁判所ヲ謂フ然レトモ私訴ニ關スル判決

ヲ破毀スルトキハ其事件ヲ他ノ裁判所ノ民事部ニ移スヘキモノトモ是レ蓋シ私訴ハ民事事件ニ屬スルヲ以テ私訴ノミノ審判ヲ爲スニハ刑事部ヲ煩ハスノ必要ナケレハナリ

(ロ) 原判決ヲ破毀シ上告裁判所ニ於テ直チニ判決ヲ爲ス是レ擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ不當ニ公訴ヲ受理シタル不法アル場合ニ限リ此場合ニ於テハ最早事實ノ審査ヲ爲スノ要ナキヲ以テ上告裁判所ニ於テ直チニ裁判スルコトヲ命シタルモノナリ

(ハ) 上告裁判所ニ於テ單ニ手續ノミヲ破毀スルコトアリ是レ公判ノ手續カ規定ニ背キタルコトアルモ其後ノ手續ニ利害ノ關係ヲ及ボササル場合ニシテ例ヘハ裁判所カ被告人ヲ訊問セスシテ拘留狀ヲ發シ又ハ檢事ノ意見ヲ聽カスシテ解釋ヲ許シタルトキハ其手續ハ違法タルニ相違ナシト雖モ原判決ニ何等ノ影響ナキヲ以テ之ヲ破毀スルニ及ハス故ニ單ニ其不法ノ手續ノミヲ破毀スルモノナリ

五) 非常上告確定判決ニ對シ非常上告ヲ許スハ顯著ナル不法ノ廉アル判決ヲシテ確定力ヲ有セシムルハ不條理ナルカ故ニ之ヲ更正スルノ途ヲ開キタルモノナリ

- (イ) 非常上告ヲ爲スヘキ場合ニ二アリ(一)法有ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタルトキ(二)相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルトキ即チ法定ノ刑期若クハ金額ノ範圍ヲ超越シテ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキ是ナリ
- (ロ) 非常上告ヲ爲スニ要スヘキ條件二アリ即チ(一)判決ノ確定シタルコト(二)期間内上訴スル者ナカリシコト是ナリ
- (ハ) 如何ナル裁判ニ對シ非常上告ヲ爲スコトヲ許スヘキヤト云フニ第一審裁判ト第二審裁判トヲ問ハス總テノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ許シタリ
- (ニ) 何人カ非常上告ヲ爲スコトヲ得ルヤト云フニ之ヲ爲スコトヲ得ル者ハ上告裁判所ノ檢事ニシテ該檢事ハ職權ヲ以テ又ハ司法大臣ノ命ニ依リ之ヲ爲スモノナリトス
- (ホ) 非常上告ヲ爲スニ付テハ別段期間ノ設ケアルモトナシ故ニ判決確定ノ上ハ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ



(一) 上告裁判所ハ如何ナル裁判ヲ爲スヘキヤト云フニ非常上告理由ナキトキハ之ヲ棄却シ其理由アルトキハ原判決ヲ破毀シ直チニ判決ヲ爲スヘキモノトス

### 第四章 抗告

抗告ニ付テモ左ノ數項ニ分テ逐一之ヲ講述スヘシ

(一) 抗告ハ如何ナル裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ抗告ハ決定ニ對シテノミ之ヲ爲スヲ得ヘシ而シテ其決定ニ對シテモ法律上特ニ許サレタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得ヘキノミ茲ニ其場合ノ主ナルモノヲ列舉スレハ  
(イ) 忌避ノ申請ヲ不當ナリトシテ却下シタル決定第四二條民事訴訟法第三八條

(ロ) 證人カ出頭セサルトキ言渡スヘキ罰金及ヒ費用賠償ノ決定第一一八條  
(ハ) 證人カ宣誓ヲ背セス又ハ宣誓シテ供述ヲ背セサルトキ言渡スヘキ罰金ノ決定第一二六條第一九〇條

(ニ) 鑑定人カ出頭セサルトキ言渡スヘキ罰金及ヒ費用賠償ノ決定第一三六條第一一八條第一九〇條

(ホ) 鑑定人カ宣誓ヲ背セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ背セサルトキ言渡スヘキ罰金ノ決定(第一三八條第一九〇條)

(ヘ) 豫審決定第一七二條

(ト) 期間經過後ノ控訴ヲ棄却シタル決定第二五五條

(チ) 期間經過後ノ上告ヲ棄却シタル決定(第二七六條)

(リ) 刑ノ言渡ニ對スル疑義ノ申立又ハ刑ノ執行ニ對スル異義ノ申立ニ付キ爲シタル決定(第三二二二條)

(二) 抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ如何ト云フニ豫審決定ニ對シテハ檢事ト被告トトヲ問ハス之ヲ爲スコトヲ得ルハ論ヲ俟タサル所ナレトモ其他ノ決定ニ對シテモ檢事被告人又ハ當事者ヨリ之ヲ爲スヲ得ヘキノトス何トナレハ刑事ニ於テハ如何ナル場合ヲ問ハス檢事ハ常ニ不法ノ廉アレハ之ニ對シ不服ヲ申立テ裁判ノ更正ヲ求ムルヲ得ルハ當然ノコトナルヲ以テナリ

- (三) 抗告期間ハ裁判ノ送達アリタル日ヨリ三日間ナリトス
- (四) 抗告ヲ爲スニ付テノ方式ハ其申立書ヲ裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ豫審判事ニ差出スコト是ナリ
- (五) 效果 抗告ノ效果ニ二アリ即チ左ノ如シ
  - (イ) 抗告ハ裁判ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス然レトモ其執行ヲ停止スルハ法律ニ明文アル場合ニ限り其明文ナキ場合ニ於テハ之ヲ停止スルノ效力ヲ有セス故ニ前記第二項ニ於テ講説シタル決定中(ロ)乃至(ハ)ノ決定ニ對スル抗告ハ其執行ヲ停止スト雖モ(ト)乃至(リ)ノ決定ニ對スル抗告ハ其執行ヲ停止スルノ效力ナキモノトス
  - (ロ) 抗告ハ事件ヲ抗告裁判所ニ繫屬セシムルノ效力ヲ有ス
- (六) 手續 抗告申立書ヲ差出シタルトキハ裁判ヲ爲シタル裁判所若クハ豫審判事ハ其理由アリヤ否ヤヲ調査シ理由アリト認ムルトキハ不服ノ點ヲ更正シ又理由ナシトスルトキハ意見書ヲ添附シ三日内ニ該申立書ヲ抗告裁判所ニ送致スルモノトス但シ豫審終結決定ニ對スル抗告ノ場合ニ於テハ訴訟記録ヲモ

送致スヘシ

- (七) 裁判 抗告裁判所ノ爲スヘキ裁判ニ二アリ即チ一ハ抗告ノ棄却ニハ原裁判ノ取消是ナリ
- 抗告ノ棄却ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スモノナリ
  - (イ) 判然許スヘカラサル抗告ナルトキ 例ハ法ニ明文ナキ場合ニ於テ抗告ヲ爲シタルトキノ如シ
  - (ロ) 期間經過後ニ係ル抗告ナルトキ
  - (ハ) 抗告ノ理由ナキトキ
- 原裁判ヲ取消スハ抗告ノ理由アル場合ニ限レリ而シテ原裁判ヲ取消ストキハ抗告裁判所自ラ事件ニ付キ更ニ裁判ヲ爲スヘシ民事ニ於ケルカ如ク事件ニ付

キ裁判ヲ爲スコトヲ原裁判所ニ委任スルコトヲ許サス

### 第六編 再 審

再審ハ非常上訴ノ一ナリ裁判官カ法律上ノ錯誤ニ陥リタルトキハ非常上告ヲ許スト同様裁判官ニ於テ事實上ノ錯誤ニ陥リ無辜ヲ罰シ又ハ不當ノ刑ヲ言渡シタル疑アルトキハ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ許シタリ然レトモ非常上告モ再審ノ訴モ被告ニ不利益ナル裁判ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ許シ被告ニ利益ノ裁判ナルトキハ如何ニ顯著ナル錯誤アリトスルモ之ニ對シテ非常上告又ハ再審ノ訴ヲ爲スヲ許ササルモノトス是レ蓋シ非常上告及ヒ再審ノ訴ハ裁判ノ既判力ヲ抹殺スヘキ非常上訴ナルヲ以テ被告ノ不利益ノ爲メニハ之ヲ爲スヲ許ササルモノナリ

本編ノ講義モ左ノ數項ニ分チテ之ヲ爲サン

- (一) 條件 再審ノ訴ヲ爲スニハ三箇ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
- (イ) 其訴カ被告ノ利益ノ爲メナルコトヲ要ス故ニ被告ノ不利益ニ歸スヘキ

再審ノ訴ハ之ヲ爲スコトヲ許サス

- (ロ) 其判決ノ既ニ確定シタルコトヲ要ス何トナレハ判決カ未タ確定セザル間ハ他ニ上訴ノ途アルヲ以テ再審ノ訴ヲ許スノ必要ナクレハナリ

- (ハ) 法律上再審ノ訴ヲ許シタル場合ニ該當スルコトヲ要ス

(二) 場合 再審ヲ許スヘキ場合ハ法律上之ヲ限定セリ而シテ其場合ハ即チ左ノ如シ

- (イ) 人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタルモ其殺サレタリト認メラレン者犯罪後生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ此場合ハ謀故殺ノ既遂又ハ毆打致死過失殺ニ因リ刑ノ言渡アリタル場合ニシテ事實ノ錯誤カ犯罪ノ成立ニ關スルモノナリ而シテ絶對的ニ其犯罪ノナカリシコト明カナルヲ以テ再審ノ訴ヲ爲スヲ許シタリ
- 茲ニ確證ト謂フハ公正證書ト謂フノ意ニ非ス故ニ被害者ノ生存若クハ死去ヲ證明スルニ足ルモノアレハ公正證書アラサルモ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得

(ロ) 同一ノ事件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルトキ、此場合ニ於テハ事實上ノ錯誤カ被告ノ身分上ニ在ルモノニシテ犯罪ハアリタルモ他ニ之ヲ爲シタル者アル確證即チ判決アルヲ以テ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ許シタリ而シテ此場合ニ於テハ犯罪ノ種類ヲ限ラス如何ナル犯罪ニテモ共犯ニ非スレテ外ニ之ヲ爲シタリト認メラレ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アルトキハ再審ノ原由ト爲ルモノナリ

(ハ) 犯罪アル以前ニ作リタル公正證書ヲ以テ當時其場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ、是ヨリ以下ノ場合ハ總テ證據ニ關スルモノナリ而シテ本號ノ場合ハ例ヘハ犯罪前ニ作リタル某監獄署ノ囚籍名簿ニ依リ被告ハ犯罪ノ當時某監獄ニ入監服役中ニテ犯罪ノ場所ニ在ラサリシコトヲ證明シタルトキノ如シ

(ニ) 被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルトキ、例ヘハ被告ヲ誣告シタリトシテ刑ノ言渡ヲ受ケ又ハ被告事件ニ付キ偽證シタリトシテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アルトキノ如シ

(ホ) 公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ、例ヘハ公吏官吏ノ作リタル戸籍寫又ハ既決犯罪表ニ依リ訴訟記録ニ記載セル年齢前科等ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタル場合ノ如シ而シテ茲ニ訴訟記録ノ偽造又ハ錯誤ト云フハ判決ノ資料ト爲リタル一件書類ノ偽造又ハ錯誤ニシテ判決書中ノ偽造又ハ錯誤ヲ謂フモノニ非ス故ニ判決書ニ偽造又ハ錯誤アルモ再審ノ原由トハ爲ラサルモノナリ

(ヘ) 判決ノ憑據ト爲リタル民事上ノ判決カ他ノ確定ト爲リタル判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタルトキ、例ヘハ被告ノ冒認販賣罪ヲ認メタル證據ニ援用シタル地所所有權確認事件ノ判決カ再審ノ訴ニ依リ破毀セラレタル場合ノ如シ

再審ノ訴ヲ許スヘキ場合ハ右六箇ノ場合ニ限り此他ノ場合ニ於テハ如何ニ顯著ナル錯誤アリト雖モ之ヲ爲スコトヲ許ササルモノナリ

(三) 再審ノ訴ヲ爲スヘキ者ハ左ノ如シ

(イ) 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事

- (ロ) 右裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事
- (ハ) 右裁判所ヲ管轄スル上告裁判所ノ檢事 上告裁判所ノ檢事ハ職權ヲ以テ又ハ司法大臣ノ命ニ依リ再審ノ訴ヲ爲スモノナリ
- (ニ) 刑ノ言渡ヲ受ケタル者即チ被告人
- (ホ) 被告人死去シタルトキハ其親屬
- (四) 再審ノ訴ハ判決ノ確定シタル後何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ故ニ刑ノ執行中ハ勿論刑期滿了後若クハ被告人ノ死去後ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ
- (五) 再審ノ方式トシテハ其趣意書ニ原判決謄本及ヒ證據書類ヲ添附シテ原裁判所ニ差出スコトノ一アルノミ
- (六) 手續 原裁判所檢事ハ再審ノ趣意書ニ意見書ヲ添附シ之ヲ上告裁判所檢事ニ差出スヘシ原裁判所ノ檢事又ハ控訴裁判所ノ檢事カ再審ノ訴ヲ爲サントスルトキモ同様其書類ヲ上告裁判所ニ差出スモノナリ

上告裁判所ハ右檢事ノ請求ニ因リ受命判事ヲ定メ事件ノ取調ヲ爲サシメ開廷ノ上受命判事ノ報告及ヒ檢事ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ

- (七) 再審ノ訴ニ付キ上告裁判所ノ爲スヘキ裁判ニ二種アリ即チ一ハ再審ノ訴ノ棄却一ハ原判決ノ破毀是ナリ
  - 再審ノ訴ヲ棄却スルコトハ法ニ明文ナシト雖モ左ノ三箇ノ場合ニ於テハ再審ノ訴ハ之ヲ棄却スヘキモノトス
  - (イ) 再審ノ訴カ方式ヲ缺キタルトキ
  - (ロ) 法律ニ定メタル再審ノ理由ナキトキ
  - (ハ) 再審ノ理由アリト主張スルモ其證明ナキトキ
- 又再審ノ理由アリト認メタルトキハ原判決ヲ破毀シ更ニ再審ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡シ事件ヲ他ノ裁判所ニ移ササルヘカラス茲ニ他ノ裁判所ト云フハ原判決ヲ爲シタル裁判所ト同等ノ裁判所ナリトス移送ヲ受ケタル裁判所ハ通常ノ手續ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘシ
- 然レトモ已ニ死去シタル被告人ノ親屬カ再審ノ訴ヲ起シ其理由アルトキハ縱

令原判決ヲ破毀スルモ事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトナシ何トナレハ被告人カ  
已ニ死去シタル上ハ公訴ハ消滅ニ歸スルヲ以テ更ニ再審ヲ爲サシムルコト能  
ハサレハナリ

再審ノ結果無罪ノ言渡ヲ爲シ又ハ死去ノ親屬カ再審ノ訴ヲ爲シ其原由アリテ  
原判決ヲ破毀シタルトキハ其判決ヲ揭示スヘシ是レ被告人ノ名譽ヲ回復スル  
カ爲メナリトス

(八) 再審ノ訴ニ於テ原判決ト稱スルハ如何ナル判決ヲ謂フカ即チ控訴ナクシ  
テ第一審判決ノ確定シタルトキハ第一審判決ヲ原判決トシ控訴審ニ於テ第一  
審判決ヲ取消シ更ニ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ第二審判決ヲ以テ原判決トス  
ルコトハ疑ナシト雖モ控訴審ニ於テ控訴ヲ棄却シタルトキハ二審ノ判決中何  
レノ判決ヲ以テ原判決トスヘキヤ此問題ニ付テハ左ノ三説アリ

- (イ) 第一審判決ヲ以テ原判決トス何トナレハ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ第一審  
判決ナレハナリ
- (ロ) 第二審判決ヲ以テ原判決トス何トナレハ事件カ第二審ニ繫屬シ第二審

ノ判決ヲ受ケタル上ハ其確定スル所ノモノハ第二審判決ナレハナリ

(ハ) 第一審判決タルト第二審判決タルトヲ問ハス再審ノ原由アリト主張セ  
ラレタル判決ヲ以テ原判決ナリトス何トナレハ第一説ノ如クセハ第二審判  
決ニ再審ノ原由アルモ第一審判決ニ之ナキトキハ再審ノ訴ヲ爲スコト能ハ  
ス又第二説ノ如クセハ第一審判決ニ再審ノ原由アルモ第二審判決ニ之ナキ  
トキハ再審ノ訴ヲ爲スコト能ハサル不都合アルヲ以テ何レノ判決ニテモ再  
審ノ原由アルトキハ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ許サンカ爲メ此ノ如キ折衷説ヲ  
採ルモノナリ

次ニ上告裁判所ニ於テ擬律錯誤ノ爲メ第二審判決ヲ破毀シ自ラ刑ノ言渡ヲ爲  
シタルトキハ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ否ヤ又若シ再審ノ訴ヲ爲スコト  
ヲ得ルモノトセハ原判決ハ上告裁判所ノ判決ナリヤ將タ第二審ノ判決ナリヤ  
本問ノ場合ニ於テモ亦再審ノ原由アルトキハ再審ノ訴ヲ許ササルヘカラサル  
コトハ論ヲ埃タス然レトモ其判決何レカ原判決ナルヤニ至リテハ左ノ二説  
アリ



刑事訴訟法 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

二四六

(イ) 原判決ハ上告裁判所ノ判決ナリ何トナレハ擬律錯誤ノ爲メナルモ第二審判決ヲ破毀シテ刑ノ言渡ヲ爲シタル上ハ其判決カ原判決タルコトハ疑ナクレハナリ

(ロ) 原判決ハ第二審判決ナリ何トナレハ上告裁判所カ擬律錯誤ノ爲メ第二審判決ヲ破毀スルハ單ニ擬律ノ部分ノミニ止マリ事實ニ付テハ第二審判決ニ認メタル所ヲ以テ確定ノモノト爲スモノニシテ再審ノ訴ハ其事實ニ錯誤アルニ付キ之カ更正ヲ求ムル爲メ爲ス所ノ訴ナルヲ以テナリ

### 第七編 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

裁判所構成法第五十條第二號ノ犯罪即チ皇室ニ對スル重罪國事ニ關スル重罪並ニ皇族ノ犯シタル禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ハ大審院ノ特別權限ニ屬シ同院ニ於テ第一審トシテ終審ノ裁判ヲ爲スモノナリ而シテ本編ハ此種ノ犯罪ニ關スル訴訟手續ヲ定メタルモノナリ

此種ノ犯罪ノ搜查權及ヒ起訴權ハ大審院檢事總長ニ屬ス故ニ地方裁判所檢事區裁判所檢事及ヒ司法警察官ハ右犯罪ニ付キ搜查ヲ爲スコトヲ得ルモ搜查ノ上ハ檢事總長ニ報告セサルヘカラス又右犯罪ノ現行犯アリテ急速ヲ要スルトキハ豫審處分ヲ爲シ證據書類ニ意見書ヲ添附シ檢事總長ニ送致セサルヘカラス

檢事總長ニ於テ起訴スヘキモノト認メタルトキハ豫審判事ヲ命スヘキコトヲ大審院長ニ請求スヘシ大審院長ハ右請求ニ因リ豫審判事ヲ命ス豫審判事ハ事件ニ付キ豫審處分ヲ爲シ訴訟記録ニ意見ヲ付シ大審院ニ差出スヘシ大審院ニ於テハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ事件ヲ公判ニ付スヘキヤ否ヤヲ決定ス即チ大審院ノ特別權限ニ屬スヘキ犯罪ノ證據十分ナルトキハ其院ノ公判ニ付スルノ言渡ヲ爲シ刑事訴訟法第六十五條ノ場合ニ該當スルモノト認メタルトキハ免訴ノ言渡ヲ爲シ又管轄違ヲ認メタルトキ即チ(一)地方裁判所又ハ區裁判所ノ權限ニ屬スルモノト認メタルトキハ管轄裁判所ヲ指定シ事件ヲ送致スヘク(二)特別裁判所ノ權限ニ屬スルモノト認メタルトキハ決定ヲ以テ管轄違ヲ言渡スヘシ

刑事訴訟法 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

二四七

大審院カ必要ナリト認メタルトキハ事件ノ審問及ヒ裁判ヲ爲ス爲メ控訴院又ハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得ヘシ其場合ニ於テハ控訴院判事ヲ以テ部員ニ加フルコトヲ得但シ其半數ニ滿フルコトヲ得サルモノトス右ノ如キ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外ハ總テ曩ニ講説シタル豫審並ニ公判ノ規定ヲ準用スヘキモノトス

### 第八編 裁判執行、復権及ヒ特赦

#### 第一章 裁判執行

無罪免訴及ヒ公訴不受理ノ裁判ハ被告人カ拘留セラレタル場合ニ非サレハ之ヲ執行スルノ要ナキモノナリ被告人免訴ノ執行ヲ爲スハ檢事ノ職務ニ屬ス而シテ檢事カ無罪免訴及ヒ公訴不受理ノ裁判ニ對シテ上訴スルノ意ナキトキハ上訴期間ノ滿了ヲ待タヌ直チニ被告人ヲ放免スヘキコトヲ得ヘキモ上訴ヲ爲サント欲スル意アルトキハ放免ノ執行ヲ爲ササルコトヲ得ヘシ但シ控訴審ノ裁判ノ場合ニ於テハ上告ノ有無ニ拘ラス放免ノ執行ハ必ス之ヲ爲ササルヘカラ

ス(第二七二條)

(一) 刑ノ執行ハ判決カ確定シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス第三一七條 刑法第五〇條

(二) 刑ノ執行ヲ爲スハ檢事ノ職務ニシテ裁判所ノ職務ニ非ス

(三) 然レトモ受刑者ニ於テ刑ノ執行カ法律又ハ判決ノ趣旨ニ背クコトヲ主張シ異議ヲ申立テタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判スヘシ

(四) 死刑ノ執行ニ特別ナル規則 刑ハ判決確定シタル以上ハ直チニ之ヲ執行スルコトヲ得ス即チ死刑ノ言渡確定シタルトキハ檢事ヨリ訴訟記録ヲ司法大臣ニ提出シ司法大臣ヨリ執行命令アリタル後三日内ニ之ヲ執行スルモノトス

死刑ノ執行ハ之ヲ公行セス監獄内ニ設ケアル刑場ニ於テ之ヲ絞首ス死刑ハ檢事裁判所書記典獄立會ノ上典獄ヨリ執行ノ告示ヲ爲シ押丁ヲシテ之ヲ行ハシム其執行ハ午前十時前ニ之ヲ爲ササルヘカラス又其執行ハ大祭日六月十二月ノ大坂仁孝天皇祭後桃園天皇祭光格天皇祭ニハ之ヲ執行スル能ハス若シ受刑

若婦女ニシテ懐胎中ナルトキハ其執行ヲ停止シ産後一百日ヲ經過シ更ニ司法大臣ノ命令ヲ受ケタル後之ヲ執行スルモノトス受刑者ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親族故舊ヨリ之ヲ請求スルトキハ典獄ニ於テ之ヲ下付スルコトヲ得ヘシ死刑執行ノ上ハ受刑者ノ氏名罪狀刑名等ヲ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ門前犯罪ノ地、受刑者ノ住居ノ地等ニ公告スヘシ右ノ外死刑ノ執行ニ特別ナル規定ハ刑法附則監獄則同施行細則等ニ詳ナリ

(五) 自由刑ノ執行ニ特別ナル規則 自由刑ノ執行モ亦檢事ニ於テ之ヲ指揮命令ス然レトモ其實行ハ監獄署ノ官吏ニ於テ之ヲ爲スモノナリ

自由刑ノ執行期間ハ判決主文ノ刑期ト同一ナラサルヘカラスト雖モ實際ニ於テハ二者必ス同一ナルヲ得ス何トナレハ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スルモ其執行ハ判決確定ノ上ニ非サレハ之ヲ爲ス能ハサルヲ以テ上訴期間中ハ刑ノ執行ヲ爲ササルモ其日數ヲ刑期ニ算入セサルヘカラサレハナリ又刑事ニ於テハ被告人カ拘留セラレタル場合鈔カラス而シテ未決拘留ハ刑ニ非スト雖モ法律上其日數ヲ刑期ニ通算スルコト之ナキニ非ス即チ判決ニ對シ被告人ヨリ上

訴ヲ爲シ其上訴理由アルトキハ前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算シ其上訴棄却セラレタルトキハ後判宣告ノ日ヨリ之ヲ起算ス又檢事カ上訴ヲ爲シタルトキハ其理由ノ有無ニ拘ラス常ニ前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スルモノトス然レトモ上訴ノ審理中保釋又ハ責付セラレタルトキハ其日數ハ刑期ニ算入セス(刑法第五一條被告人ニ於テ上訴ヲ爲シタル後之ヲ取下ケタルトキハ未決拘留ヲ刑期ニ算入スヘキヤ此場合ニ於テハ明治十五年中司法卿ノ内訓ニ依レハ其間屆ノ日ヨリ刑期ヲ起算スルモノトス

刑ノ執行上一日ト稱スルハ二十四時間一月ト稱スルハ三十日一年ト稱スルハ曆ニ從テ又執行著手ノ初日ハ一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス(刑法第四九條)

(六) 罰金沒收等ノ刑ニ特別ナル規定 罰金沒收ノ言渡確定スルトキハ或ハ債權ヲ生シ或ハ物權ヲ生スヘキモノナルヘキモ現行法ニ於テハ此論理ヲ採用セサルモノノ如シ何トナレハ刑法附則第二十條ニ依レハ罰金附加罰金料料等ノ完納前犯罪人死亡スルトキハ之ヲ徵收セサルヲ以テナリ

罰金、沒收等ノ言渡モ亦檢事ノ命令ニ依リ之ヲ執行スルモノナリ

裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ罰金ヲ完納セサルトキハ一圓ヲ一日ニ折算シテ輕禁錮ニ換フ一圓ニ滿タサルモノモ一日ニ計算ス科料ヲ裁判確定ヨリ十日間内ニ完納セサルトキハ前同一ノ方法ヲ以テ拘留ニ換フルモノナリ之ヲ換刑命令ト謂フ換刑命令ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判長ニ於テ之ヲ爲スモノナリ罰金ノ高如何ニ多額ナルモ禁錮ノ期間ハ二年ヲ超過スルコトヲ得ス若シ禁錮限内罰金ヲ完納シタルトキハ禁錮ヲ免スヘキモノトス

(七) 監視ノ執行ニ特別ナル規則 監視ノ刑ノ執行ハ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムルニ在リ而シテ犯人ハ毎月二回所轄警察署ニ出頭シテ謹慎ヲ表シ監視表ニ認印ヲ受ケサルヘカラス又酒宴遊興ノ席其他群集ノ場所ニ參會シ或ハ擅ニ他ノ地方ニ旅行ヲ爲ス能ハス尙ホ其他詳細ノ事ハ刑法附則第二十一條以下ニ在リ

(八) 剝奪公權停止公權ハ有形上ノ執行ヲ要セス判決確定スレハ當然其效力ヲ生スルモノナリ故ニ剝奪公權ハ重罪ノ判決確定シタルトキハ直チニ其效力ヲ生シ犯人ハ其公權ヲ喪失シテ終身之ヲ行フコトヲ得サルモノナリ但シ復権ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス停止公權ニ付テハ禁錮及ヒ監視ノ執行中ハ當然公權ノ行使ヲ停止スルモノトス

(九) 公訴裁判費用差押物件還付ノ言渡ノ執行ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ爲シ贓物ノ返還損害ノ賠償私訴費用ノ言渡ノ執行ハ訴訟關係人ノ請求ニ因リ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲スヘキモノトス而シテ公訴裁判費用贓物ノ返還損害ノ賠償私訴費用等ノ言渡ハ犯人死亡スルモ其相續人ニ對シテ之カ執行ヲ爲スコトヲ得ヘシ刑法附則第五三條、第六二條故ニ右言渡確定スルトキハ罰金科料ノ言渡ト異ナリテ直チニ債權債務ノ關係ヲ生スルモノナルヤ推シテ知ルヘキナリ

### 第二章 復 權

重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ公權ヲ剝奪セラレ終身之ヲ行フ能ハサルモノナリトモ主刑ノ執行ヲ終リタル後永ク謹慎ニシテ改悛ノ情狀アルトキハ公權ヲ

刑罰シ置クノ必要ナシ故ニ法律上公權ヲ回復スルノ途ヲ設ケタルモノナリ然レトモ一旦刑罰シタル公權ヲ回復スルハ大事ナルヲ以テ勅裁ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス即チ公權ヲ回復スルハ天皇ノ大權ニ屬スルモノナリ(憲法第一六條刑法第六五條)

復権ノ請願ハ主刑ノ終リタル日ヨリ滿五年ヲ經過スルニ非サレハ之ヲ許サス又主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ニ對シテハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ許ササルモノトス(刑法第六三條)

大赦ニ因リテ罪ヲ免セラレタル者ハ直チニ復権ヲ得特赦ニ因リテ免罪ト爲リタル者ハ赦狀中記載アルニ非サレハ復権ヲ得サルモノトス

復権ノ請願ハ刑ノ言渡ヲ受クタル者ヨリ司法大臣ニ爲スモノナリ而シテ其願書ハ住居ノ地方裁判所檢事ニ差出シ同檢事ハ品行其他ノ調査ヲ爲シタル上意見書ヲ添ヘ司法大臣ニ差出スヘシ司法大臣ハ書類ヲ檢閲シ意見ヲ付シテ上奏スルモノナリ右願書ニ對シテハ却下ノ勅裁又ハ復権ノ御裁可アルモノナリ而シテ却下ノ勅

裁アリタルトキハ更ニ二年六箇月ヲ經過シタル後ニ非サレハ再ヒ復権ノ請願ヲ爲スヲ得サルモノトス復権ノ御裁可アリタルトキハ裁可狀ヲ願書提出ノ時ノ手順ヲ經テ地方裁判所檢事ニ送致シ同檢事ハ其謄本ヲ願人ニ下付シ且ツ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニモ之ヲ送致スヘシ其送致ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ判決原本ニ之ヲ記入スルモノトス

### 第三章 特 赦

特赦モ大赦及ヒ復権ト同様天皇ノ大權ニ屬スルモノナリ(憲法第一六條)

確定判決ニ依リ刑ノ執行中ト雖モ特別ノ情狀アル者ニハ特赦ヲ與ヘラルルモノトス

特赦ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事監獄署長典獄及ヒ司法大臣ナリトス檢事及ヒ監獄署長ハ其申立ヲ司法大臣ニ爲スヘシ監獄署長カ其申立ヲ爲スニハ檢事ヲ經由セサルヘカラス司法大臣ハ檢事及ヒ監獄署長ヨリ特赦ノ申立アルトキハ調査ヲ爲シタル上意見書ヲ添ヘ上

奏スルモノナリ

特赦ノ申立ハ刑ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス然レトモ死刑ニ付テハ其申立  
アルトキハ執行ヲ停止スルモノトス

特赦ノ申立ニ對シテモ却下ノ勅裁又ハ特赦ノ御裁可アルモノトス特赦ノ御裁  
可アリタルトキハ特赦狀ヲ檢事ニ送致シ檢事ハ復讐ノトキト同様其謄本ヲ受  
刑者ニ下付シ且ツ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニモ之ヲ送致スヘシ此場合ニ於  
テハ該裁判所ハ之ヲ判決原本ニ記入スルモノトス

刑事訴訟法 終

講習科規則摘要

一 乙種講習科ハ講義録ニ依リテ獨習ヲ爲スモノトス

講習期ハ二月ニ始リ十一月ニ終ル

一 講義録ハ各講師擔任ノ部分ヲ一括シテ配布ス

一 講習料ハ金拾貳圓トス但三十四年度ニ限り左ノ一部又ハ二部ヲ講習スルコトヲ得

第一部(民事訴訟法) 金六圓

第二部(商法、民法、經濟學) 金四圓

第三部(刑法、刑事訴訟法、行政法、憲法、國際私法、國際公法) 金五圓

右講習料ハ何レモ一个月分以上ヲ分納スルコトヲ得(但入學ノ際ニハ成ルヘシ)

一 講習生ハ講義録ニ掲載セル事項ニ付キ質問ヲ爲スコトヲ得但一間毎ニ別紙ニ認メ且一間毎

ニ一音信料ヲ添フルコトヲ要ス

一 講習料ハ和佛法律學校會計課宛ニテ送付スヘシ但郵券代用ハ一割増ノ事

明治二十二年十二月九日內務省許可

明治三十四年七月十日印刷

明治三十四年七月十三日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目廿八番地

編輯兼發行所 小田 幹治 郎

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地

印刷者 金子 鐵五 郎

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子 活版 所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

指定 (電話番町百七十四番)